

平成二十年度 第八回

学生生活実態調査(学群)

報告書 筑波大学



ま え が き

この度、「第8回筑波大学学生生活実態調査報告書（平成20年度）」が発行される運びとなりました。この調査は本学学生の生活実態を把握し、学生生活の一層の向上ならびに教育改善に資することを目的としたものです。

本調査は開学5年目の昭和53年度（1978）に第1回が実施され、以後5年毎に行われてきております。今回の調査は大学院学生対象も含めて通算8回目になります。

調査内容は経年変化や他大学との比較も考えて、前回のものを基本的には踏襲していますが、時代の変化や要請に合わせて見直し、一部の項目を削除したり、新しく追加しています。質問は学生の日常生活全般にわたり、就学状況、課外活動、大学行事への参加、進路やキャリア支援、また、学生の興味や関心事について51問と多岐にわたります。さらに大学への期待や要望などの自由記述欄を設けております。

調査は学群学生10,187人全員を対象とし、1年生が生活に慣れ、学園祭も経験した10月に実施されました。調査票回収率は48.6%で、前回の26.0%の2倍近くに伸びました。調査は学生生活支援室員と学生担当教員、学生生活課が中心となり、各部局支援室や教員の協力も得て行いました。

調査結果には、筑波大学学生の生活実態ならびに大学の学生支援の現状がよく見て取れると思います。本学の特徴や支援等の行き届いていない部分など、多様な読み取りができます。教職員の皆様はぜひこの報告に目を通され、学生の指導、助言に活用されることはもちろん、学生の充実したキャンパスライフが送れるような施策の提言につなげていただければと願っております。また、学外の皆様には、筑波大学の今を知っていただく最良の資料と考えております。なお、経年的な変化など、さらに詳細なデータをご覧になりたい場合は、学生生活支援室にお申し出ください。

さいごに、調査全般の遂行、調査結果の集計、分析、報告書の執筆と、大変な作業を担当いただいた学生生活支援室員、学生担当教員をはじめ、ご協力いただいた多くの方々に、心からお礼を申し上げます。

平成21年6月

学生担当副学長 西 川 潔

目 次

まえがき

概要

第8回学生生活実態調査（学群）概要	1
第1章 あなた自身について	11
1.1 性別・所属学類（専門学群）・在籍年次について（問1～問3）	11
1.2 現在のすまいについて（問4）	13
1.3 現在の居住地について（問5）	14
第2章 生活全般について	16
2.1 収入と支出について（問6）	16
2.2 アルバイトの経験について（問7）	18
2.3 アルバイトの種類について（問8）	19
2.4 アルバイトの理由について（問9）	22
2.5 食事の場所について（問10）	24
2.6 授業日の過ごし方について（問11）	24
2.7 生活リズムについて（問12）	25
2.8 インターネット利用の頻度について（問13）	26
2.9 インターネットの利用場所について（問14）	27
2.10 学生宿舎についての満足度について（問15）	28
2.11 日常生活に対する満足度について（問16）	29
第3章 通学・事故等について	30
3.1 通学の交通手段について（問17）	30
3.2 キャンパス交通システム利用証の所有について（問18）	30
3.3 キャンパス交通システムの利用頻度について（問19）	34
3.4 通学時間について（問20）	34
3.5 交通事故について（問21）	37
3.6 盗難被害について（問22）	37
3.7 傷害等の被害について（問23）	40

第4章 健康状態について	42
4.1 過去1年間の健康状態について (問24)	42
4.2 学生相談について (問25)	43
4.3 精神的な健康状態について (問26)	44
第5章 クラス制度、学生組織、サークル活動等について	45
5.1 クラスの機能について (問27)	45
5.2 クラスで集まる機会について (問28)	46
5.3 学生組織の活動について (問29)	47
5.4 サークル活動の有無について (問30)	48
5.5 サークル活動の主な動機について (問31)	49
5.6 サークル活動の学業への影響について (問32)	51
第6章 交友等について	52
6.1 友人関係について (問33)	52
6.2 相談しやすい人について (問34)	52
第7章 筑波大学の志望理由等について	54
7.1 志望理由について (問35)	54
7.2 筑波大学のイメージについて (問36)	54
第8章 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望について	56
8.1 教員に期待することについて (問37)	56
8.2 教育面や制度面で不十分な点について (問38)	56
8.3 整備・充実して欲しい施設について (問39)	57
8.4 TWINSの満足度について (問40)	58
8.5 キャンパス内のマナーについて (問41)	59
8.6 緊急連絡の方法について (問42)	60
第9章 進路や就職活動について	62
9.1 卒業後の進路について (問43)	62
9.2 進路決定の際の相談相手について (問44)	63
9.3 進路を決める理由について (問45)	64
9.4 CARIO(つくばキャリアポートフォリオ)の活用について (問46)	64
9.5 就職活動に役立つ情報源について (問47)	65
9.6 就職活動の学習への影響について (問48)	66

第10章 その他	67
10.1 3学期制について (問 49)	67
10.2 定期的に読む学内広報誌について (問 50)	67
10.3 学外研修施設利用の有無について (問 51)	68
第11章 自由記述	69

第8回学生生活実態調査（学群）概要

1. 調査の目的

筑波大学では、学群学生に対して1978年（昭和53年）度から2003年（平成15年）度まで5年毎に6回の学生生活実態調査を実施してきた。1995年（平成7年）度に第5回調査として大学院学生を対象として実施したため、今回の調査は通算8回目の調査となる。なお、今回は大学院学生に対する調査も同時並行的に実施され、その結果は別冊子『平成20年度筑波大学大学院学生生活等に関するアンケート調査報告書』としてまとめられている。

今回の調査の目的は、前回に引き続き、「学生生活の実態を把握し、本学の学生生活の一層の向上および教育改善に資すること」とした。

2. 実施方法の検討と調査項目の設定

学生生活支援室では、2008年度が前回の学生生活実態調査から5年目に当たり、8回目の調査を実施すべき年度であるため、4月に入るとすぐに準備にとりかかった。第1回学生生活支援室会議において、室長から学生生活実態調査の実施に向けて、室員全員への協力要請があり、第2回会議では、前回（平成15年度）の調査票設問項目をもとに、室員が分担して設問の検討を行い、設問総数を大幅に減らす方向で第1次案を作成している。第3回会議では、さらに室員間で意見交換を行い、設問を厳選するとともに、「学生生活実態調査WG」を設置し、さらなる設問項目の検討と実施に関する具体案の作成をWGで行うこととした。WGは5月から8月にかけて6回開催され（大学院学生向け調査票の検討等も含む）、それ以外に、メーリングリストを用いての意見交換は数えきれないほどの回数になった。WGのメンバーには、加賀信広室長、呉羽正昭副室長、稀代麻也子室員、鎮目浩輔室員、桑山秀一室員の各教員の他に、学生生活課から高橋義宏課長補佐、関本明雄係長、大手昇一主任にも加わってもらった。

調査項目の検討作業を進める中で、キャリア支援室と就職課の方には「進路や就職活動」にかかわる部分について検討をお願いし、設問の設定にご協力いただいた。また、全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の調査委員会からは、学生の立場から設問全般に対する貴重な意見を得ることができた。

すでに述べたように、調査項目の設定においては、回答率を向上させるためにも、設問総数を減らすことが重要であるとの認識から、項目を厳選する作業が続けられた。その結果、前回調査で77問であった調査項目は、今回は51問に減らされている。この設問数でも多すぎるとの意見がなかったわけではないが、この調査が定期的実施されており、経年変化を記録しておくために主要な設問は削るべきでないこと、大学内外の最近の変化に対応すべく、わずかながら新しい項目を設定したことなどがあり、このような設問数に落ち着くことになった。最終的に新しく増えた設問には、キャンパス交通システムや3学期制に関するものなどがある。

実施方法としては、全学群学生を対象とすること、調査票の配布および回収は、回答率の向上のために、できる限り教育組織の協力を得て行うことなどが、方針として確認された。実施時期については、準備を始めたのが4月であったため、必然的に2学期以降の実施にならざるを得なかったが、年度内に調査結果の分析および報告書の刊行を行うためには、それほど遅くない時期に行うべきであるとの判断から、前回と同様、10月の実施となった。また、TWINS（筑波大学学務システム）等を利用して、学生にWeb上で回答してもらう方式も検討されたが、プライバシーの保持や回答の制御に不安があり、他大学で同様の方法で実施した場合に、極端に回答率が低かったとの報告もあったために、従来通り、紙媒体による調査とすることにした。

以上のような準備作業を経て、第9回学生担当教員会議（6月24日開催）および平成20年度第4回学群教育会議（7月15日開催）に「第8回筑波大学学生生活実態調査」の実施案が提案され、調査の実施が了承された。両会議において、またその後の一定期間内に、学生担当教員および学群長・学類長等から調査票および実施方法についていくつかの重要な意見が出されたため、それに応じてWGで検討を行い、調査票の修正などの作業を行った。最終的に8月末に開催したWGで調査票を確定させ、実施の細部について詰めの作業を行った。そこでは、大学院学生向けのアンケート調査と同時平行的に実施するため、混乱を招かないように、学群学生向けの調査票は黄色（大学院学生向けの調査票は青色）にすること、回収箱を各支援室に設置することなどを決め、9月4日開催の第8回学生生活支援室会議で確認を得ている。また、第5回学群教育会議（9月16日開催）では、各教育組織に対して調査実施の協力依頼が行われている。

3. 調査の実施

10月上旬に調査票が各学類・専門学群に届けられ、10月8日（水）から各教育組織の実情に合わせて配布および回収が開始された。実施期間は10月31日（金）までとした。実施期間中、またその後の回収作業においても、トラブルなど問題になることはなく、とりわけ学生生活課と各支援室の担当事務員の方々のご尽力により、スムーズに調査を実施することができたのはたいへん有難かった。さらに回収率は全体で、前回の26.0%から、今回は48.6%にまで向上させることができた。これは、学群長・学類長を始め、各教育組織の教員・職員の方々のひとかたならぬお骨折りの賜物である。心より感謝申し上げたい。

4. 調査結果の分析と報告書の作成

11月上旬に調査票の回収を終え、データの集計を業者に委託した。予定では、データ集計は12月中に終了し、1月から集計結果を踏まえて、各項目の分析と報告書の作成に取りかかるはずであった。しかし、前述のように、回収率がほぼ倍増し、また大学院学生対象のアンケート調査についても同時平行的に作業を進める必要があったため、データ数が予想を大きく超えてしまい、業者から最終的な集計結果が届いたのは、2月に入ってからであった。そのため、データの分析と報告書の原稿執筆をお願いすることを予定していた学生生活支援室員と学生担当教員の先生方に、実際に報告書の作成要領などを示し、作業の依頼を行ったのは2月10日ごろとなった。このような事情で、本報告書を年度内に刊行することは断念せざるをえず、平成21年度に入ってからでの発刊となってしまった次第である。ご迷惑をお掛けした関係者の方々にはお詫びを申し上げなければならない。

本報告書の原稿は、以下に挙げる方々に用意していただいたが、時間的な余裕のないスケジュールの中で、データの分析を行い、要領よく原稿を作成していただいたことに感謝したい。なお、今回の学生生活実態調査は、2007年度に施行された学群・学類の改組再編にともない、新旧学群組織が共存する状態の中で実施されたため、学群・学類別のデータを表ないし図で提示する際に、通常のほぼ2倍のスペースを要することとなった。そのため、学群・学類別のデータの提示をあえて控えた項目もある。学群・学類別のデータを含め、詳細な資料については、平成21年3月に刊行された『第8回学生生活実態調査統計資料集』を参照されたい。

執筆分担：

概要	加賀 信広	学生生活支援室長（人文社会科学研究科）
問（1）～問（5）	秋山 学	学生生活支援室副室長（人文社会科学研究科）
問（6）～問（9）	小池 関也	学生担当教員（体育・人間総合科学研究科）
問（10）～問（14）	福住 多一	学生担当教員（社会・人文社会科学研究科）
問（15）～問（16）	八木 勇治	学生担当教員（地球・生命環境科学研究科）
問（17）～問（20）	岡本 直久	学生担当教員（社工・システム情報工学研究科）
問（21）～問（23）	柴山 大賀	学生担当教員（看護・人間総合科学研究科）
問（24）～問（26）	杉江 征	学生生活支援室員（人間総合科学研究科）
問（27）～問（29）	那須 昭夫	学生担当教員（人文・人文社会科学研究科）
問（30）～問（32）	澤江 幸則	学生生活支援室員（人間総合科学研究科）
問（33）～問（36）	稀代麻也子	学生生活支援室員（人文社会科学研究科）
問（37）～問（39）	望月 聡	学生担当教員（心理・人間総合科学研究科）
問（40）～問（42）	福井 和広	学生担当教員（情報・システム情報工学研究科）
問（43）～問（48）	久保田 優	就職課課長補佐
問（49）～問（51）	小野田雅重	学生担当教員（物理・数理物質科学研究科）
自由記述	秋山 学	学生生活支援室副室長（人文社会科学研究科）
	呉羽 正昭	学生生活支援室副室長（生命環境科学研究科）
	葛山 泰央	学生生活支援室員（人文社会科学研究科）
	桑山 秀一	学生生活支援室員（生命環境科学研究科）
	野口 巧	学生生活支援室員（数理物質科学研究科）
	程塚 敏明	学生生活支援室員（人間総合科学研究科）

第8回 筑波大学学生生活実態調査

*** お願い ***

この調査は、皆さんの学生生活の実態を把握し、本学の学生生活の一層の向上および教育改善に資することを目的として実施するものです。今回の調査対象者は、すべての学群・学類の学生諸君です。この調査は無記名で行うものであり、他の目的に用いることはありませんので、ありのままを記入してください。

調査結果は、実態調査報告書として公表し、必要な方策を講じる予定です。

本学では、これまで定期的に実態調査を実施しており、今回が8回目の調査にあたります。この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

平成20年10月

筑波大学 副学長（学生生活担当） 腰塚 武志

1. 記入について

- ① 回答は、すべてこの調査用紙（全7ページ）に記入してください。
- ② 回答は、番号を選ぶ選択方式と、具体的に記入または記述するものがあります。番号選択方式の場合は該当する番号に○をつけ、記入または記述の場合は指定された欄に書き込んでください。
- ③ 氏名・学籍番号などあなた自身を特定しうる情報を書く必要はありません。回収した調査用紙は無記名のまま統計的に処理されます。
- ④ 平成20年10月1日現在で記入してください。

2. 実施期間

平成20年10月8日（水）～平成20年10月31日（金）

3. 回収方法

指導教員・授業担当教員に提出するか、あるいは、各支援室に設置されている「回収箱」に投函してください。

4. 問い合わせ

この調査についてのご質問・ご意見等は、学生生活支援室：電話 029-853-2465 にご連絡ください。

~~~~~ I. あなた自身について ~~~~~

問(1) あなたの性別をお答えください。

1. 男性                      2. 女性

問(2) あなたの所属する学類あるいは専門学群の番号に○を付けてください。

・1～2年次

- |               |              |                |            |
|---------------|--------------|----------------|------------|
| 人文・文化学群       | 社会・国際学群      | 人間学群           | 生命環境学群     |
| 1. 人文学類       | 4. 社会学類      | 6. 教育学類        | 9. 生物学類    |
| 2. 比較文化学類     | 5. 国際総合学類    | 7. 心理学類        | 10. 生物資源学類 |
| 3. 日本語・日本文化学類 |              | 8. 障害科学類       | 11. 地球学類   |
| 理工学群          |              | 情報学群           |            |
| 12. 数学類       | 15. 応用理工学類   | 18. 情報科学類      |            |
| 13. 物理学類      | 16. 工学システム学類 | 19. 情報メディア創成学類 |            |
| 14. 化学類       | 17. 社会工学類    | 20. 知識情報・図書館学類 |            |

医学群

- 21. 医学類
- 22. 看護学類
- 23. 医療科学類

専門学群

- 24. 体育専門学群
- 25. 芸術専門学群

・ 3 年次以上

第一学群

- 26. 人文学類
- 27. 社会学類
- 28. 自然科学類

第三学群

- 34. 社会工学類
- 35. 国際総合学類
- 36. 情報学類
- 37. 工学システム学類
- 38. 工学基礎学類

第二学群

- 29. 比較文化学類
- 30. 日本語・日本文化学類
- 31. 人間学類
- 32. 生物学類
- 33. 生物資源学類

専門学群

- 39. 医学専門学群医学類
- 40. 医学専門学群看護・医療科学類
- 41. 体育専門学群
- 42. 芸術専門学群
- 43. 図書館情報専門学群

問(3) あなたの在籍年次の番号一つに○を付けてください。

- 1. 1年次
- 2. 2年次
- 3. 3年次
- 4. 4年次
- 5. 医学5年次
- 6. 医学6年次

問(4) あなたの現在のすまいについて、あてはまる番号一つに○を付けてください。

- 1. 筑波大学学生宿舎
- 2. 民間のアパート・マンションなど
- 3. 親と同居
- 4. 親戚・知人宅
- 5. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問(5) あなたの現在の居住地について、あてはまる番号一つに○を付けてください。

- |                |   |       |                       |                   |          |         |
|----------------|---|-------|-----------------------|-------------------|----------|---------|
| ・ 筑波大学内の       | → | 1. 追越 | 2. 平砂                 | 3. 一の矢            | 4. 春日    |         |
| ・ 筑波大学外でつくば市内の | → | {     | 5. 天久保                | 6. 春日             | 7. 桜     | 8. 柴崎   |
|                |   |       | 9. 吾妻                 | 10. 栗原            | 11. 要    | 12. 東平塚 |
|                |   |       | 13. 花畑                | 14. その他 ( _____ ) |          |         |
| ・ つくば市以外で茨城県内の | → | {     | 15. 県南地域              | 16. 県西地域          | 17. 県央地域 |         |
|                |   |       | 18. 鹿行地域              | 19. 県北地域          |          |         |
| ・ 茨城県外で関東地方の   | → |       | 20. 東京都               | 21. 千葉県           | 22. 埼玉県  | 23. その他 |
|                |   |       | 24. 上記以外の地域 ( _____ ) |                   |          |         |

II. 生活全般について

問(6) あなたの1か月の平均的な収入と支出についてお答えください(臨時の収入や支出を除いた1か月の平均を、例えば35,000円の場合は3.5万円と書いてください)。

- |                                  |                                                |
|----------------------------------|------------------------------------------------|
| 〔収入〕                             | 〔支出〕                                           |
| A 仕送り ( ____ . ____ 万円)          | F 食費 ( ____ . ____ 万円)                         |
| B 奨学金 ( ____ . ____ 万円)          | G 住居費(家賃, 共益費, 光熱費等) ( ____ . ____ 万円)         |
| C アルバイト ( ____ . ____ 万円)        | H 就学費(授業料を除く図書, 文房具等) ( ____ . ____ 万円)        |
| D その他( _____ ) ( ____ . ____ 万円) | I 交通費(定期代, ガソリン代, 駐車場代等) ( ____ . ____ 万円)     |
| E 収入合計 ( ____ . ____ 万円)         | J 通信費(電話料, 郵便料等) ( ____ . ____ 万円)             |
|                                  | K その他(交際費, 教養娯楽費, 被服費, 医療費等) ( ____ . ____ 万円) |
|                                  | L 支出合計 ( ____ . ____ 万円)                       |

問(7) 過去6か月間にアルバイトをしましたか?

- 1. 全くしなかった → 問(10)へ進んでください。
- 2. 定期的なアルバイトをした
- 3. 臨時的なアルバイトをした
- 4. 上記2・3両方のアルバイトをした

以下の問(8)～問(9)の2問には、過去6カ月間にアルバイトをした方が回答してください。

問(8) アルバイトの種類はどのようなものですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 家庭教師 2. 塾講師、添削指導 3. 一般事務 4. 特殊技能（翻訳、通訳など）の活用  
 5. 飲食店でのウェイター、ウェイトレス、レジ係、調理係等 6. 飲食店以外の軽労働（調査、販売、配達等）  
 7. 建築・土木作業、工事現場、工場等での重労働 8. 建物倒壊作業、劇薬取扱い作業等の危険作業  
 9. その他（ \_\_\_\_\_ ）

問(9) アルバイトをした理由はなんですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 学費や生活費のため 2. サークル活動費のため 3. 自動車等の購入・維持費のため  
 4. 携帯電話の料金などのため 5. レジャー・海外旅行のため 6. 時間の有効活用のため  
 7. 技術を得るため 8. 友人を得るため 9. その他（ \_\_\_\_\_ ）

問(10) 食事は主にどのようにして摂っていますか？朝食・昼食・夕食のそれぞれについて下の○数字の番号一つを記入してください。

朝食（ \_\_\_\_\_ ） 昼食（ \_\_\_\_\_ ） 夕食（ \_\_\_\_\_ ）

- ①自宅（アパート・宿舎等）での自炊 ②学生宿舎の食堂 ③学内の食堂  
 ④学外のファミリーレストラン・飲食店等 ⑤店舗（コンビニ・ファーストフード等を含む）で弁当など購入  
 ⑥その他（ \_\_\_\_\_ ） ⑦ほとんど食べない

問(11) 授業がある日の平均的な1日の過ごし方についてお答えください。

1. 授業出席および予習・復習等の学習時間（平均 \_\_\_\_\_ 時間） 2. 授業以外の勉強時間（平均 \_\_\_\_\_ 時間）  
 3. サークル・ボランティアなどの活動時間（ \_\_\_\_\_ 時間） 4. アルバイト時間（ \_\_\_\_\_ 時間）  
 5. コンピュータや携帯電話を使用する時間（ \_\_\_\_\_ 時間） 6. 睡眠時間（ \_\_\_\_\_ 時間）

（次の7と8は、およその時刻を24時間制で記入してください）

7. 起床時刻（だいたい \_\_\_\_\_ 時頃） 8. 就寝時刻（だいたい \_\_\_\_\_ 時頃）

問(12) あなたの生活リズムをどのように感じていますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 規則正しい 2. やや不規則 3. 不規則

問(13) あなたはインターネットをどのくらいの頻度で利用していますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。（電子メールだけのインターネット利用は除く）

1. 週6～7日 2. 週4～5日 3. 週2～3日  
 4. 週あたり1日またはそれ以下 5. まったく利用しない

問(14) あなたはインターネットを主にどこで利用していますか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 所属学類／専門学群のパソコン 2. 附属図書館のパソコン 3. 学術情報メディアセンターのパソコン  
 4. その他の学内のパソコン 5. 学内で自分のパソコンから 6. 学生宿舎のLANを利用して  
 7. 自宅のパソコン 8. 携帯電話(PHSを含む)単体で利用 9. インターネットカフェ・マンガ喫茶  
 10. その他の場所（ \_\_\_\_\_ ） 11. 利用しない

次の問(15)は、学生宿舎に入居している、または、入居していた方が回答してください

問(15) 学生宿舎のA～Jに関する満足度について、それぞれあてはまる番号一つに○を付けてください。

|            | 満足 | まあ満足 | 普通 | やや不満 | 不満 |         | 満足 | まあ満足 | 普通 | やや不満 | 不満 |
|------------|----|------|----|------|----|---------|----|------|----|------|----|
| A 居室       | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  | B 補食室   | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  |
| C 洗濯室      | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  | D トイレ   | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  |
| E 浴場       | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  | F 売店    | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  |
| G 認証システム   | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  | H 外灯    | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  |
| I 管理事務所の対応 | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  | J 全体として | 1  | 2    | 3  | 4    | 5  |

問(16) 現在の日常生活に、全体として、満足していますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. かなり満足 2. おおむね満足 3. どちらとも言えない  
 4. 少し不満 5. かなり不満

Ⅲ. 通学・事故等について

問(17) あなたが1回の通学のために利用している交通手段はどのようなものですか？雨天および雨天以外の日のそれぞれについて、下の○数字の番号四つまでを記入してください。

雨天時：( ) , ( ) , ( ) , ( )

雨天以外：( ) , ( ) , ( ) , ( )

- ①徒歩                      ②自転車                      ③バイク（原付を含む）                      ④自家用車  
 ⑤キャンパス交通システム（学内循環バス）                      ⑥学内循環バス以外の路線バス                      ⑦つくばエクスプレス（TX）  
 ⑧JR常磐線                      ⑨その他-1（ ）                      ⑩その他-2（ ）

問(18) キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用証を持っていますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 持っている                      2. 持っていないが去年以前は持っていた                      3. 持ったことはない

問(19) キャンパス交通システム（学内循環バス）の利用頻度はどのくらいですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. ほぼ毎日                      2. 週に2～3回                      3. 月に2～3回                      4. 年に数回  
 5. いままで数回                      6. 利用したことはない

問(20) 雨天の日以外のあなたの通学時間は片道どのくらいですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 15分未満                      2. 15分～30分                      3. 30分～45分                      4. 45分～1時間  
 5. 1時間～1時間半                      6. 1時間半～2時間                      7. 2時間以上

問(21) 大学入学後、交通事故の経験がありますか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 加害者になったことがある                      2. 被害者になったことがある  
 3. 自損事故の経験がある                      4. 事故の経験はない

問(22) 大学入学後、盗難の被害に遭ったことがありますか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 学内で被害に遭った                      2. 学生宿舎内で被害に遭った                      3. 学外で被害に遭った                      4. 被害に遭ったことはない

問(23) 大学入学後、引ったくりや暴行・傷害・たかり・恐喝などの被害に遭ったことはありますか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 学内で被害に遭った                      2. 学生宿舎内で被害に遭った                      3. 研究学園都市内で被害に遭った  
 4. 上記以外の場所で被害に遭った                      5. 被害に遭ったことはない

Ⅳ. 健康状態について

問(24) あなたの過去1年間の健康状態はどのようなですか？あてはまる番号四つ以内に○を付けてください。

1. 健康である                      2. 数日寝込んだ（入院を除く）                      3. 病気で通院した                      4. けがで通院した  
 5. 病気で入院した                      6. けがで入院した                      7. その他（ ）

問(25) 保健管理センターにある学生相談室で相談したいことがありますか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 専攻や学類・専門学群の変更                      2. 学習意欲                      3. 休学・退学                      4. 進路・就職  
 5. 恋愛関係                      6. 対人関係                      7. 家族関係                      8. 性格                      9. 情緒                      10. 経済状態  
 11. セクシャルハラスメント                      12. アカデミックハラスメント                      13. パワーハラスメント  
 14. その他（ ）                      15. 特になし

問(26) 次の事柄について、あなたの感じ方に最も近いのはどれですか？A～Fのそれぞれについて、あてはまる番号一つに○を付けてください。

|                         | とても<br>当てはまる | 少し<br>当てはまる | あまり<br>当てはまらない | まったく<br>当てはまらない |
|-------------------------|--------------|-------------|----------------|-----------------|
| A 自分のやりたいことができている       | 1            | 2           | 3              | 4               |
| B 何となく不安になることがある        | 1            | 2           | 3              | 4               |
| C 自分のことをよく分かってくれている人がいる | 1            | 2           | 3              | 4               |
| D 何をやってもうまくいかない気がする     | 1            | 2           | 3              | 4               |
| E 気分が沈んでいる              | 1            | 2           | 3              | 4               |
| F 大学生活が充実している           | 1            | 2           | 3              | 4               |

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 V. クラス制度、学生組織、サークル活動等について 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

- 問(27) あなたのクラスは、どのように機能していますか？あてはまる番号二つ以内に○を付けてください。
1. 大学への要望をまとめる
  2. 大学からの情報を学生に連絡する
  3. 行事を企画運営する
  4. 友人・知り合いをつくる
  5. クラス担任教員とのつながりを維持する
  6. その他 ( \_\_\_\_\_ )
  7. 機能していない
- 問(28) 授業以外に、クラスで集まる機会がありますか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。
1. クラス会議で
  2. コンパで
  3. やどかり祭で
  4. スポーツ・デーで
  5. 学園祭で
  6. その他 ( \_\_\_\_\_ )
  7. 特にない
- 問(29) 学生組織（クラ代会、全代会など）の活動についてお答えください？あてはまる番号一つに○を付けてください。
1. よく知っている
  2. まあまあ知っている
  3. あまり知らない
  4. まったく知らない
- 問(30) サークル活動について、あてはまる番号一つに○を付けてください。
1. 現在活動中
  2. 以前は活動していた
  3. 活動したことはない→問(33)へ進んでください。

**以下の問(31)～(32)は、現在サークル活動をしている、または、以前していた方のみが回答してください**

- 問(31) サークル活動の動機はどのようなものですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。
1. 友人が欲しくて
  2. 知識、教養のため
  3. 健康のため
  4. 技術向上のため
  5. 団体生活を経験したい
  6. 趣味と一致
  7. 余暇の利用のため
  8. レクリエーションの一環で
  9. 希望の進路と同じで有益
  10. 就職などにプラス
  11. 高校時代からの継続
  12. 勧誘されて
  13. その他 ( \_\_\_\_\_ )
- 問(32) サークル活動の学業への影響はどのようですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。
1. かなりマイナスの影響がある
  2. 少しマイナスの影響がある
  3. どちらともいえない
  4. 少しプラスの影響がある
  5. 大いにプラスの影響がある

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 VI. 交友等について 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

- 問(33) 大学入学後、あなたの友人関係はどのようですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。
1. 友人に恵まれ、充実している
  2. 友人はいるが、親友と言える人はいない
  3. 友人も親友もいるが、なぜか孤独感がある
  4. 友人も親友もなく寂しい
  5. 友人はいないが、特に寂しくはない
- 問(34) プライベートなこと相話しやすい人はどなたですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。
1. クラス担任教員
  2. 学生担当教員
  3. 指導教員
  4. サークルの顧問教員
  5. その他の教員
  6. 保健管理センターのカウンセラー
  7. スチューデントプラザの教職員
  8. 事務職員
  9. 先輩・後輩
  10. 友人・恋人
  11. 家族
  12. その他 ( \_\_\_\_\_ )
  13. 特にない

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 VII. 筑波大学の志望理由等について 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

- 問(35) 筑波大学を志望した主な理由について、あてはまる番号二つ以内に○を付けてください。
1. 教育や研究の特色に魅かれて
  2. 施設や設備が充実している
  3. 受験の実力ランクを考えて
  4. 推薦入学制度があったので
  5. 高校の先生や家族に勧められて
  6. 大学説明会に参加して
  7. 筑波研究学園都市にある大学なので
  8. TXを利用して東京に出やすい
  9. 他大学の受験に失敗、あるいは断念して
  10. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問(36) 入学前と入学後の筑波大学のイメージについて、それぞれ、あてはまる○数字の番号を三つまで記入してください。

- A 入学前 ( ) ( ) ( )      B 入学後 ( ) ( ) ( )
- ①伝統      ②新構想      ③教育      ④研究      ⑤開かれた      ⑥閉ざされた  
⑦科学技術      ⑧スポーツ      ⑨国際性      ⑩研究学園都市      ⑪首都圏      ⑫自由  
⑬管理      ⑭その他-1 ( \_\_\_\_\_ )      ⑮その他-2 ( \_\_\_\_\_ )

Ⅷ. 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望等について

問(37) 筑波大学の教員に特に期待することはどのようなことですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 学問の厳しさを教えて欲しい      2. 良い研究者より、良い教育者であって欲しい  
3. 授業内容を充実させて欲しい      4. もっと解りやすく教えて欲しい  
5. 研究成果を教育の現場にもっと反映して欲しい      6. 休講を無くして欲しい  
7. 学生との対話の場を持って欲しい      8. 社会的実践との結び付きを示して欲しい  
9. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問(38) 教育面や制度面で不十分であると感じるのはどのようなことですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 教育スタッフ      2. カリキュラム      3. 教職課程      4. 課外教育プログラム（講演会・講習会等）  
5. 留学制度      6. 就職説明会      7. クラス制度      8. 学生組織      9. 奨学金・授業料免除  
10. 課外活動に対する支援      11. ボランティア活動に対する支援      12. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問(39) キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいのはどれですか？あてはまる番号四つ以内に○を付けてください。

1. 教室、実験室      2. 図書館      3. IT環境      4. 体育施設      5. 課外活動施設  
6. 学内の食堂      7. セキュリティ      8. 駐車場      9. 自転車置き場      10. 学内循環バス  
11. ペDESTリアン      12. 外灯      13. 売店      14. 自動販売機  
15. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問(40) 学務システム：TWINsについて満足していますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 満足している      2. 満足とも、不満とも言えない      3. 不満である（理由： \_\_\_\_\_ ）

問(41) 筑波大学生のキャンパス内でのマナーに関して向上を望みたいことはどのようなことですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 自動車・バイクの運転マナー      2. 自動車の駐車マナー      3. 自転車の運転マナー  
4. 自転車・バイクの駐輪マナー      5. アルコールハラスメント      6. 各種の勧誘活動  
7. その他 ( \_\_\_\_\_ )      8. 特になし

問(42) 大学からあなたに緊急の連絡をするとき、どの方法で連絡して欲しいですか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 携帯電話による通話      2. 携帯電話のメール      3. パソコンのメール      4. 自室の固定電話  
5. 自室のFAX      6. 支援室の掲示板      7. その他 ( \_\_\_\_\_ )

Ⅸ. 進路や就職活動について

問(43) あなたの卒業後の進路は？

- 進学 → 1. 筑波大学大学院      2. 国内の他大学大学院      3. 海外の大学院      4. その他 ( \_\_\_\_\_ )  
就職 → 5. 企業      6. 教員      7. 公務員      8. 自営      9. その他 ( \_\_\_\_\_ )  
10. その他 ( \_\_\_\_\_ )      11. まだ考えていない

問(44) あなたの進路決定の際の主な相談相手はどなたですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。

1. 家族      2. 親戚、知人      3. 友人、先輩      4. 教員      5. 事務職員      6. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問(45) あなたが進路を決めた(決める)主な理由はどのようなことですか？あてはまる番号二つ以内に○を付けてください。

1. やりがい      2. 社会的貢献      3. 給与が多い      4. 安定した生活  
5. 自分の能力や適性      6. 専門知識を深める      7. 大学で学んだことが生かせる      8. 社会的評価  
9. 将来性      10. 地理的利便性      11. その他 ( \_\_\_\_\_ )

次の問(46)は、1年生及び2年生のみ回答してください。

- 問(46) あなたは、C A R I O (つくばキャリアポートフォリオ)を活用していますか？
1. 現在、活用している
  2. 時々、活用している
  3. フレッシュマンセミナーでのみ活用した
  4. 活用していない

以下の問(47)～問(48)の2問には、就職活動をした方と、就職活動中の方が回答してください。

- 問(47) 就職活動に役立った主な情報源は何ですか？あてはまる番号三つ以内に○を付けてください。
1. 就職情報誌
  2. 企業からのDM
  3. インターネットによる企業情報
  4. 就職課・キャリア支援室
  5. スチューデントプラザの就職資料コーナー
  6. 大学の就職情報提供システム
  7. 就職ガイダンス
  8. 企業によるインターンシップ
  9. O B ・ O G 訪問
  10. その他 ( \_\_\_\_\_ )
- 問(48) 就職活動によって、大学での学習に支障が出ましたか？あてはまる番号一つに○を付けてください。
1. 支障はまったく出ていない
  2. 支障はほとんど出ていない
  3. 支障が多少は出ている
  4. 支障が非常にしている

X. その他

- 問(49) 筑波大学の3学期制についてどう思いますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. 満足
2. ほぼ満足
3. やや不満 (その理由: \_\_\_\_\_ )
4. 不満 (その理由: \_\_\_\_\_ )

- 問(50) 定期的に読む学内広報誌は何ですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

1. 筑波大学新聞
2. つくばスチューデント
3. C a m p u s
4. 筑波スポーツ
5. その他 ( \_\_\_\_\_ )

- 問(51) 筑波大学の学外研修施設(山中湖, 館山, 石打)を利用したことはありますか？あてはまる番号一つに○を付けてください。

1. ある
2. ない
3. 存在を知らない

XI. 自由記述

大学の教育や学生生活全般に対して、要望や提言等があれば記入してください。なるべく見出しとなるタイトルを付けて箇条書きにしてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

ご協力ありがとうございました。

# 第1章 あなた自身について

## 1.1 性別・所属学類（専門学群）・在籍年次について（問1～問3）

今回の学生生活実態調査は、2007年度に施行された学群・学類の改組再編にともない、1・2年次生が新組織による学類・専門学群に所属する一方、3年次生以上は旧組織に所属する状態で行われた。両組織は細部において一致していないため、全学を総括したかたちでの統計解析は無意味でもあり、その試みは放棄せざるを得なくなった。

回収率の表 1.1.1～表 1.1.3には、本学の全学群学生数およびそのうちに占める女子学生の数で最下段に示されている（いずれも実態調査の実施と同じく平成20年10月1日時点でのもの）。これらは、任意回答による今回の実態調査とは厳密な意味において無関係であるが、「性別」の問いに関連するためここで触れておく。女子学生の割合は、全学規模では39.8%であり、現在、学群レベルでは全学生のほぼ4割を女子学生が占める。

学年別に見た女子学生の割合は、1年次：39.8%、2年次：41.7%、3年次：41.4%、4年次：38.0%となっている。5年前、前回の実態調査の時点での女子学生の割合は38.2%であった。2005年夏には、問(4)・問(5)欄で後述するようにつくばエクスプレスの開通があり、それ以降、自宅通学生数が年々増加する傾向が始まった。これにより首都圏からの通学も可能となり、自宅からの通学をより望むであろう女子学生の数も、TXの開通に伴って微増する傾向にあると言えるであろうか。

一般的な回収率については、前回の実態調査では26.0%であったため、今回の48.6%という数値はきわめて優秀であると言えよう。年次別に見ると、1年次：58.0%、2年次：52.5%、3年次：48.4%、4年次：34.4%となっていて、低年次生ほど回収率が高い。

学類・専門学群によって回収率はまちまちであるが、90%を超える学類がある一方で、一ケタの回収率を示す場合も見受けられる。

表 1.1.1 平成20年度（第8回）筑波大学 学生生活実態調査回収率〔1〕（全学）

|          | 在籍学生数  | 回収票数  | 回収率   |
|----------|--------|-------|-------|
| 男性       | 6,133  | 2,977 | 48.5% |
| 女性       | 4,054  | 1,909 | 47.1% |
| 無効・無回答   |        | 41    |       |
| 未記入・白紙回答 |        | 26    |       |
| 全体       | 10,187 | 4,953 | 48.6% |



表 1.1.2 平成 20 年度 (第 8 回) 筑波大学 学生生活実態調査 回収率 [2] (新組織)

| 学群                  | 学類         | 在籍学生数<br>(平成 20 年 10 月 1 日現在) |       |       | 回収票数  |       |       | 回収率    |       |       |
|---------------------|------------|-------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
|                     |            | 1 年次                          | 2 年次  | 合計    | 1 年次  | 2 年次  | 合計    | 1 年次   | 2 年次  | 合計    |
| 文化学群<br>人文・<br>社会学群 | 人文学類       | 125                           | 122   | 247   | 98    | 12    | 110   | 78.4%  | 9.8%  | 44.5% |
|                     | 比較文化学類     | 95                            | 97    | 192   | 40    | 24    | 64    | 42.1%  | 24.7% | 33.3% |
|                     | 日本語・日本文化学類 | 46                            | 46    | 92    | 27    | 22    | 49    | 58.7%  | 47.8% | 53.3% |
|                     | 小計         | 266                           | 265   | 531   | 165   | 58    | 223   | 62.0%  | 21.9% | 42.0% |
| 国際学群<br>社会・<br>人間学群 | 社会学類       | 91                            | 86    | 177   | 42    | 27    | 70    | 46.2%  | 31.4% | 39.5% |
|                     | 国際総合学類     | 87                            | 95    | 182   | 19    | 10    | 29    | 21.8%  | 10.5% | 15.9% |
|                     | 小計         | 178                           | 181   | 359   | 61    | 37    | 99    | 34.3%  | 20.4% | 27.6% |
| 環境学群<br>生命・<br>理工学群 | 教育学類       | 42                            | 39    | 81    | 22    | 18    | 40    | 52.4%  | 46.2% | 49.4% |
|                     | 心理学類       | 54                            | 59    | 113   | 45    | 54    | 99    | 83.3%  | 91.5% | 87.6% |
|                     | 障害科学類      | 37                            | 38    | 75    | 18    | 18    | 36    | 48.6%  | 47.4% | 48.0% |
|                     | 小計         | 133                           | 136   | 269   | 85    | 90    | 175   | 63.9%  | 66.2% | 65.1% |
| 情報学群                | 生物学類       | 87                            | 90    | 177   | 37    | 67    | 104   | 42.5%  | 74.4% | 58.8% |
|                     | 生物資源学類     | 135                           | 143   | 278   | 113   | 95    | 208   | 83.7%  | 66.4% | 74.8% |
|                     | 地球学類       | 57                            | 58    | 115   | 52    | 25    | 77    | 91.2%  | 43.1% | 67.0% |
|                     | 小計         | 279                           | 291   | 570   | 202   | 187   | 389   | 72.4%  | 64.3% | 68.2% |
| 医学群                 | 数学類        | 49                            | 49    | 98    | 35    | 19    | 54    | 71.4%  | 38.8% | 55.1% |
|                     | 物理学類       | 67                            | 64    | 131   | 19    | 38    | 57    | 28.4%  | 59.4% | 43.5% |
|                     | 化学類        | 61                            | 54    | 115   | 41    | 38    | 80    | 67.2%  | 70.4% | 69.6% |
|                     | 応用理工学類     | 134                           | 132   | 266   | 131   | 121   | 252   | 97.8%  | 91.7% | 94.7% |
|                     | 工学システム学類   | 154                           | 152   | 306   | 94    | 134   | 230   | 61.0%  | 88.2% | 75.2% |
|                     | 社会工学類      | 136                           | 133   | 269   | 21    | 115   | 136   | 15.4%  | 86.5% | 50.6% |
|                     | 小計         | 601                           | 584   | 1185  | 341   | 465   | 809   | 56.7%  | 79.6% | 68.3% |
| 体育専門学群              | 情報科学類      | 91                            | 84    | 175   | 71    | 66    | 137   | 78.0%  | 78.6% | 78.3% |
|                     | 情報メディア創成学類 | 58                            | 59    | 117   | 43    | 35    | 78    | 74.1%  | 59.3% | 66.7% |
|                     | 知識情報・図書館学類 | 100                           | 106   | 206   | 94    | 66    | 160   | 94.0%  | 62.3% | 77.7% |
|                     | 小計         | 249                           | 249   | 498   | 208   | 167   | 375   | 83.5%  | 67.1% | 75.3% |
| 芸術専門学群              | 医学類        | 95                            | 99    | 194   | 97    | 14    | 111   | 102.1% | 14.1% | 57.2% |
|                     | 看護学類       | 72                            | 69    | 141   | 21    | 34    | 55    | 29.2%  | 49.3% | 39.0% |
|                     | 医療科学類      | 38                            | 38    | 76    | 16    | 30    | 46    | 42.1%  | 78.9% | 60.5% |
|                     | 小計         | 205                           | 206   | 411   | 134   | 78    | 212   | 65.4%  | 37.9% | 51.6% |
| 合計                  |            | 2,272                         | 2,280 | 4,552 | 1,317 | 1,198 | 2,515 | 58.0%  | 52.5% | 55.3% |
| うち女子                |            | 902                           | 950   | 1,852 | 558   | 473   | 1,031 | 61.9%  | 49.8% | 55.7% |

表 1.1.3 平成 20 年度（第 8 回） 筑波大学 学生生活実態調査 回収率〔3〕（旧組織）

| 学群        | 学類         | 在籍学生数<br>(平成 20 年 10 月 1 日現在) |       |      |      |       | 回収票数  |       |      |      |       | 回収率   |       |       |       |       |
|-----------|------------|-------------------------------|-------|------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|           |            | 3 年次                          | 4 年次  | 5 年次 | 6 年次 | 合計    | 3 年次  | 4 年次  | 5 年次 | 6 年次 | 合計    | 3 年次  | 4 年次  | 5 年次  | 6 年次  | 合計    |
| 第一学群      | 人文学類       | 129                           | 171   |      |      | 300   | 30    | 34    |      |      | 64    | 23.3% | 19.9% |       |       | 21.3% |
|           | 社会学類       | 115                           | 155   |      |      | 270   | 27    | 16    |      | 43   | 23.5% | 10.3% |       |       | 15.9% |       |
|           | 自然科学類      | 237                           | 263   |      |      | 500   | 131   | 114   |      | 245  | 55.3% | 43.3% |       |       | 49.0% |       |
|           | 小計         | 481                           | 589   |      |      | 1070  | 188   | 164   |      | 352  | 39.1% | 27.8% |       |       | 32.9% |       |
| 第二学群      | 比較文化学類     | 105                           | 128   |      |      | 233   | 42    | 48    |      | 90   | 40.0% | 37.5% |       |       | 38.6% |       |
|           | 日本語・日本文化学類 | 50                            | 64    |      |      | 114   | 16    | 14    |      | 30   | 32.0% | 21.9% |       |       | 26.3% |       |
|           | 人間学類       | 129                           | 161   |      |      | 290   | 27    | 44    |      | 71   | 20.9% | 27.3% |       |       | 24.5% |       |
|           | 生物学類       | 94                            | 101   |      |      | 195   | 61    | 25    |      | 86   | 64.9% | 24.8% |       |       | 44.1% |       |
|           | 生物資源学類     | 149                           | 164   |      |      | 313   | 72    | 45    |      | 117  | 48.3% | 27.4% |       |       | 37.4% |       |
|           | 小計         | 527                           | 618   |      |      | 1145  | 218   | 176   |      | 394  | 41.4% | 28.5% |       |       | 34.4% |       |
| 第三学群      | 社会工学類      | 141                           | 168   |      |      | 309   | 98    | 67    |      | 165  | 69.5% | 39.9% |       |       | 53.4% |       |
|           | 国際総合学類     | 100                           | 134   |      |      | 234   | 17    | 23    |      | 40   | 17.0% | 17.2% |       |       | 17.1% |       |
|           | 情報学類       | 135                           | 146   |      |      | 281   | 90    | 73    |      | 163  | 66.7% | 50.0% |       |       | 58.0% |       |
|           | 工学システム学類   | 175                           | 195   |      |      | 370   | 143   | 114   |      | 257  | 81.7% | 58.5% |       |       | 69.5% |       |
|           | 工学基礎学類     | 155                           | 169   |      |      | 324   | 131   | 107   |      | 238  | 84.5% | 63.3% |       |       | 73.5% |       |
|           | 小計         | 706                           | 812   |      |      | 1518  | 479   | 384   |      | 863  | 67.8% | 47.3% |       |       | 56.9% |       |
| 医学専門学群    | 医学類        | 100                           | 100   | 100  | 110  | 410   | 56    | 69    | 90   | 101  | 316   | 56.0% | 69.0% | 90.0% | 91.8% | 77.1% |
|           | 看護・医療学類    | 120                           | 153   |      |      | 273   | 53    | 86    |      | 140  | 44.2% | 56.2% |       |       | 51.3% |       |
| 体育専門学群    |            | 247                           | 290   |      |      | 537   | 75    | 60    |      | 135  | 30.4% | 20.7% |       |       | 25.1% |       |
| 芸術専門学群    |            | 113                           | 152   |      |      | 265   | 55    | 59    |      | 114  | 48.7% | 38.8% |       |       | 43.0% |       |
| 図書館情報専門学群 |            | 175                           | 242   |      |      | 417   | 72    | 19    |      | 91   | 41.1% | 7.9%  |       |       | 21.8% |       |
| 合計        |            | 2,469                         | 2,956 | 100  | 110  | 5,635 | 1,196 | 1,017 | 90   | 101  | 2,404 | 48.4% | 34.4% | 90.0% | 91.8% | 42.7% |
| うち女子      |            | 1,022                         | 1,123 | 23   | 34   | 2,202 | 440   | 381   | 21   | 32   | 874   | 43.1% | 33.9% | 91.3% | 94.1% | 39.7% |

## 1.2 現在のすまいについて（問 4）

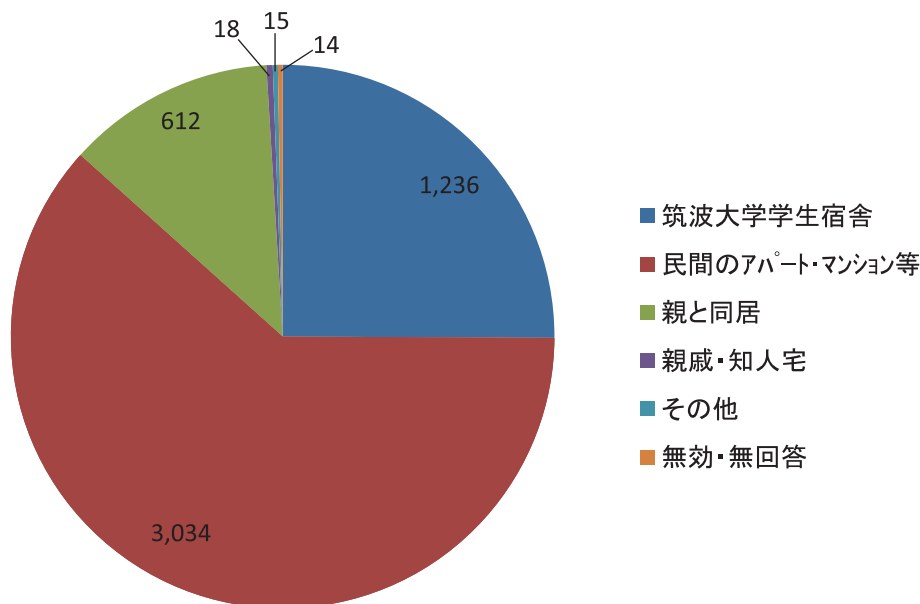
図 1.2 に見るように、①本学の学生宿舎に居住する学群生は、全体のほぼ 4 分の 1（25.1%）を占める。その一方で、②近隣のアパート・マンションに居住する学生が全体の 6 割以上（61.6%）に達し、③「親と同居」すなわち自宅通学の学生は 12.4%となっている。これを前回の学生生活実態調査時の資料と比較すると、5 年前にはそれぞれ①学生宿舎 34.4%、②アパート・マンション 57.1%、③自宅通学 8.2%であった。学生宿舎の割合が 10% 近く低くなり、アパート・マンションの居住者が微増、そして自宅通学者が増加する傾向にあることがわかる。

まず自宅通学者の増加は明らかに、つくばエクスプレスの開通に伴うものであろう。それまで自宅を離れて近隣に居住していた学生で、2005 年夏の TX 開通により自宅から通うようになったというケースもあろうし、新入学者に、自宅通学の可能な首都圏からの学生が増えたとも考えられる。また総じて、学生宿舎よりも近隣のアパート・マンションが居住空間として好まれる傾向が高まっている。

学年別に詳細を見てみると、1 年次生に関しては① 58.0%、② 26.6%、③ 15.0%、2 年次生は① 20.3%、② 65.1%、③ 13.6%、3 年次生は① 13.1%、② 75.4%、③ 9.9%、4 年次生は① 6.5%、② 81.7%、③ 11.1%となっている。1 年次生の宿舎居住率は 5 年前の 76.7% から約 20% 近く、2 年次生も 26.0% から約 6% 下がっている。

また年次別の数値においても、低学年になるにしたがって自宅通学者が増える一方、ほぼ卒業に必要な単位を取り終えた頃かと思われる4年次には、再び自宅通学者が増す傾向にある。これもTX開通によって現れた新しい傾向として指摘することができるだろう。自宅通学の可能な学生であっても、年次の進行に伴い大学近隣にアパート等を借りるというケースが想定できる。

図 1.2 現在のすまい（全体）

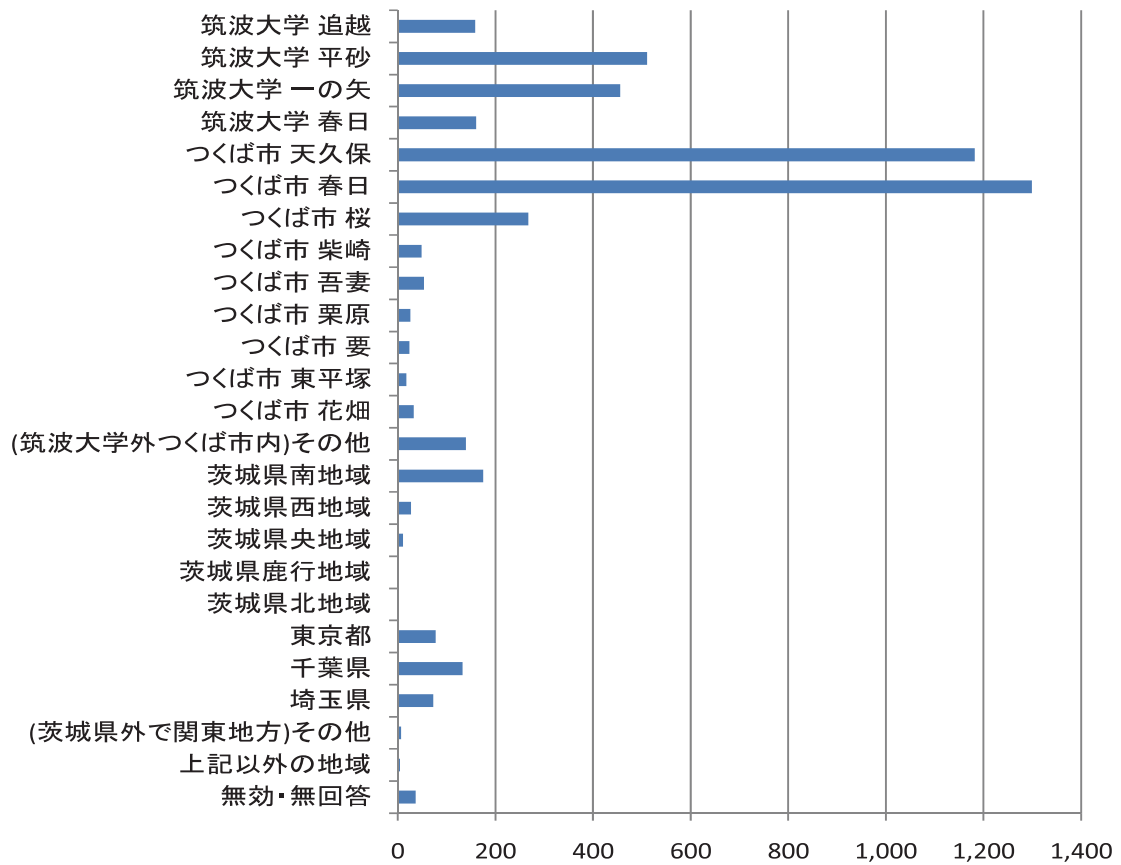


### 1.3 現在の居住地について（問5）

図 1.3 に見るように、つくば市春日の apart（26.4%）、同じく天久保の apart（24.0%）の居住率が非常に高く、これらだけで全体の半分以上を占める。apartの中では桜地区（5.4%）がこれに次ぐが、それよりも学生宿舎の平砂地区（10.4%）、一の矢地区（9.3%）の居住者が多い。これらに、学生宿舎春日地区（3.3%）、同追越地区（3.2%）の居住者が続く。

先の間(4)において、TX開通に伴う自宅通学者の増加という現象がみられたが、下記集計における「茨城県南地域」以下の分類は約10%に達する。学年別にこの「県南地域」以下の総計を算出すると、1年次：12.8%、2年次：10.9%、3年次：8.9%、4年次：9.3%となり、間(4)での「親と同居」の分類が、学年順に①15.0%、②13.6%、③9.9%、④11.1%となっているのとほぼ同様の傾斜状況を示す。したがって「県南地域」以下は、ほぼ「自宅通学者」に該当するものと推測される。「県南地域」以下の分類において、これに次いで高い割合を示すのが千葉県である。流山・柏・野田・松戸市など、TXの開通により、乗り換えなくあるいは1度の乗り換えだけで自宅通学しうる地域は飛躍的に広がった。今回の実態調査結果は、このような交通環境の変化を顕著に示している。

図 1.3 現在の居住地（全体）



## 第2章 生活全般について

### 2.1 収入と支出について（問6）

#### 2.1.1 収入

- ◎収入合計の全学平均は97,000円、前回調査時に比べて6,000円減少。
- ◎アルバイト収入の平均は34,000円。
- ◎奨学金の平均受給額は45,000円。

臨時の収入を除いた一か月の平均を、「仕送り」「奨学金」「アルバイト」「その他」「収入合計」の各項目に万円単位で記入してもらった。図2.1.1.1および図2.1.1.2は、各収入項目をそれぞれ学年・男女別および学群別に表したものである。以下、項目毎の特徴を述べる。

仕送り：図2.1.1.1から、学年が上がるにつれ、その額は高くなり、医学6年次で最高額となっている。また、同図から男女差は殆ど無いことがわかる。図2.1.1.2から、学群別でみると、1・2年次では、情報学群が少なく、医学群が多い。そして、他の学群はほぼ同額となっている。また、3年次以上では、専門学群が高額となっているが、これは、医学群の5・6年次生が高額のためと考えられる。

奨学金：医学5年次が多いことを除けば、学年、学群、男女別による差は少ない。

アルバイト：全体の平均は、3.4万円であり、前回調査時の3.5万円とほぼ同じである。学年別では、1年次で少ない他は、学年による差は少ない。ただし、医学群の5・6年次では少ない。

その他：全体の平均は1.7万円。

収入合計：仕送りと同様に学年が上がるにつれ、合計額も多くなっている。なお、1年次では、図2.1.2.1にあるように、住居費が少ないことにより、仕送りあるいはアルバイト収入が少なくても済むようである。

図2.1.1.1 1か月の平均的な収入（学年・男女別、全体）：単位は万円、値は該当者の平均値

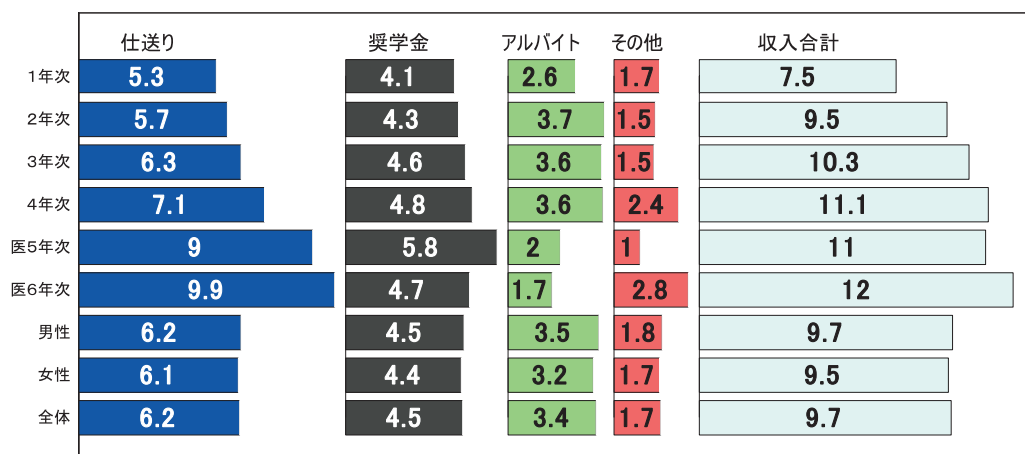
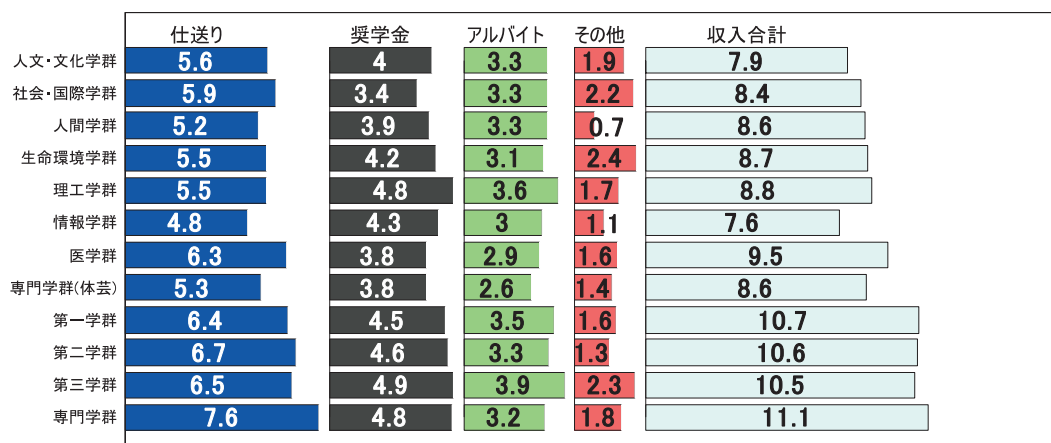


図 2.1.1.2 1 か月の平均的な収入（学群別）：単位は万円、値は該当者の平均値



## 2.1.2 支出

- ◎支出合計の全学平均は 83,000 円、前回調査時に比べて 3,000 円減少。
- ◎住居費の全学平均は 37,000 円で前回調査時と同額。食費の全学平均は 26,000 円。
- ◎学年が上がるにつれて支出額も上がる。男女間の顕著な差は、食費のみ。

臨時の支出を除いた一か月の平均を、「食費」「住居費」「就学費」「交通費」「通信費」「その他（交際費、教養娯楽費、被服費、医療費等）」「支出合計」の各項目に、万円単位で記入してもらった。図 2.1.2.1 および図 2.1.2.2 は、各収入項目を、それぞれ学年・男女別および学群別に表したものである。

図 2.1.2.1 から、食費、住居費は学年が上がるにつれて多くなっており、このことが支出合計額を押し上げている。食費には男女差がみられ、その差は 6,000 円にも上っている。

図 2.1.2.2 から、学群別による比較において差が顕著であるのは住居費であり、1・2 年次の場合、最低額は社会・国際学群の 24,000 円、最高額は医学群の 36,000 円であった。

図 2.1.2.1 1 か月の平均的な支出（学年・男女別、全体）：単位は万円

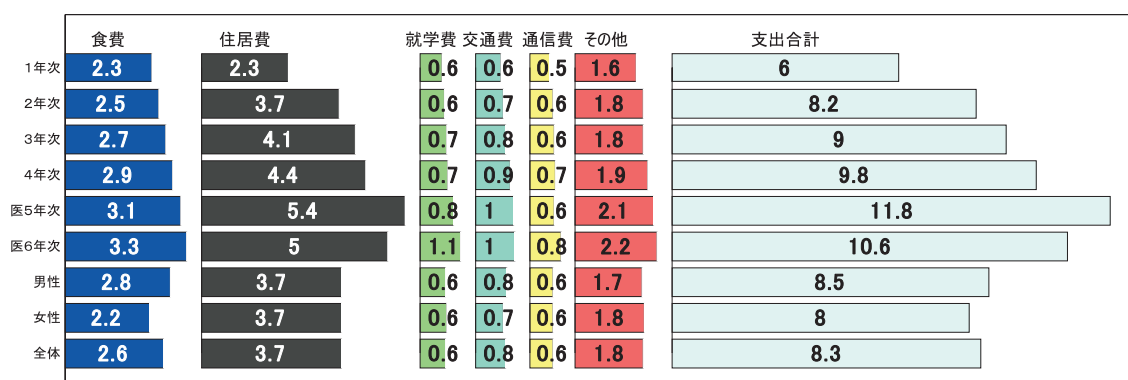
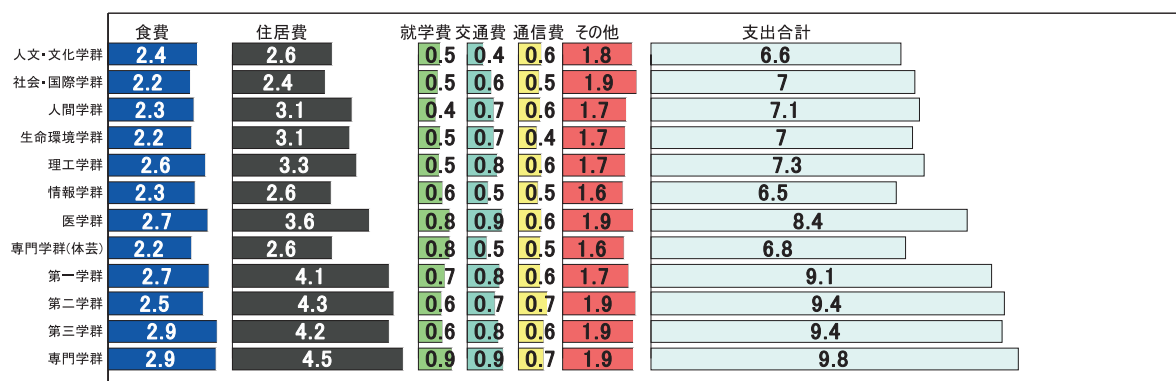


図 2.1.2.2 1 か月の平均的な支出（学群別）：単位は万円



## 2.2 アルバイトの経験について（問7）

- ◎定期、臨時を問わない場合、アルバイト経験は全学平均で73.9%。
- ◎学年による差は大きく、「全くしなかった」者の割合は、1年次が最大。
- ◎学類・学群別による差も大きい。

過去6か月間にアルバイトを、「全くしなかった」か、「定期的」、「臨時的」、あるいは「定期と臨時の両方」をしたかを尋ねた。図 2.2.1 および図 2.2.2 は、アルバイト経験について、それぞれ学年・男女別および学群・学類別に表したものである。

まず図 2.2.1 から、アルバイト経験に対する定期的、あるいは定期と臨時の両方との回答は、全体で60.4%、性別で男性56.7%、女性66.5%であった。また、経験の有無に対する学年間の差は大きく、「全くしなかった」者は1年次で38%であったが、2年次で14.9%と急減し、以降4年次まで学年が上がるにつれ、微増している。なお医学4・5年次では、再度上昇している。

「まったくしなかった」者の割合を学類あるいは学群別でみると、1・2年次では、化学類（43.8%）が非常に大きく、情報系3学類、数学類、物理学類等が続いて大きい。反対に社会工学類、看護学類、医療科学類等では小さく、多くの学生がアルバイトをしていることがわかる。つぎに3・4年次において「全くしなかった」者の割合をみると、医学類、体育専門学群、図書館情報専門学群等で大きく、国際総合学類、日本語・日本文化学類、看護・医療科学類等で小さくなっている。

図 2.2.1 過去6か月間のアルバイト経験（学年・男女別、全体）：単位はパーセント

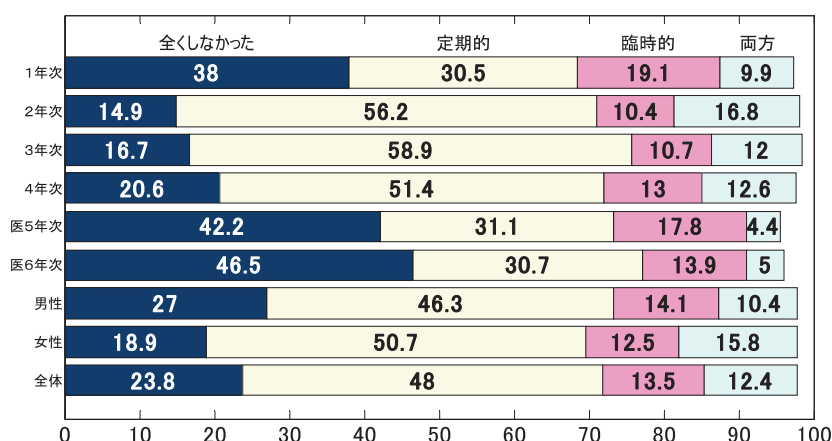
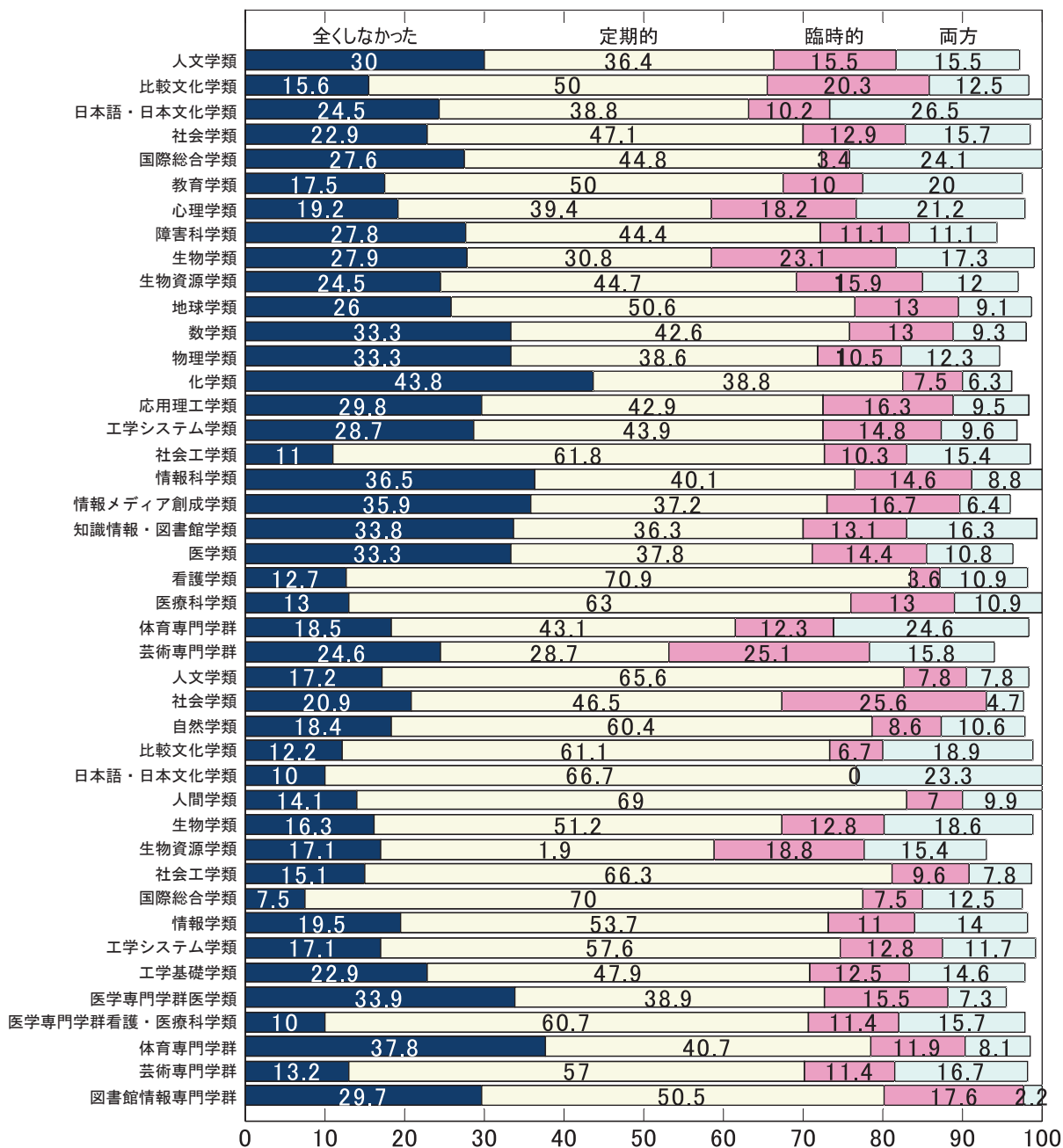


図 2.2.2 過去 6 か月間のアルバイト経験（学群・学類別）：単位はパーセント



### 2.3 アルバイトの種類について（問 8）

- ◎全体の上位 3 つは、「飲食店での労働」46.5%、「飲食店以外の軽労働」22.2%、「塾講師」17.1%。
- ◎「家庭教師」は全体平均で 12.1%であり、前回調査時の 24.5%を大きく下回る。
- ◎学類・学群によって、家庭教師および塾講師の占める割合の差が大きい。

アルバイトで経験した仕事の種類を、「家庭教師」「塾講師」「一般事務」「飲食店」「軽労働（調査、販売、配達等）」などの項目の中から、主なものを最大 3 つまで選んでもらった。表 2.3.1 および表 2.3.2 は、アルバイトの種類について、それぞれ学年・男女別および学群・学類別に示したものである。以下に特徴を挙げる。



全体では、家庭教師が、前回調査時の24.5%から、今回の12.1%と大きく減少している。塾講師、一般事務、飲食店、軽労働等は、前回調査時とあまり変化は見られない。

学年別では、家庭教師が1年次生で9.6%、4年次生で13.1%であり、前回調査時の13.0%（1年次）、30.8%（4年次）を大きく下回っている。ただし、医学5・6年次生では共に60%を超えている。他方、塾講師は、1年次生で22.7%、4年次生で12.3%と、学年が上がるにつれて減少傾向にある。

男女別では、飲食店のウェイトラー、ウェイトレス、調理等が男性で37.7%、女性で58.7%と大きく異なるほかは、際立った違いは見られない。

学群・学類別でみると、家庭教師では、医学専門学群医学類（3年次以上）が50.3%と非常に大きく、他には教育学類の29%、医学類（1・2年次）の31.9%等が大きい。塾講師では、教育学類（32.3%）、数学類（32.4%）、情報メディア創成学類（36.2%）、医学類（1・2年次、37.7%）、生物学類（32.9%）等が大きい。飲食店は、国際総合学類が76.2%（1・2年次）、77.8%（3・4年次）と非常に大きく、情報メディア創成学類では、27.7%とかなり小さな値となっている。軽労働では、社会学類（37.7%）が最大であるのに対して、最小は国際総合学類で4.8%となっている。

その他の項目への回答で具体的な内容の記載があった640件の内、比較的多かったものは、研究実験の被験者あるいは補助が66件であり、イベントスタッフ26件、学会手伝い20件、農業19件、プールの監視員18件等がある。

表 2.3.1 アルバイトの種類（学年・男女別、全体）：有効回答者数に対する割合、単位はパーセント

|      | 家庭教師 | 塾講師  | 一般事務 | 特殊技能 | 飲食店  | 軽労働  | 重労働 | 危険作業 | その他  |
|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|
| 1年次  | 9.6  | 22.7 | 3.7  | 0.8  | 43.4 | 18.9 | 4.8 | 0    | 21.2 |
| 2年次  | 9.8  | 18.9 | 5.2  | 2.3  | 50.4 | 22.8 | 2.1 | 0.1  | 18.5 |
| 3年次  | 11.1 | 15.3 | 5.7  | 3.3  | 48.6 | 24.3 | 1.7 | 0.3  | 16.2 |
| 4年次  | 13.1 | 12.3 | 7.3  | 5    | 44.3 | 23.5 | 2.5 | 0.1  | 20.1 |
| 医5年次 | 61.4 | 13.6 | 4.5  | 2.3  | 29.5 | 4.5  | 2.3 | 0    | 6.8  |
| 医6年次 | 63.3 | 10.2 | 2    | 4.1  | 30.6 | 8.2  | 2   | 0    | 16.3 |
| 男性   | 13.1 | 18.9 | 4.8  | 3.6  | 37.7 | 22.7 | 4   | 0.2  | 18.2 |
| 女性   | 10.9 | 14.8 | 6.3  | 1.8  | 58.7 | 21.6 | 0.8 | 0.1  | 19.1 |
| 全体   | 12.1 | 17.1 | 5.4  | 2.8  | 46.5 | 22.2 | 2.6 | 0.1  | 18.6 |

表 2.3.2 アルバイトの種類（学群・学類別）：有効回答者数に対する割合、単位はパーセント

|                    | 家庭教師 | 塾講師  | 一般事務 | 特殊技能 | 飲食店  | 軽労働  | 重労働 | 危険作業 | その他  |
|--------------------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|
| 人文学類               | 8.3  | 27.8 | 2.8  | 1.4  | 48.6 | 18.1 | 5.6 | 0    | 22.2 |
| 比較文化学類             | 9.4  | 22.6 | 3.8  | 0    | 54.7 | 22.6 | 0   | 0    | 17   |
| 日本語・日本文化学類         | 5.6  | 16.7 | 13.9 | 2.8  | 63.9 | 25   | 2.8 | 0    | 8.3  |
| 社会学類               | 5.7  | 20.8 | 7.5  | 0    | 47.2 | 37.7 | 0   | 0    | 9.4  |
| 国際総合学類             | 9.5  | 28.6 | 0    | 0    | 76.2 | 4.8  | 9.5 | 0    | 9.5  |
| 教育学類               | 29   | 32.3 | 6.5  | 0    | 51.6 | 19.4 | 0   | 0    | 29   |
| 心理学類               | 9    | 17.9 | 3.8  | 1.3  | 53.8 | 14.1 | 1.3 | 0    | 28.2 |
| 障害科学類              | 0    | 8.3  | 4.2  | 4.2  | 54.2 | 25   | 4.2 | 0    | 25   |
| 生物学類               | 1.4  | 28.4 | 5.4  | 5.4  | 44.6 | 24.3 | 1.4 | 0    | 25.7 |
| 生物資源学類             | 8.2  | 17.8 | 4.1  | 1.4  | 55.5 | 19.9 | 4.1 | 0    | 24   |
| 地球学類               | 7.1  | 26.8 | 3.6  | 0    | 58.9 | 14.3 | 0   | 0    | 14.3 |
| 数学類                | 14.7 | 32.4 | 0    | 0    | 35.3 | 8.8  | 2.9 | 0    | 26.5 |
| 物理学類               | 2.9  | 26.5 | 2.9  | 2.9  | 35.3 | 20.6 | 0   | 0    | 23.5 |
| 化学類                | 7.1  | 21.4 | 4.8  | 0    | 47.6 | 16.7 | 4.8 | 0    | 23.8 |
| 応用理工学類             | 8.9  | 23.8 | 1.2  | 0.6  | 44.6 | 14.9 | 3   | 0    | 17.3 |
| 工学システム学類           | 15.1 | 21.1 | 3.9  | 3.3  | 30.9 | 23.7 | 3.3 | 0.7  | 15.8 |
| 社会工学類              | 11.9 | 16.1 | 7.6  | 0    | 55.9 | 23.7 | 4.2 | 0    | 11.9 |
| 情報科学類              | 10.3 | 16.1 | 4.6  | 4.6  | 32.2 | 17.2 | 3.4 | 0    | 20.7 |
| 情報メディア創成学類         | 6.4  | 36.2 | 0    | 2.1  | 27.7 | 23.4 | 6.4 | 0    | 23.4 |
| 知識情報・図書館学類         | 4.8  | 13.5 | 5.8  | 1.9  | 46.2 | 35.6 | 2.9 | 0    | 21.2 |
| 医学類                | 31.9 | 37.7 | 7.2  | 0    | 30.4 | 18.8 | 1.4 | 0    | 11.6 |
| 看護学類               | 8.7  | 15.2 | 2.2  | 2.2  | 65.2 | 19.6 | 0   | 0    | 15.2 |
| 医療科学類              | 15.4 | 23.1 | 5.1  | 0    | 51.3 | 15.4 | 2.6 | 0    | 10.3 |
| 体育専門学群             | 11.5 | 1.9  | 5.8  | 0    | 63.5 | 9.6  | 7.7 | 0    | 38.5 |
| 芸術専門学群             | 2.5  | 8.4  | 6.7  | 3.4  | 49.6 | 29.4 | 7.6 | 0    | 22.7 |
| 人文学類               | 11.8 | 13.7 | 2    | 2    | 51   | 15.7 | 0   | 0    | 17.6 |
| 社会学類               | 15.6 | 21.9 | 6.3  | 0    | 28.1 | 28.1 | 3.1 | 0    | 18.8 |
| 自然学類               | 11.9 | 22.8 | 5.7  | 3.6  | 46.1 | 23.3 | 1.6 | 0.5  | 11.9 |
| 比較文化学類             | 11.5 | 9    | 11.5 | 1.3  | 51.3 | 32.1 | 1.3 | 0    | 17.9 |
| 日本語・日本文化学類         | 22.2 | 11.1 | 11.1 | 0    | 66.7 | 18.5 | 0   | 0    | 11.1 |
| 人間学類               | 18.3 | 16.7 | 13.3 | 0    | 56.7 | 21.7 | 0   | 0    | 21.7 |
| 生物学類               | 10   | 32.9 | 5.7  | 8.6  | 34.3 | 10   | 4.3 | 0    | 30   |
| 生物資源学類             | 6.9  | 11.5 | 4.6  | 0    | 42.5 | 25.3 | 4.6 | 0    | 36.8 |
| 社会工学類              | 9.6  | 17.6 | 5.9  | 2.2  | 54.4 | 21.3 | 1.5 | 0    | 11.8 |
| 国際総合学類             | 11.1 | 2.8  | 0    | 8.3  | 77.8 | 25   | 0   | 0    | 16.7 |
| 情報学類               | 7.8  | 9.4  | 7.8  | 14.8 | 33.6 | 27.3 | 1.6 | 0    | 20.3 |
| 工学システム学類           | 10   | 13.9 | 5.3  | 6.2  | 38.8 | 27.3 | 3.8 | 1    | 12.9 |
| 工学基礎学類             | 11.5 | 16.1 | 4.6  | 3.4  | 43.7 | 29.9 | 1.1 | 0.6  | 15.5 |
| 医学専門学群医学類          | 50.3 | 14.4 | 5.9  | 3.7  | 32.6 | 10.2 | 2.7 | 0    | 10.7 |
| 医学専門学群看護・<br>医療科学類 | 5.7  | 4.1  | 4.9  | 0.8  | 64.2 | 21.1 | 0.8 | 0    | 25.2 |
| 体育専門学群             | 18.8 | 3.8  | 5    | 3.8  | 43.8 | 18.8 | 1.3 | 0    | 32.5 |
| 芸術専門学群             | 5.2  | 4.2  | 9.4  | 2.1  | 58.3 | 32.3 | 3.1 | 0    | 14.6 |
| 図書館情報専門学群          | 4.8  | 14.3 | 7.9  | 1.6  | 46   | 27   | 1.6 | 0    | 14.3 |

## 2.4 アルバイトの理由について（問9）

- ◎全体平均の上位三つは、「学費・生活費」68.2%、「時間の有効利用」27.0%、および「サークル活動」20.7%であり、前回32.1%で2位の「レジャー・旅行」は20.2%と4番目に後退。
- ◎男女間では、「レジャー・旅行」が男性9.7%に対して女性22.3%と女性が多い。
- ◎その他の理由では、「社会経験」や「社会勉強」のためが最多であった。

アルバイトをした理由を、「学費・生活費」「サークル活動費」「自動車購入費」「携帯電話料金」などの項目の中から最大3つまで選んでもらった。表2.4.1および表2.4.2は、アルバイトの理由について、それぞれ学年・男女別および学群・学類別に示したものである。以下に特徴を挙げる。

全体では、学費・生活費が68.2%、およびサークル活動費が20.7%であり、それぞれ前回調査時の66.4%、および18.4%とほぼ同様であった。一方、自動車購入9.5%、レジャー・旅行20.2%は、前回調査時の17.1%および32.1%から大きく減少している。

学年別では、学年が上がるほど、学費・生活費（医学5・6年次生を除く）、ならびにレジャー・旅行が増加しており、反対に時間の有効利用が減少している。

男女別の差異で目立つのは、自動車の購入において、男性9.5%、女性2.9%と男性が多いのに対して、レジャー・旅行においては男性9.7%、女性22.3%と女性が多い点である。なお、この傾向は前回調査時と同様である。

学群・学類別では、学費・生活費のためと答えた割合は、1・2年次では、人文学類、社会学類、心理学類、物理学類、情報科学類、看護学類、体育専門学群、芸術専門学群等で多く、70%を超えている。そして3年次以上になると、生物学類、医学専門学群医学類を除いたほぼ全ての学類・学群において、70%近くの割合となっている。これらの結果から、学年が上がるにつれて、生活のためにアルバイトをしていることがわかる。

その他の項目への回答で具体的な内容の記載があった400件の内、最も多かったものは、社会経験・社会勉強の101件であった。また中には、貯蓄のため16件、頼まれたから16件があった。

表 2.4.1 アルバイトの理由（学年・男女別、全体）：有効回答者数に対する割合、単位はパーセント

|      | 学費・生活費 | サークル活動 | 自動車  | 携帯電話 | レジャー・旅行 | 時間の有効活用 | 技術習得 | 友人を得る | その他  |
|------|--------|--------|------|------|---------|---------|------|-------|------|
| 1年次  | 61     | 20.6   | 6.1  | 4.5  | 16.6    | 31.6    | 13.1 | 3     | 13.1 |
| 2年次  | 68.3   | 24.2   | 9.4  | 5.1  | 18.2    | 29.1    | 15.6 | 3.5   | 12.3 |
| 3年次  | 68.9   | 19.4   | 10.9 | 5.9  | 20.9    | 27.8    | 15.6 | 5.1   | 11.8 |
| 4年次  | 75.4   | 17.3   | 11.4 | 4.4  | 23.8    | 20.4    | 12.7 | 3.5   | 9    |
| 医5年次 | 60.5   | 23.3   | 9.3  | 2.3  | 25.6    | 11.6    | 9.3  | 4.7   | 11.6 |
| 医6年次 | 60.4   | 25     | 10.4 | 2.1  | 39.6    | 16.7    | 6.3  | 4.2   | 8.3  |
| 男性   | 48.3   | 13.9   | 9.5  | 3.2  | 9.7     | 16.6    | 10   | 2.3   | 6.9  |
| 女性   | 51.1   | 16.5   | 2.9  | 4.2  | 22.3    | 24.3    | 10.6 | 3.5   | 10.6 |
| 全体   | 68.2   | 20.7   | 9.5  | 5    | 20.2    | 27      | 14.2 | 3.8   | 11.6 |

表 2.4.2 アルバイトの理由（学群・学類別）：有効回答者数に対する割合、単位はパーセント

|                | 学費・生活費 | サークル活動 | 自動車  | 携帯電話 | レジャー・旅行 | 時間の有効活用 | 技術習得 | 友人を得る | その他  |
|----------------|--------|--------|------|------|---------|---------|------|-------|------|
| 人文学類           | 71.2   | 28.8   | 5.5  | 4.1  | 17.8    | 32.9    | 17.8 | 4.1   | 13.7 |
| 比較文化学類         | 69.8   | 18.9   | 3.8  | 3.8  | 30.2    | 28.3    | 13.2 | 0     | 11.3 |
| 日本語・日本文化学類     | 58.3   | 22.2   | 5.6  | 5.6  | 19.4    | 47.2    | 16.7 | 2.8   | 8.3  |
| 社会学類           | 71.7   | 18.9   | 7.5  | 5.7  | 20.8    | 39.6    | 9.4  | 0     | 11.3 |
| 国際総合学類         | 66.7   | 9.5    | 14.3 | 4.8  | 38.1    | 47.6    | 23.8 | 0     | 9.5  |
| 教育学類           | 61.3   | 3.2    | 6.5  | 6.5  | 29      | 35.5    | 12.9 | 0     | 16.1 |
| 心理学類           | 71.4   | 24.7   | 3.9  | 3.9  | 23.4    | 40.3    | 15.6 | 2.6   | 11.7 |
| 障害科学類          | 54.2   | 20.8   | 0    | 4.2  | 16.7    | 45.8    | 8.3  | 12.5  | 12.5 |
| 生物学類           | 60.8   | 18.9   | 6.8  | 1.4  | 17.6    | 27      | 20.3 | 4.1   | 18.9 |
| 生物資源学類         | 64.4   | 27.4   | 8.2  | 3.4  | 20.5    | 35.6    | 13.7 | 2.7   | 6.8  |
| 地球学類           | 64.3   | 26.8   | 8.9  | 7.1  | 12.5    | 28.6    | 16.1 | 5.4   | 14.3 |
| 数学類            | 70.6   | 14.7   | 14.7 | 5.9  | 5.9     | 26.5    | 20.6 | 2.9   | 26.5 |
| 物理学類           | 74.3   | 20     | 2.9  | 0    | 17.1    | 22.9    | 25.7 | 0     | 11.4 |
| 化学類            | 59.5   | 28.6   | 11.9 | 2.4  | 19      | 21.4    | 14.3 | 2.4   | 11.9 |
| 応用理工学類         | 56.7   | 25     | 13.4 | 5.5  | 12.8    | 30.5    | 9.8  | 1.2   | 12.2 |
| 工学システム学類       | 63.2   | 24.3   | 8.6  | 3.9  | 12.5    | 30.3    | 11.2 | 2.6   | 8.6  |
| 社会工学類          | 69.2   | 24.8   | 13.7 | 5.1  | 21.4    | 30.8    | 11.1 | 6     | 9.4  |
| 情報科学類          | 70.2   | 17.9   | 3.6  | 8.3  | 10.7    | 13.1    | 20.2 | 6     | 10.7 |
| 情報メディア創成学類     | 65.2   | 13     | 6.5  | 6.5  | 15.2    | 19.6    | 10.9 | 4.3   | 13   |
| 知識情報・図書館学類     | 63.5   | 25     | 5.8  | 4.8  | 18.3    | 32.7    | 12.5 | 2.9   | 13.5 |
| 医学類            | 37.1   | 20     | 4.3  | 7.1  | 25.7    | 40      | 8.6  | 7.1   | 20   |
| 看護学類           | 78.3   | 28.3   | 4.3  | 8.7  | 15.2    | 30.4    | 13   | 8.7   | 17.4 |
| 医療科学類          | 56.4   | 35.9   | 10.3 | 2.6  | 20.5    | 33.3    | 5.1  | 2.6   | 20.5 |
| 体育専門学群         | 76.9   | 30.8   | 17.3 | 3.8  | 11.5    | 26.9    | 36.5 | 0     | 23.1 |
| 芸術専門学群         | 76.5   | 12.6   | 4.2  | 5.9  | 12.6    | 16      | 15.1 | 2.5   | 10.1 |
| 人文学類           | 74.5   | 27.5   | 11.8 | 7.8  | 19.6    | 25.5    | 13.7 | 7.8   | 11.8 |
| 社会学類           | 71     | 12.9   | 6.5  | 3.2  | 19.4    | 35.5    | 12.9 | 3.2   | 16.1 |
| 自然学類           | 76.4   | 18.3   | 10.5 | 4.7  | 17.8    | 24.1    | 16.8 | 4.21  | 1.5  |
| 比較文化学類         | 74     | 18.2   | 5.2  | 5.2  | 35.1    | 26      | 6.5  | 1.3   | 5.2  |
| 日本語・日本文化学類     | 69.2   | 15.4   | 15.4 | 11.5 | 50      | 15.4    | 11.5 | 3.8   | 0    |
| 人間学類           | 71.7   | 21.7   | 10   | 1.7  | 21.7    | 36.7    | 18.3 | 5     | 21.7 |
| 生物学類           | 53.5   | 15.5   | 16.9 | 7    | 19.7    | 28.2    | 29.6 | 5.6   | 11.3 |
| 生物資源学類         | 72.4   | 25.3   | 8    | 5.7  | 33.3    | 21.8    | 12.6 | 1.1   | 12.6 |
| 社会工学類          | 68.4   | 19.1   | 8.8  | 7.4  | 29.4    | 23.5    | 10.3 | 4.4   | 11   |
| 国際総合学類         | 75     | 16.7   | 8.3  | 5.6  | 55.6    | 25      | 16.7 | 2.8   | 11.1 |
| 情報学類           | 75     | 6.3    | 11.7 | 4.7  | 12.5    | 21.1    | 25.8 | 3.1   | 8.6  |
| 工学システム学類       | 68.1   | 27.1   | 20.3 | 5.3  | 11.6    | 21.3    | 15.5 | 4.8   | 8.7  |
| 工学基礎学類         | 76.3   | 17.3   | 17.9 | 5.2  | 18.5    | 23.1    | 9.8  | 2.9   | 8.7  |
| 医学専門学群医学類      | 60.5   | 29.2   | 10.3 | 2.2  | 31.4    | 21.1    | 7    | 3.2   | 9.2  |
| 医学専門学群看護・医療科学類 | 68     | 22.1   | 3.3  | 5.7  | 35.2    | 32      | 9    | 9.8   | 7.4  |
| 体育専門学群         | 68.4   | 12.7   | 6.3  | 1.3  | 11.4    | 19      | 13.9 | 2.5   | 21.5 |
| 芸術専門学群         | 86.3   | 4.2    | 6.3  | 5.3  | 20      | 16.8    | 14.7 | 7.4   | 10.5 |
| 図書館情報専門学群      | 77.4   | 8.1    | 4.8  | 8.1  | 12.9    | 30.6    | 12.9 | 6.5   | 11.3 |

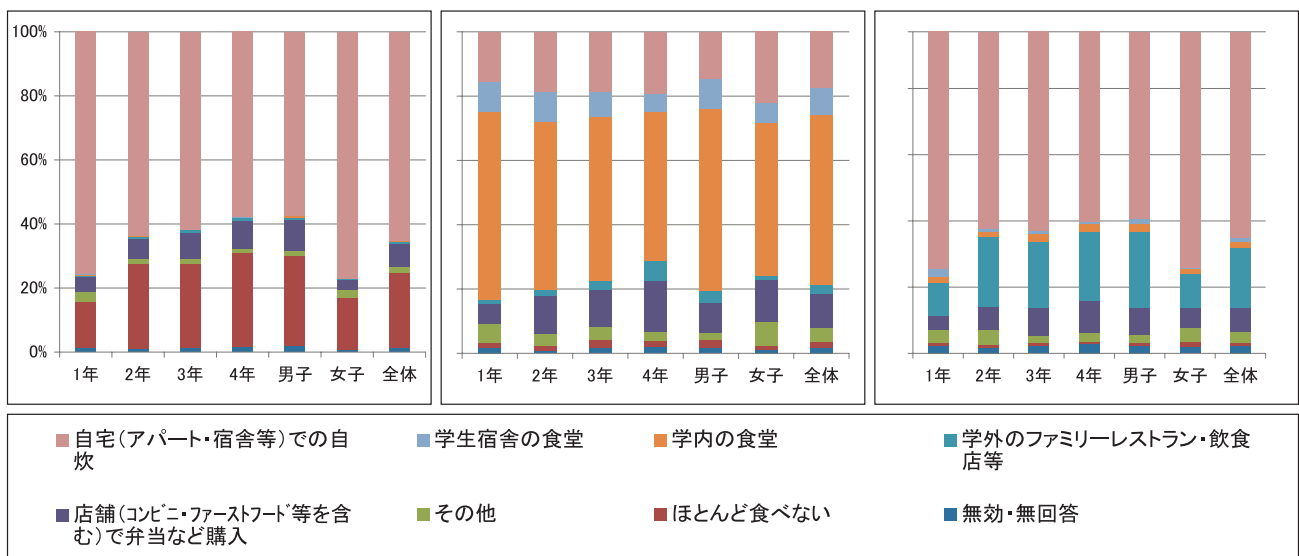
## 2.5 食事の場所について (問 10)

◎朝食と夕食は自宅で自炊をする学生が65%以上。

食事の場所について「自宅(アパート・宿舎等)での自炊」「学生宿舎の食堂」「学内の食堂」「学外のファミリーレストラン・飲食店など」「店舗(コンビニ・ファーストフード等を含む)で弁当などを購入」「その他」「ほとんど食べない」の7項目を立て、朝食・昼食・夕食にわけてそれぞれ調査した。

全体としては、朝食は自宅での自炊をする学生が65.2%と最も多かった。また、朝食をほとんど食べない学生が23.4%を占めている。昼食は学内食堂を使用する学生が52.9%と過半数を占め、次いで自炊(17.5%)、弁当などを購入(10.9%)が多い。夕食は自炊をする学生が65.1%と最も多く、学外の飲食店(17.9%)、弁当などを購入(7.4%)と続いた。学類別での比較による大きな差異は見られなかった。男女別で比較すると、女性の方が自炊をしている割合が高かった。また、朝食をほとんど食べない学生の割合を比較すると、男性が28.1%であるのに対し女性は16.3%となり、男性の方が圧倒的に高い。学年別で比較すると、1年生に比べて2年生以上は朝食を食べない割合が高い。また、夕食では2年生以上は外食する割合が約20%であるのに対し、1年生は10.1%と低く、逆に自宅で自炊をする割合が75.6%と高くなっている。

図 2.5 食事の場所 (左から朝食、昼食、夕食)



## 2.6 授業日の過ごし方について (問 11)

◎授業を含めた学習時間は1日平均約6時間。

◎睡眠時間は年次とともに増加。

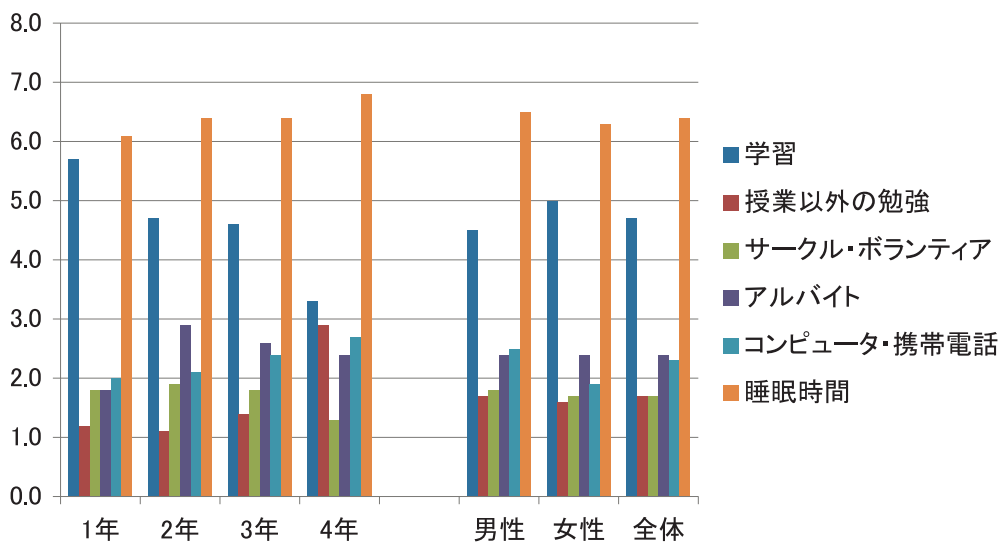
授業日の時間の使い方を「授業出席および予習・復習などの学習時間」「授業以外の勉強時間」「サークル・ボランティアなどの活動時間」「アルバイト時間」「コンピュータや携帯電話を使用する時間」「睡眠時間」「起床時刻」「就寝時刻」の8項目で調査した。

全体の平均は、学習に4.7時間、授業以外の勉強に1.7時間、サークル等の活動に1.7時間、アルバイトに2.4時間、パソコンや携帯電話の使用に2.3時間、睡眠に6.4時間であった。また、平均起床時刻は8

時ごろ、平均就寝時刻は25時ごろであった。男女で比較すると、女性と比べて男性は学習時間が0.5時間短く、逆にコンピュータ・携帯電話の使用時間が0.6時間長かった。学年で比較すると、授業に関する学習時間が、学年が上がるにつれて減少している。予習・復習に割く時間が減少しているのかもしれない。しかし、4年生の授業以外の勉強時間は他学年より長く、合計学習時間は2年生以上ではほとんど変わらない。コンピュータ・携帯電話の使用時間と睡眠時間は逆に学年が上がるにつれて増加している。

学群・学類ごとに比較すると（データについては『資料編』を参照）、1～2年次では、睡眠時間に大きな差異は見られなかったが、例えば体育専門学群では授業以外の勉強時間（0.6時間）が少なく、サークル等の活動時間（2.4時間）が長いなど、学類・学群ごとに特徴がみられた。

図 2.6 授業日の過ごし方（学年別、男女別、全体）

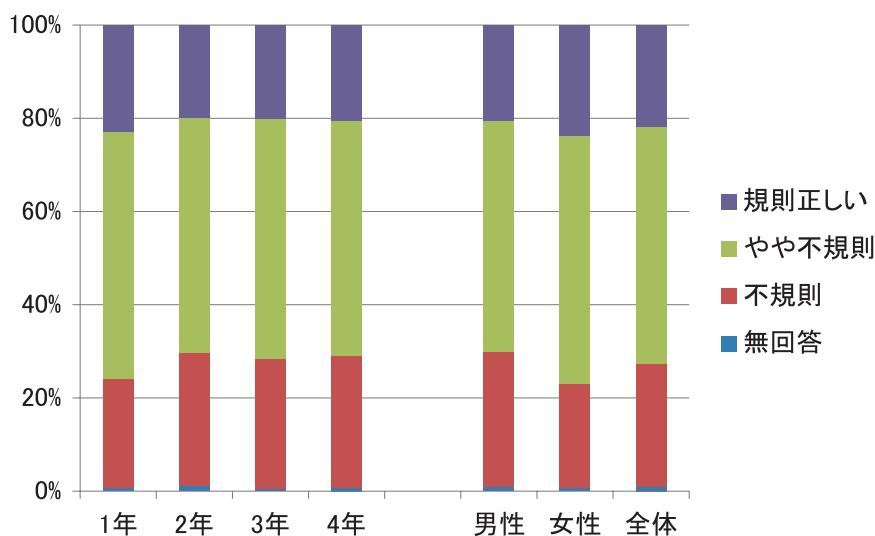


## 2.7 生活リズムについて（問 12）

◎約半数が「やや不規則」と回答。

本設問では、自分の生活リズムを「規則正しい」「やや不規則」「不規則」の3段階に分類して回答を求めた。その結果、全体では「規則正しい」が21.8%、「やや不規則」が51.0%、「不規則」が26.4%となり、すべての学類等で、「やや不規則」がほぼ半数を占めて最も多かった。まず、男女で比較すると、女性の方が規則正しいと感じている割合が高いことがわかる。次に、学年で比較すると、2年生以上に大きな差は見られなかったが、1年生は不規則ではないと感じている割合が高いことがわかる。学群・学類で比較すると（データについては『資料編』を参照）、「規則正しい」の割合が最も高かったのは、1・2年次では教育学類（35.0%）、3年次以上では医学専門学群（40.8%）で、ほかに医療科学類（32.6%）や3年次以上の体育専門学類（31.9%）も30%以上が規則正しい生活をしていると回答している。逆に、「不規則」の割合が最も高かったのは、1・2年次では国際総合学類（41.4%）、3年次以上では社会工学類（37.3%）で、ほかに1・2年次では情報メディア創成学類（35.9%）、3年次以上では国際総合学類（35.0%）、情報学類（37.2%）、芸術専門学群（35.1%）で35%以上が不規則な生活をしていると回答している。学年が進むにつれて不規則になるという傾向が見られない点も特徴であろう。

図 2.7 生活リズム (学年別、男女別、全体)

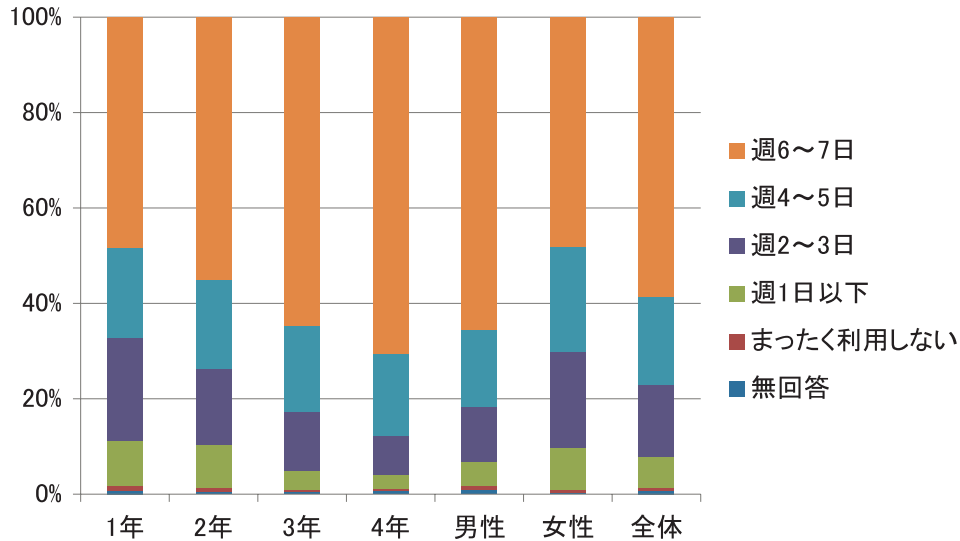


## 2.8 インターネット利用の頻度について (問 13)

- ◎ほとんど利用しない学生は1割未満。
- ◎年次とともに利用頻度も上昇。

電子メールを除いたインターネットの利用頻度について調査した。全体の結果をみると、週6～7日が58.6%、週4～5日が18.5%、週2～3日が15.1%、週1日以下が6.5%、まったく利用しないが0.7%であった。まず、男女で比較してみると、8割以上の男性が週4日以上インターネットを利用しているのに対し、女性では7割にとどまっていることがわかる。次に、学年で比較してみると、週4日以上インターネットを利用する割合が、1年次(67.4%)、2年次(73.6%)、3年次(82.8%)、4年次(87.9%)となり、学年が上がるにつれて利用頻度も高まっていることがわかる。最後に学群・学類で比較してみると(データについては『資料編』を参照)、週1日以下の利用と答えている学生が多いのは、1・2年次では、教育学類(20.0%)、地球学類(19.5%)、物理学類(17.5%)、化学類(15.0%)、芸術専門学群(18.1%)であり、3年次以上では医学専門学群(7.9%)、芸術専門学群(8.8%)であった。逆に、週4日以上利用している学生が多いのは、1・2年次では、情報学類(92.7%)、情報メディア創成学類(96.2%)が圧倒的に高く、次いで社会工学類(79.4%)、医学類(78.1%)、知識情報・図書館学類(78.4%)が高かった。3年次以上では全体的に8割を超え、日本語・日本文化学類(90.0%)、生物学類(90.7%)、社会工学類(92.8%)、情報学類(99.4%)、工学システム学類(92.6%)で90%を超えた。

図 2.8 インターネットの利用頻度（学年別、男女別、全体）



## 2.9 インターネットの利用場所について（問 14）

◎約 7 割は自宅でインターネットを利用。

◎学群・学類によって所属学類／専門学群のパソコンの利用頻度に大きな差。

インターネットを主にどこで使用しているかについて、3つまで選択する形で質問を行った。その結果、全体としては、自宅（68.7%）、所属学類／専門学群のパソコン（34.1%）、図書館（27.6%）、携帯電話（19.9%）の順に高かった。男女で比較すると、図書館での利用割合に大きな差異がみられた。学年で比較すると、1年次で自宅での利用割合が他学年に比べて低く、学生宿舎での利用割合（31.9%）が特に高かった。また、この調査ではインターネットカフェやマンガ喫茶も選択肢に含まれていたが、それらを主な利用場所として挙げている割合は全体で 0.3%と低かった。学群・学類で比較すると（詳細なデータについては『資料編』を参照のこと）、1・2年次の社会工学類、知識情報・図書館学類を除く全学群・学類で自宅と答える割合が最も高かった。その2つの学類では所属学類のパソコンを使う割合が最も高く、1・2年次では、国際総合学類（62.1%）、社会工学類（78.7%）、情報科学類（66.4%）、知識情報・図書館学類（67.5%）、看護・医療科学類（63.0%）、3年次以上では、社会工学類（68.7%）、看護・医療科学類（63.6%）、図書館情報専門学群（65.9%）でも、所属学類・学群のパソコンを利用する割合が 60%を超えた。また、インターネットの利用頻度と比較すると、1・2年次では、利用頻度が高いと記述した学類で医学類を除く 4 学類では所属学類のパソコンの利用頻度が圧倒的に高かった。医学類では、図書館のパソコンを利用する割合が高かった。3年次以降では、日本語・日本文化学類、生物学類を除く 4 学類で同様の結果が得られた。



表 2.9 インターネットの利用場所（学年別、男女別、全体）

|      | 1 位      | 2 位        | 3 位        | 4 位        |
|------|----------|------------|------------|------------|
| 1 年次 | 自宅 54.3% | 学生宿舎 31.9% | 図書館 27.3%  | 所属学類 24.0% |
| 2 年次 | 自宅 70.9% | 所属学類 39.8% | 図書館 25.1%  | 携帯電話 22.7% |
| 3 年次 | 自宅 76.3% | 所属学類 41.2% | 図書館 29.1%  | 携帯電話 18.0% |
| 4 年次 | 自宅 74.0% | 所属学類 33.5% | 図書館 25.2%  | 携帯電話 16.3% |
| 男性   | 自宅 70.1% | 所属学類 35.2% | 図書館 20.1%  | 携帯電話 17.4% |
| 女性   | 自宅 67.0% | 図書館 39.5%  | 所属学類 32.3% | 携帯電話 24.0% |
| 全体   | 自宅 68.7% | 所属学類 34.1% | 図書館 27.6%  | 携帯電話 19.9% |

## 2.10 学生宿舎についての満足度について（問 15）

◎不満度がとりわけ高いのは、「補食室」と「トイレ」。

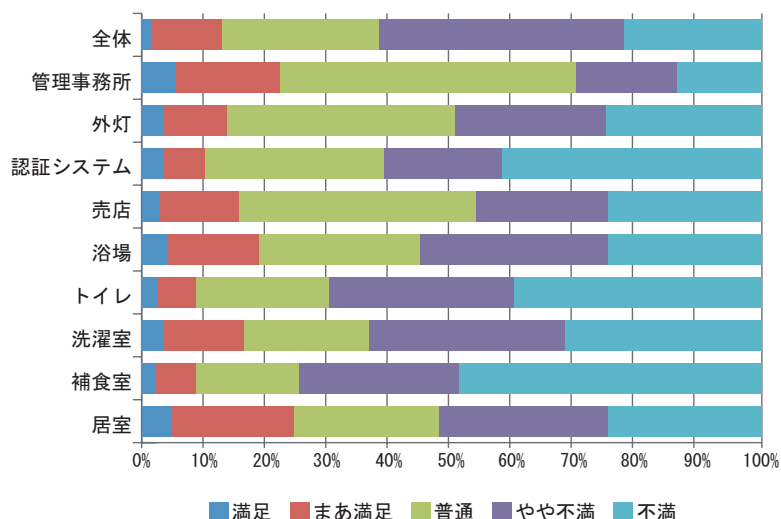
◎「管理事務所の対応」は、前回に比べて、不満の割合が減った。

学生宿舎の満足度について、「入居している」または「入居していた」学生にのみ回答を求め、ほぼ5割にあたる2,460人ほど(項目により多少回答数が異なる)から回答を得た。集計の結果を、表 2.10 に示す。「管理事務所の対応」以外で、何らかの不満を抱えている学生が大多数を占めていることが明らかである。とりわけ、「補食室」と「トイレ」に対する不満度は高く、「不満」と「やや不満」を合わせると、7割以上となる。また、「洗濯室」と「認証システム」、および「全体」に対しても6割を超える学生が不満を感じている。

5年前の前回調査と比べてみると、「補食室」と「トイレ」にとりわけ不満を感じている傾向は同様であるが、数値的には前回に比べて、多少不満度が下がっている。「管理事務所の対応」については、前回約6割の学生が「不満」「やや不満」と答えていたが、今回は3割に減じており、改善があったと判断される。全体として不満度は前回より少なくなっているが、しかし、決して満足している学生が増えたとは考えられない。上で述べたように、入居者の大多数が何らかの不満を抱いていることは間違いない。

なお、宿舎の中では、春日宿舎についての満足度が比較的高いという結果が出ている。これも前回調査と同様の傾向である。

図 2.10 学生宿舎の満足度



## 2.11 日常生活に対する満足度について（問 16）

◎ 6 割の学生が満足している。不満の学生は 2 割弱。

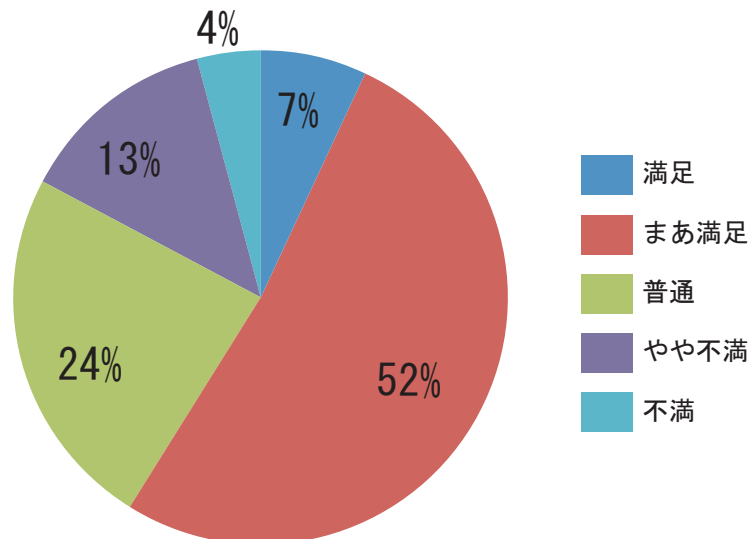
日常生活の全体的な満足度を答えてもらった。その結果、「かなり満足」が7%、「おおむね満足」が52%で、約 6 割の学生が満足している。一方、「少し不満」が 13%、「かなり不満」が 4%で、不満と感じている学生は 2 割弱であることが分かった。5 年前の前回調査と比べると、満足している学生が微増し、不満を感じている学生が微減している。

住居形態との関連をみると、学生宿舎に住んでいる学生は民間のアパート等に住んでいる学生より、満足度が 6%ほど低く、不満度がやはり 6%ほど高いという違いがみられた。親と同居している学生は、満足度と不満度とも、学生宿舎の住人とほぼ同様である。

通学時間との関連では、通学に 1 時間半以上かかると満足度が 5 割を切り、サークル活動との関連では、サークル活動をしたことがないと、やはり満足度が 5 割を下回ることが分かった。1 か月の収入との関連では、収入が増えると多少満足度があがる傾向はあるが、あまり大きな違いはみられない。奨学金受給の有無も満足度を左右する大きな要因とはなっていないようである。

年次別にみると、学年が上がるにつれて満足度が上がる傾向が観察されるが、わずかな違いである。学群・学類別でもそれほど目立った違いはないが、国際総合学類（3 年次以上）の 80%や障害科学類（1・2 年次）の 75%、心理学類（1・2 年次）の 71%、体育専門学群（3 年次以上）の 70%などで日常生活の満足度が高かった。

図 2.11 日常生活の満足度



## 第3章 通学・事故等について

### 3.1 通学の交通手段について（問 17）

- ◎自転車の圧倒的な利用率。
- ◎キャンパス交通システムは利用が拡大。

通学の交通手段として、「徒歩」「自転車」「バイク」「自家用車」「キャンパスバス」「路線バス」「TX」「常磐線」をあげて、複数回答形式で利用手段を尋ねた。

雨天時（図 3.1.2、32 ページ）、雨天以外（図 3.1.1、31 ページ）のどちらにおいても自転車の利用率が最も高い（それぞれ 58.6%、68.5%）。前回調査（平成 15 年）では 80%を超えていた自転車の割合が減少傾向ではあるが、依然として本学の学生生活を象徴する一面であるといえる。ただし一方で、深刻な駐輪スペースの問題を引き起こしている現象とも言える。

平成 17 年から開始されたキャンパス交通システム（学内循環バス）については、TX ないし常磐線と併せて利用している者もあり、それらを含めると 20%強のシェアとなる。システムが異なるため、単純に比較はできないが、前回 5%にも満たないシェアが大幅に拡大している。

雨天時と雨天以外を比べると、雨天時に自転車の利用が 10%ほど減り、その分が徒歩と学内循環バス利用で増えている形である。

なお、乗用車については 7%前後と、前回とほぼ同様の利用率となっている。

### 3.2 キャンパス交通システム利用証の所有について（問 18）

- ◎低学年ほど利用証を所有している。
- ◎現在所有は、男子 4 割弱、女子 6 割弱。
- ◎学群・学類間で大きな違いがある。

キャンパス交通システム利用証の所有について尋ねた（図 3.2、33 ページ）。1・2 年次の学類単位の集計では、多くの学類で 60%以上の学生が利用証を所有していることが分かる。学年別集計を見ても分かるが、高学年になるほど所有していない学生が増えてくる。また、医学系の学類での所有率が低いことが指摘できる。講義等で学内移動を必要とする学生が少ないことが理由としてあげられるかもしれない。

図 3.1.1 通学時の交通手段（雨天以外、学群・学類別、学年別、男女別、全体）

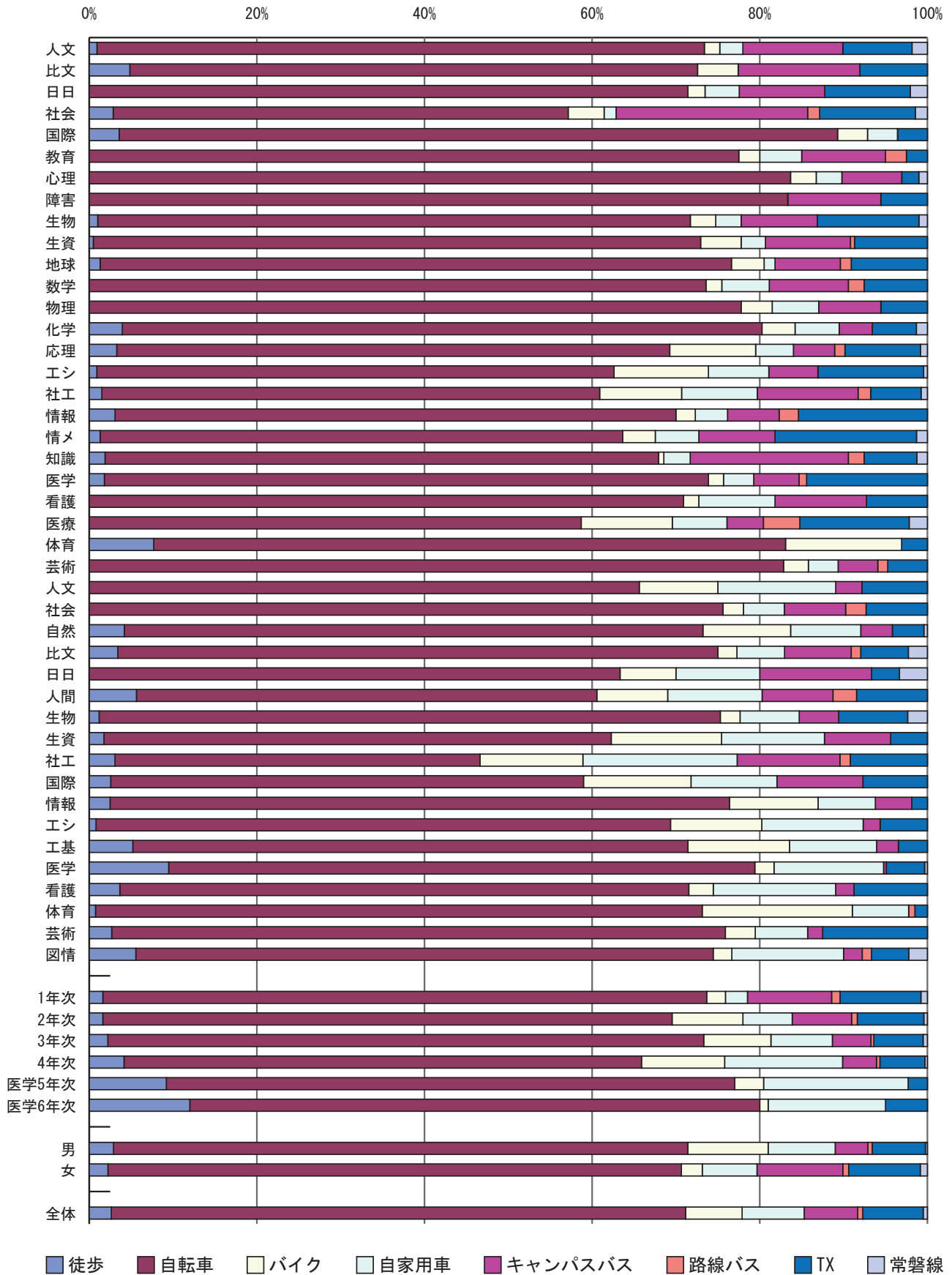


図 3.1.2 通学時の交通手段（雨天時、学群・学類別、学年別、男女別、全体）

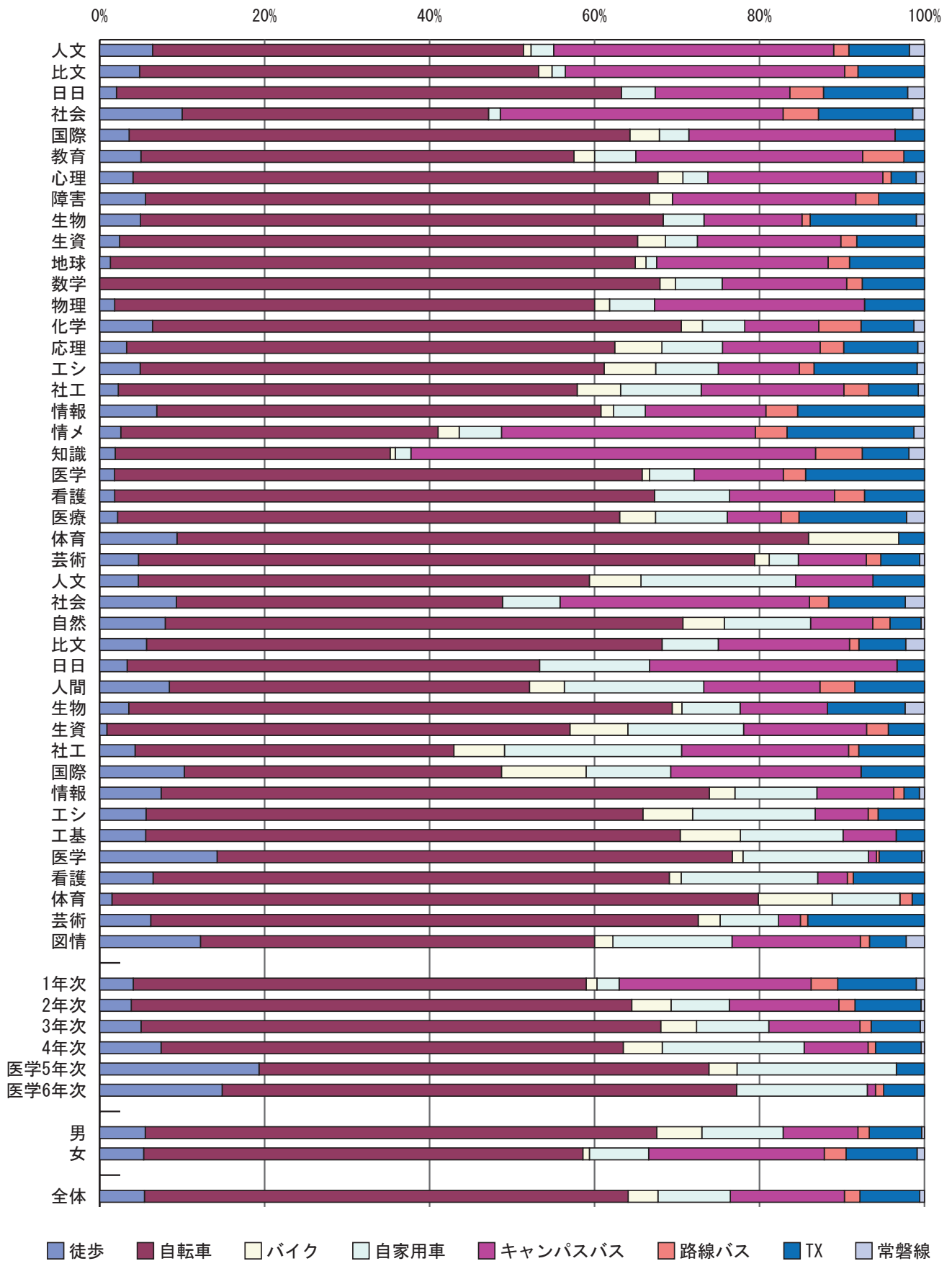
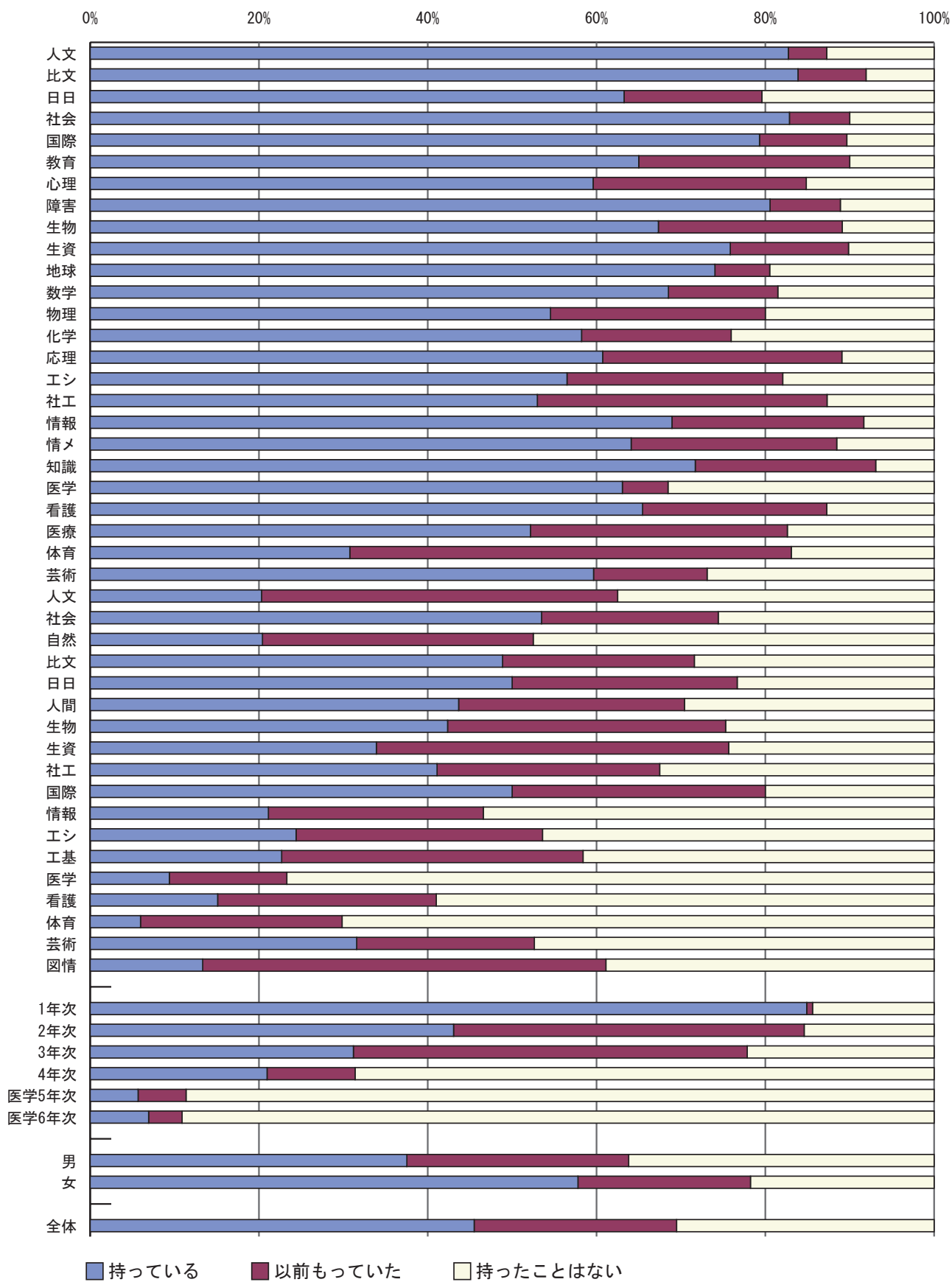


図 3.2 キャンパス交通システム利用証の所有（学群・学類別、学年別、男女別、全体）



### 3.3 キャンパス交通システムの利用頻度について (問 19)

- ◎全体でおよそ 20%の学生が多頻度利用。
- ◎利用頻度は利用証の所有とほぼ比例する。

キャンパス交通システムの利用頻度について、「ほぼ毎日」「週に 2～3 回」「月に 2～3 回」「年に数回」「これまでに数回」「利用したことはない」の 6 項目から 1 つを選択してもらった。(図 3.3、35 ページ)

一部の学類を除き、かなりの学生が月に 2～3 回以上、キャンパス交通システムを利用していることが分かる。月に 2～3 回以上で、利用証の購入額に見合う利用回数となるが、図を比較してみると、利用頻度と所有率についての相関が高いことは明らかである。

利用証の場合と同様に、学年を重ねるに従って、利用頻度は下がる傾向にある。

### 3.4 通学時間について (問 20)

- ◎およそ 4 分の 3 の学生が 15 分以内の通学時間。
- ◎ 30 分以上かけて通学する学生は 1 割。

通学に要する時間を 7 項目から選択してもらった(図 3.4、36 ページ)。通学手段から容易に想像できるが、77%の学生が 15 分以内の通学時間となっている。学生宿舎の充実、キャンパス周辺の学生アパート等の多さがその背景にあると考察できる。

その一方で、TX の開業等により通学の遠距離化も想像できるが、本項目は今回の調査で初めて設定された質問項目であり、残念ながら、前回等との比較はできない。30 分以上の時間をかけて通学している学生は全体の 11%、1 時間以上かけている学生は 6.8%である。

図 3.3 キャンパス交通システムの利用頻度（学群・学類別、学年別、男女別、全体）

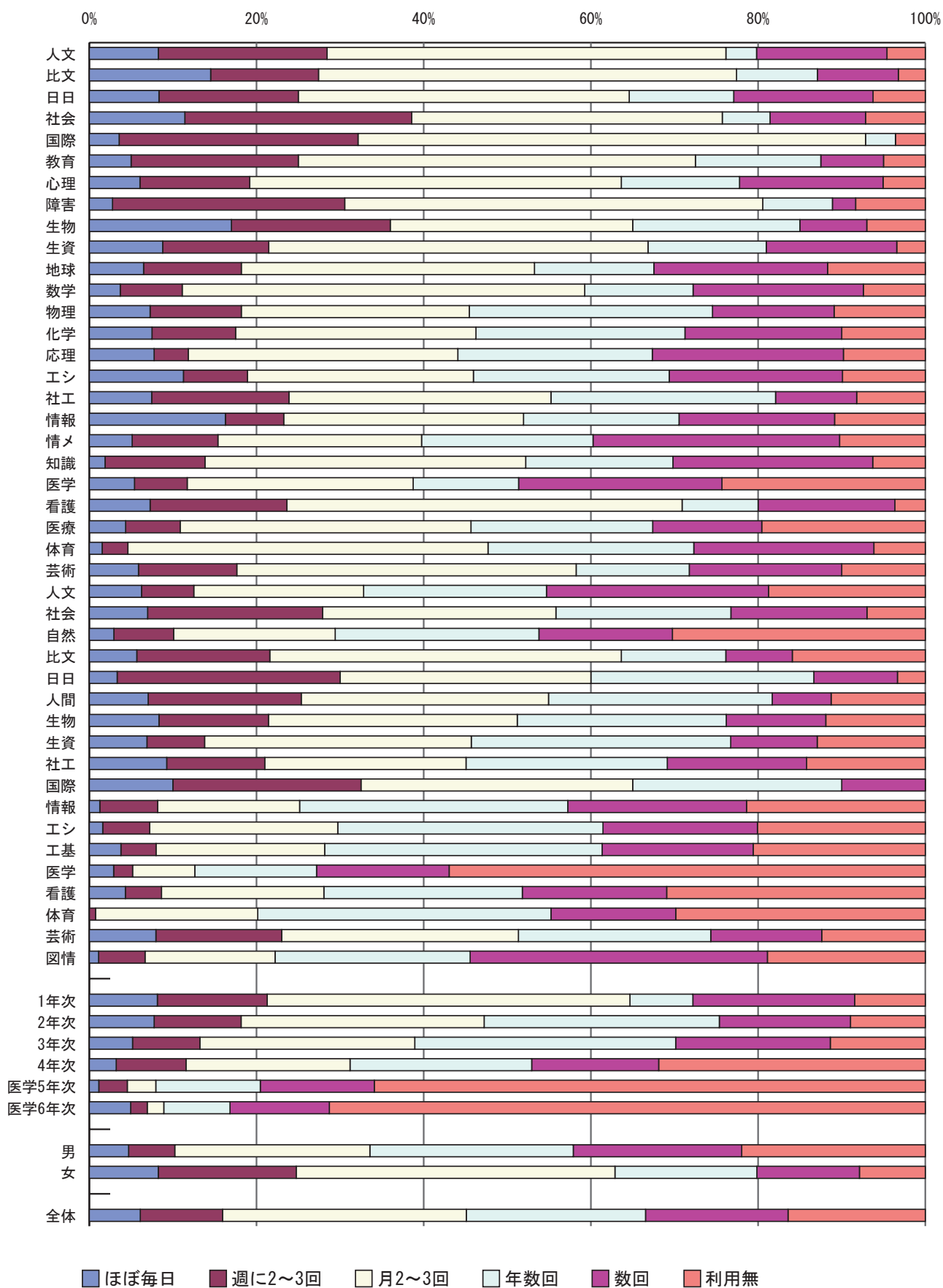
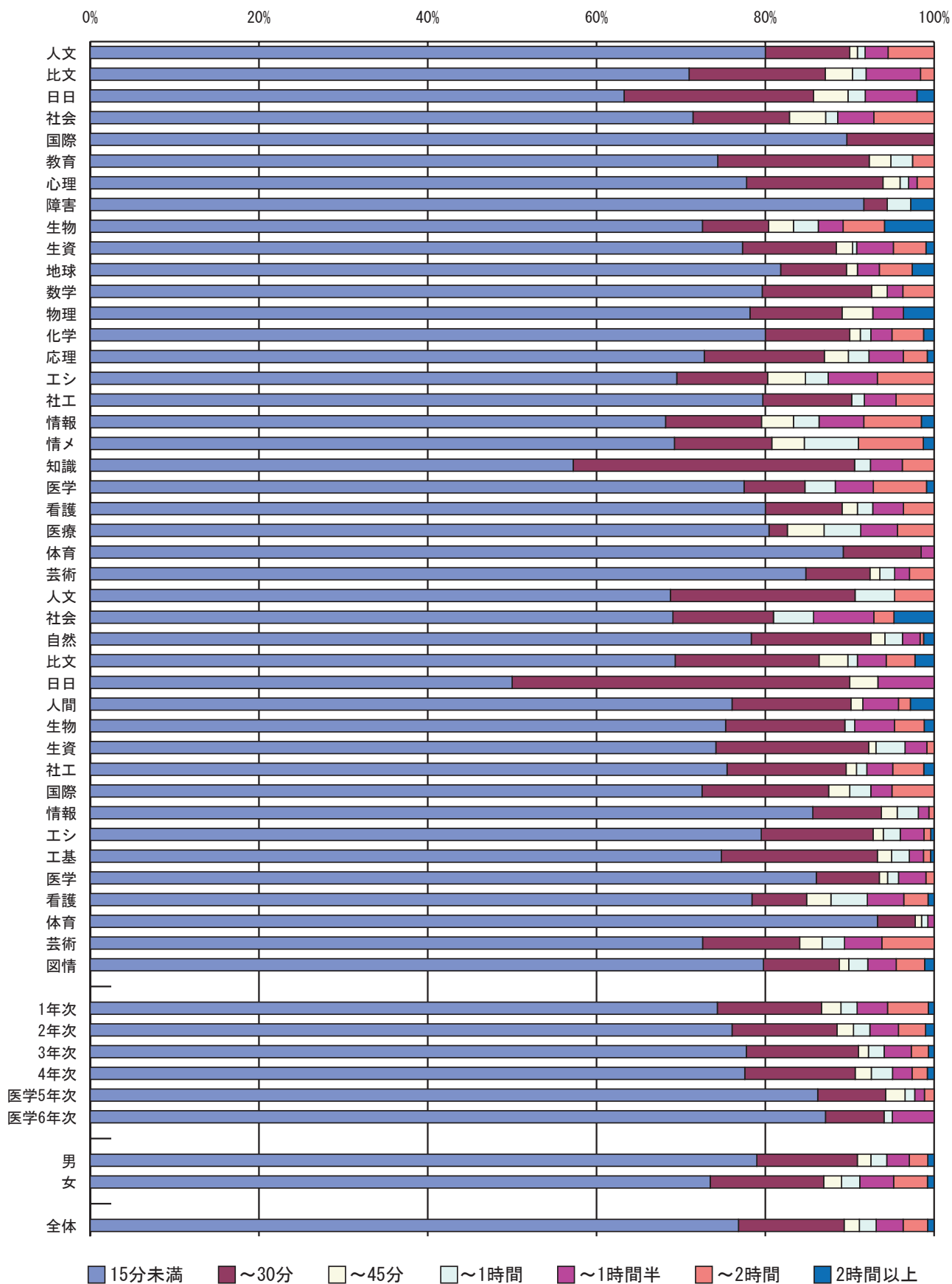




図 3.4 通学時間 (学群・学類別、学年別、男女別、全体)



### 3.5 交通事故について (問 21)

- ◎全体の15%が事故の体験。
- ◎男子学生の方が女子学生に比べて加害者の割合が高い。

大学入学後の交通事故に関して、「加害者」「被害者」「自損事故」の経験を複数回答で尋ねた。結果を表3.5(38ページ)に示す。事故当時の学生の生活背景に関する情報がないので、事故の関連要因については不明である。全体を見ると、事故の体験割合は約15%であり、前回の結果に比べて大きく減少していた。内訳で見ても、加害者、被害者、自損事故のすべてで減少していたのは望ましい傾向である。年次があがるにつれて被害者の割合が増えていくのはやむをえないが、年次が早いうちから注意を促したい。前回同様、医学専門学群医学類は、おしなべて事故の体験が多く、特に加害者の割合が高かった。1・2年次生では他の学類と変わらないのに、5・6年次の割合の高さが顕著である。この学類の近年変わらない傾向とすれば大学側は原因を究明する必要がある。学生は人の生命の重さを改めて心に留め、安全運転を心がけてほしい。男女別の比較では、男子学生の方が女子学生に比べて加害者の割合が高かった。男子学生は運転時に特に安全に注意してほしい。

### 3.6 盗難被害について (問 22)

- ◎全体の29%が盗難の被害者。
- ◎学生宿舎内での被害は10%減少。
- ◎男子学生の方が女子学生に比べて被害者の割合が高い。

大学入学後の盗難被害に関して、表3.6(39ページ)に示す。今回の設問では、被害の詳細については尋ねず、被害の有無を場所別に、「学内」「学生宿舎内」「学外」のいずれであったかについて複数回答で尋ねた。全体の29%が盗難の被害者であり、その値は決して小さくないが、前回の37%に比べて8%も減少したのは望ましい傾向である。特に、前回の被害場所のトップであった学生宿舎内での被害は10%も減少していた。学生宿舎の認証システムの導入によるセキュリティ強化、入居オリエンテーション及び掲示等による防犯意識の啓蒙強化の成果と考えられる。一方、学内での被害割合がわずかではあるが増加しており、今後の一層の対策が望まれる。男女別で比較すると、男子学生の方が女子学生に比べて被害者の割合が高く、その差は前回より顕著である。女子学生の被害が減少するのは望ましい傾向であるが、男子学生には特に注意を促したい。学群・学類別の結果から、学内では中地区での被害割合が高いことが示唆される。また、体育専門学群の1・2年次生は学内外を問わずおしなべて被害割合が高い傾向にあり、入学早期から注意を促したい。

表 3.5 交通事故 (学群・学類別、学年別、全体)

| 学類    | 回答数  | 加害者の経験 |       | 被害者の経験 |       | 自損事故の経験 |       | 事故の経験なし |       |
|-------|------|--------|-------|--------|-------|---------|-------|---------|-------|
|       |      | 件数     | 割合    | 件数     | 割合    | 件数      | 割合    | 件数      | 割合    |
| 1・2年次 |      |        |       |        |       |         |       |         |       |
| 人文    | 109  | 0      | 0.0%  | 7      | 6.4%  | 3       | 2.8%  | 100     | 91.7% |
| 比文    | 62   | 1      | 1.6%  | 6      | 9.7%  | 2       | 3.2%  | 54      | 87.1% |
| 日日    | 49   | 0      | 0.0%  | 0      | 0.0%  | 3       | 6.1%  | 46      | 93.9% |
| 社会    | 70   | 0      | 0.0%  | 5      | 7.1%  | 6       | 8.6%  | 61      | 87.1% |
| 国総    | 29   | 0      | 0.0%  | 2      | 6.9%  | 0       | 0.0%  | 27      | 93.1% |
| 教育    | 40   | 0      | 0.0%  | 0      | 0.0%  | 1       | 2.5%  | 39      | 97.5% |
| 心理    | 99   | 1      | 1.0%  | 5      | 5.1%  | 6       | 6.1%  | 88      | 88.9% |
| 障害    | 36   | 1      | 2.8%  | 1      | 2.8%  | 0       | 0.0%  | 34      | 94.4% |
| 生物    | 102  | 2      | 2.0%  | 6      | 5.9%  | 4       | 3.9%  | 90      | 88.2% |
| 生資    | 207  | 1      | 0.5%  | 9      | 4.3%  | 11      | 5.3%  | 187     | 90.3% |
| 地球    | 77   | 0      | 0.0%  | 4      | 5.2%  | 3       | 3.9%  | 70      | 90.9% |
| 数学    | 54   | 1      | 1.9%  | 1      | 1.9%  | 5       | 9.3%  | 47      | 87.0% |
| 物理    | 54   | 2      | 3.7%  | 3      | 5.6%  | 0       | 0.0%  | 49      | 90.7% |
| 化学    | 80   | 0      | 0.0%  | 4      | 5.0%  | 2       | 2.5%  | 74      | 92.5% |
| 応理    | 246  | 6      | 2.4%  | 9      | 3.7%  | 4       | 1.6%  | 230     | 93.5% |
| 工シ    | 221  | 1      | 0.5%  | 12     | 5.4%  | 13      | 5.9%  | 197     | 89.1% |
| 社工    | 134  | 1      | 0.7%  | 3      | 2.2%  | 10      | 7.5%  | 122     | 91.0% |
| 情科    | 132  | 5      | 3.8%  | 9      | 6.8%  | 4       | 3.0%  | 117     | 88.6% |
| 情メ    | 77   | 1      | 1.3%  | 2      | 2.6%  | 0       | 0.0%  | 74      | 96.1% |
| 知図    | 159  | 3      | 1.9%  | 11     | 6.9%  | 6       | 3.8%  | 139     | 87.4% |
| 医学    | 111  | 4      | 3.6%  | 4      | 3.6%  | 4       | 3.6%  | 101     | 91.0% |
| 看護    | 55   | 0      | 0.0%  | 3      | 5.5%  | 0       | 0.0%  | 52      | 94.5% |
| 医療    | 46   | 0      | 0.0%  | 1      | 2.2%  | 0       | 0.0%  | 45      | 97.8% |
| 体専    | 65   | 1      | 1.5%  | 0      | 0.0%  | 2       | 3.1%  | 63      | 96.9% |
| 芸専    | 170  | 1      | 0.6%  | 10     | 5.9%  | 8       | 4.7%  | 155     | 91.2% |
| 3年次以上 |      |        |       |        |       |         |       |         |       |
| 人文    | 64   | 2      | 3.1%  | 4      | 6.3%  | 0       | 0.0%  | 59      | 92.2% |
| 社会    | 43   | 2      | 4.7%  | 1      | 2.3%  | 0       | 0.0%  | 41      | 95.3% |
| 自然    | 239  | 16     | 6.7%  | 25     | 10.5% | 15      | 6.3%  | 192     | 80.3% |
| 比文    | 88   | 3      | 3.4%  | 12     | 13.6% | 5       | 5.7%  | 70      | 79.5% |
| 日日    | 29   | 0      | 0.0%  | 3      | 10.3% | 1       | 3.4%  | 25      | 86.2% |
| 人間    | 71   | 2      | 2.8%  | 12     | 16.9% | 8       | 11.3% | 49      | 69.0% |
| 生物    | 85   | 5      | 5.9%  | 8      | 9.4%  | 3       | 3.5%  | 72      | 84.7% |
| 生資    | 116  | 8      | 6.9%  | 18     | 15.5% | 13      | 11.2% | 85      | 73.3% |
| 社工    | 163  | 9      | 5.5%  | 24     | 14.7% | 15      | 9.2%  | 118     | 72.4% |
| 国総    | 40   | 0      | 0.0%  | 5      | 12.5% | 2       | 5.0%  | 33      | 82.5% |
| 情報    | 161  | 6      | 3.7%  | 16     | 9.9%  | 8       | 5.0%  | 133     | 82.6% |
| 工シ    | 250  | 11     | 4.4%  | 28     | 11.2% | 20      | 8.0%  | 201     | 80.4% |
| 工基    | 238  | 9      | 3.8%  | 25     | 10.5% | 13      | 5.5%  | 202     | 84.9% |
| 医学    | 307  | 43     | 14.0% | 45     | 14.7% | 42      | 13.7% | 197     | 64.2% |
| 看医    | 139  | 11     | 7.9%  | 9      | 6.5%  | 5       | 3.6%  | 117     | 84.2% |
| 体専    | 134  | 4      | 3.0%  | 18     | 13.4% | 5       | 3.7%  | 111     | 82.8% |
| 芸専    | 113  | 2      | 1.8%  | 13     | 11.5% | 6       | 5.3%  | 94      | 83.2% |
| 図情    | 91   | 4      | 4.4%  | 12     | 13.2% | 5       | 5.5%  | 74      | 81.3% |
| 1年次   | 1302 | 12     | 0.9%  | 50     | 3.8%  | 35      | 2.7%  | 1212    | 93.1% |
| 2年次   | 1180 | 20     | 1.7%  | 66     | 5.6%  | 62      | 5.3%  | 1048    | 88.8% |
| 3年次   | 1182 | 39     | 3.3%  | 108    | 9.1%  | 69      | 5.8%  | 993     | 84.0% |
| 4年次   | 998  | 64     | 6.4%  | 139    | 13.9% | 69      | 6.9%  | 766     | 76.8% |
| 医5年次  | 87   | 13     | 14.9% | 18     | 20.7% | 15      | 17.2% | 48      | 55.2% |
| 医6年次  | 99   | 20     | 20.2% | 12     | 12.1% | 13      | 13.1% | 63      | 63.6% |
| 男性    | 2925 | 121    | 4.1%  | 239    | 8.2%  | 170     | 5.8%  | 2471    | 84.5% |
| 女性    | 1891 | 48     | 2.5%  | 153    | 8.1%  | 91      | 4.8%  | 1629    | 86.1% |
| 合計    | 4816 | 169    | 3.5%  | 392    | 8.1%  | 261     | 5.4%  | 4100    | 85.1% |

表 3.6 盗難被害 (学群・学類別、学年別、男女別、全体)

| 学類    | 回答数  | 学内  |       | 学生宿舎内 |       | 学外  |       | 被害なし |       |
|-------|------|-----|-------|-------|-------|-----|-------|------|-------|
|       |      | 件数  | 割合    | 件数    | 割合    | 件数  | 割合    | 件数   | 割合    |
| 1・2年次 |      |     |       |       |       |     |       |      |       |
| 人文    | 109  | 10  | 9.2%  | 18    | 16.5% | 5   | 4.6%  | 81   | 74.3% |
| 比文    | 61   | 7   | 11.5% | 6     | 9.8%  | 4   | 6.6%  | 45   | 73.8% |
| 日日    | 49   | 5   | 10.2% | 1     | 2.0%  | 1   | 2.0%  | 42   | 85.7% |
| 社会    | 69   | 12  | 17.4% | 7     | 10.1% | 3   | 4.3%  | 49   | 71.0% |
| 国総    | 29   | 6   | 20.7% | 2     | 6.9%  | 1   | 3.4%  | 21   | 72.4% |
| 教育    | 40   | 6   | 15.0% | 9     | 22.5% | 0   | 0.0%  | 28   | 70.0% |
| 心理    | 99   | 11  | 11.1% | 10    | 10.1% | 5   | 5.1%  | 76   | 76.8% |
| 障害    | 36   | 1   | 2.8%  | 3     | 8.3%  | 1   | 2.8%  | 31   | 86.1% |
| 生物    | 102  | 10  | 9.8%  | 9     | 8.8%  | 3   | 2.9%  | 81   | 79.4% |
| 生資    | 206  | 15  | 7.3%  | 17    | 8.3%  | 20  | 9.7%  | 160  | 77.7% |
| 地球    | 76   | 12  | 15.8% | 6     | 7.9%  | 3   | 3.9%  | 56   | 73.7% |
| 数学    | 54   | 5   | 9.3%  | 6     | 11.1% | 6   | 11.1% | 41   | 75.9% |
| 物理    | 55   | 8   | 14.5% | 8     | 14.5% | 5   | 9.1%  | 39   | 70.9% |
| 化学    | 80   | 9   | 11.3% | 11    | 13.8% | 6   | 7.5%  | 60   | 75.0% |
| 応理    | 246  | 35  | 14.2% | 21    | 8.5%  | 14  | 5.7%  | 185  | 75.2% |
| 工シ    | 222  | 32  | 14.4% | 16    | 7.2%  | 25  | 11.3% | 155  | 69.8% |
| 社工    | 134  | 26  | 19.4% | 11    | 8.2%  | 16  | 11.9% | 92   | 68.7% |
| 情科    | 131  | 20  | 15.3% | 4     | 3.1%  | 5   | 3.8%  | 103  | 78.6% |
| 情メ    | 77   | 3   | 3.9%  | 1     | 1.3%  | 8   | 10.4% | 66   | 85.7% |
| 知図    | 158  | 16  | 10.1% | 6     | 3.8%  | 7   | 4.4%  | 132  | 83.5% |
| 医学    | 111  | 8   | 7.2%  | 2     | 1.8%  | 6   | 5.4%  | 96   | 86.5% |
| 看護    | 55   | 11  | 20.0% | 3     | 5.5%  | 6   | 10.9% | 38   | 69.1% |
| 医療    | 46   | 2   | 4.3%  | 3     | 6.5%  | 4   | 8.7%  | 38   | 82.6% |
| 体専    | 65   | 9   | 13.8% | 11    | 16.9% | 9   | 13.8% | 40   | 61.5% |
| 芸専    | 170  | 31  | 18.2% | 21    | 12.4% | 9   | 5.3%  | 116  | 68.2% |
| 3年次以上 |      |     |       |       |       |     |       |      |       |
| 人文    | 64   | 9   | 14.1% | 7     | 10.9% | 15  | 23.4% | 35   | 54.7% |
| 社会    | 43   | 10  | 23.3% | 2     | 4.7%  | 10  | 23.3% | 24   | 55.8% |
| 自然    | 239  | 36  | 15.1% | 22    | 9.2%  | 34  | 14.2% | 164  | 68.6% |
| 比文    | 88   | 13  | 14.8% | 6     | 6.8%  | 18  | 20.5% | 54   | 61.4% |
| 日日    | 29   | 6   | 20.7% | 2     | 6.9%  | 2   | 6.9%  | 19   | 65.5% |
| 人間    | 70   | 12  | 17.1% | 7     | 10.0% | 11  | 15.7% | 45   | 64.3% |
| 生物    | 84   | 16  | 19.0% | 10    | 11.9% | 11  | 13.1% | 56   | 66.7% |
| 生資    | 115  | 24  | 20.9% | 12    | 10.4% | 25  | 21.7% | 60   | 52.2% |
| 社工    | 163  | 36  | 22.1% | 12    | 7.4%  | 21  | 12.9% | 105  | 64.4% |
| 国総    | 40   | 5   | 12.5% | 3     | 7.5%  | 5   | 12.5% | 28   | 70.0% |
| 情報    | 161  | 19  | 11.8% | 14    | 8.7%  | 35  | 21.7% | 103  | 64.0% |
| 工シ    | 247  | 46  | 18.6% | 22    | 8.9%  | 25  | 10.1% | 172  | 69.6% |
| 工基    | 237  | 49  | 20.7% | 13    | 5.5%  | 33  | 13.9% | 156  | 65.8% |
| 医学    | 307  | 40  | 13.0% | 17    | 5.5%  | 41  | 13.4% | 219  | 71.3% |
| 看医    | 137  | 13  | 9.5%  | 0     | 0.0%  | 16  | 11.7% | 110  | 80.3% |
| 体専    | 132  | 23  | 17.4% | 20    | 15.2% | 21  | 15.9% | 75   | 56.8% |
| 芸専    | 112  | 21  | 18.8% | 13    | 11.6% | 19  | 17.0% | 68   | 60.7% |
| 図情    | 89   | 6   | 6.7%  | 3     | 3.4%  | 12  | 13.5% | 71   | 79.8% |
| 1年次   | 1298 | 138 | 10.6% | 111   | 8.6%  | 59  | 4.5%  | 1027 | 79.1% |
| 2年次   | 1180 | 171 | 14.5% | 101   | 8.6%  | 113 | 9.6%  | 843  | 71.4% |
| 3年次   | 1174 | 192 | 16.4% | 76    | 6.5%  | 153 | 13.0% | 803  | 68.4% |
| 4年次   | 992  | 169 | 17.0% | 98    | 9.9%  | 170 | 17.1% | 625  | 63.0% |
| 医5年次  | 86   | 6   | 7.0%  | 4     | 4.7%  | 14  | 16.3% | 63   | 73.3% |
| 医6年次  | 100  | 17  | 17.0% | 6     | 6.0%  | 16  | 16.0% | 70   | 70.0% |
| 男性    | 2915 | 462 | 15.8% | 267   | 9.2%  | 357 | 12.2% | 1984 | 68.1% |
| 女性    | 1883 | 226 | 12.0% | 128   | 6.8%  | 166 | 8.8%  | 1423 | 75.6% |
| 合計    | 4798 | 688 | 14.3% | 395   | 8.2%  | 523 | 10.9% | 3407 | 71.0% |

### 3.7 傷害等の被害について (問 23)

- ◎全体の3%が傷害等の被害者。
- ◎研究学園都市内での被害が最も多い。
- ◎学内での被害は1年次に発生しやすい可能性がある。

大学入学後の傷害等の被害に関して、表 3.7 (41 ページ) に示す。今回の設問では、被害の詳細については尋ねず、被害の有無を場所別に、「学内」「学生宿舎内」「研究学園都市内」「それ以外」のいずれであったかについて複数回答で尋ねた。全体の発生率は3%であり、前回の約半分減少している。前回は医学専門学群医学類の被害が顕著であったが、今回はそうした傾向が見られず、3年次以上では人文学類、国際総合学類などで高かった(いずれも学外)。応用理工学類や看護学類では、1・2年次で被害が5%以上発生しており、特に前者では学内での発生件数が目立つ。今回の結果では、発生場所は研究学園都市内が最も多く、ついで学内、研究学園都市外、学生宿舎内の順であった。学内での被害の割合は、1年次から4年次までのどの年次でも1%前後と等しかった。年次が進むごとに経験が累積していることを考えると、1年次の被害発生が最も多い可能性がある。大学として、入学後まもない学生に対する注意喚起の必要があると考えられる。

表 3.7 傷害等の被害（学群・学類別、学年別、男女別、全体）

| 学類    | 回答数  | 学内 |      | 学生宿舎内 |      | 研究学園都市内 |      | 左記以外 |      | 被害なし |        |
|-------|------|----|------|-------|------|---------|------|------|------|------|--------|
|       |      | 件数 | 割合   | 件数    | 割合   | 件数      | 割合   | 件数   | 割合   | 件数   | 割合     |
| 1・2年次 |      |    |      |       |      |         |      |      |      |      |        |
| 人文    | 109  | 1  | 0.9% | 1     | 0.9% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 107  | 98.2%  |
| 比文    | 61   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 61   | 100.0% |
| 日日    | 48   | 1  | 2.1% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 47   | 97.9%  |
| 社会    | 70   | 2  | 2.9% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 68   | 97.1%  |
| 国総    | 29   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 29   | 100.0% |
| 教育    | 40   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 1    | 2.5% | 39   | 97.5%  |
| 心理    | 99   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 1       | 1.0% | 0    | 0.0% | 98   | 99.0%  |
| 障害    | 36   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 36   | 100.0% |
| 生物    | 102  | 1  | 1.0% | 0     | 0.0% | 1       | 1.0% | 0    | 0.0% | 100  | 98.0%  |
| 生資    | 207  | 0  | 0.0% | 1     | 0.5% | 0       | 0.0% | 1    | 0.5% | 205  | 99.0%  |
| 地球    | 77   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 77   | 100.0% |
| 数学    | 54   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 54   | 100.0% |
| 物理    | 55   | 0  | 0.0% | 2     | 3.6% | 0       | 0.0% | 1    | 1.8% | 52   | 94.5%  |
| 化学    | 79   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 1       | 1.3% | 0    | 0.0% | 78   | 98.7%  |
| 応理    | 246  | 6  | 2.4% | 1     | 0.4% | 3       | 1.2% | 3    | 1.2% | 233  | 94.7%  |
| 工シ    | 223  | 4  | 1.8% | 0     | 0.0% | 4       | 1.8% | 4    | 1.8% | 212  | 95.1%  |
| 社工    | 134  | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 2       | 1.5% | 0    | 0.0% | 132  | 98.5%  |
| 情科    | 131  | 3  | 2.3% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 128  | 97.7%  |
| 情メ    | 76   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 1    | 1.3% | 75   | 98.7%  |
| 知図    | 158  | 1  | 0.6% | 0     | 0.0% | 3       | 1.9% | 0    | 0.0% | 154  | 97.5%  |
| 医学    | 111  | 1  | 0.9% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 110  | 99.1%  |
| 看護    | 55   | 1  | 1.8% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 2    | 3.6% | 52   | 94.5%  |
| 医療    | 46   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 46   | 100.0% |
| 体専    | 65   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 65   | 100.0% |
| 芸専    | 169  | 1  | 0.6% | 0     | 0.0% | 5       | 3.0% | 1    | 0.6% | 163  | 96.4%  |
| 3年次以上 |      |    |      |       |      |         |      |      |      |      |        |
| 人文    | 64   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 4       | 6.3% | 1    | 1.6% | 59   | 92.2%  |
| 社会    | 43   | 2  | 4.7% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 41   | 95.3%  |
| 自然    | 237  | 1  | 0.4% | 1     | 0.4% | 1       | 0.4% | 3    | 1.3% | 231  | 97.5%  |
| 比文    | 88   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 3       | 3.4% | 0    | 0.0% | 85   | 96.6%  |
| 日日    | 30   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 1       | 3.3% | 1    | 3.3% | 28   | 93.3%  |
| 人間    | 71   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 0       | 0.0% | 0    | 0.0% | 71   | 100.0% |
| 生物    | 83   | 1  | 1.2% | 0     | 0.0% | 1       | 1.2% | 0    | 0.0% | 81   | 97.6%  |
| 生資    | 115  | 1  | 0.9% | 0     | 0.0% | 4       | 3.5% | 2    | 1.7% | 109  | 94.8%  |
| 社工    | 162  | 2  | 1.2% | 0     | 0.0% | 2       | 1.2% | 2    | 1.2% | 156  | 96.3%  |
| 国総    | 40   | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 3       | 7.5% | 0    | 0.0% | 37   | 92.5%  |
| 情報    | 160  | 1  | 0.6% | 0     | 0.0% | 2       | 1.3% | 1    | 0.6% | 157  | 98.1%  |
| 工シ    | 247  | 1  | 0.4% | 0     | 0.0% | 3       | 1.2% | 1    | 0.4% | 242  | 98.0%  |
| 工基    | 236  | 2  | 0.8% | 2     | 0.8% | 8       | 3.4% | 2    | 0.8% | 222  | 94.1%  |
| 医学    | 307  | 3  | 1.0% | 4     | 1.3% | 6       | 2.0% | 5    | 1.6% | 294  | 95.8%  |
| 看医    | 138  | 1  | 0.7% | 0     | 0.0% | 2       | 1.4% | 1    | 0.7% | 134  | 97.1%  |
| 体専    | 133  | 0  | 0.0% | 1     | 0.8% | 1       | 0.8% | 0    | 0.0% | 132  | 99.2%  |
| 芸専    | 111  | 0  | 0.0% | 0     | 0.0% | 2       | 1.8% | 2    | 1.8% | 107  | 96.4%  |
| 図情    | 89   | 1  | 1.1% | 0     | 0.0% | 1       | 1.1% | 0    | 0.0% | 87   | 97.8%  |
| 1年次   | 1299 | 10 | 0.8% | 1     | 0.1% | 6       | 0.5% | 5    | 0.4% | 1278 | 98.4%  |
| 2年次   | 1179 | 12 | 1.0% | 4     | 0.3% | 14      | 1.2% | 9    | 0.8% | 1141 | 96.8%  |
| 3年次   | 1174 | 10 | 0.9% | 1     | 0.1% | 18      | 1.5% | 9    | 0.8% | 1138 | 96.9%  |
| 4年次   | 988  | 5  | 0.5% | 6     | 0.6% | 22      | 2.2% | 9    | 0.9% | 951  | 96.3%  |
| 医5年次  | 87   | 0  | 0.0% | 1     | 1.1% | 3       | 3.4% | 1    | 1.1% | 83   | 95.4%  |
| 医6年次  | 100  | 1  | 1.0% | 0     | 0.0% | 1       | 1.0% | 2    | 2.0% | 96   | 96.0%  |
| 男性    | 2911 | 23 | 0.8% | 9     | 0.3% | 32      | 1.1% | 21   | 0.7% | 2830 | 97.2%  |
| 女性    | 1885 | 15 | 0.8% | 4     | 0.2% | 32      | 1.7% | 14   | 0.7% | 1826 | 96.9%  |
| 合計    | 4796 | 38 | 0.8% | 13    | 0.3% | 64      | 1.3% | 35   | 0.7% | 4656 | 97.1%  |

## 第4章 健康状態について

### 4.1 過去1年間の健康状態について（問24）

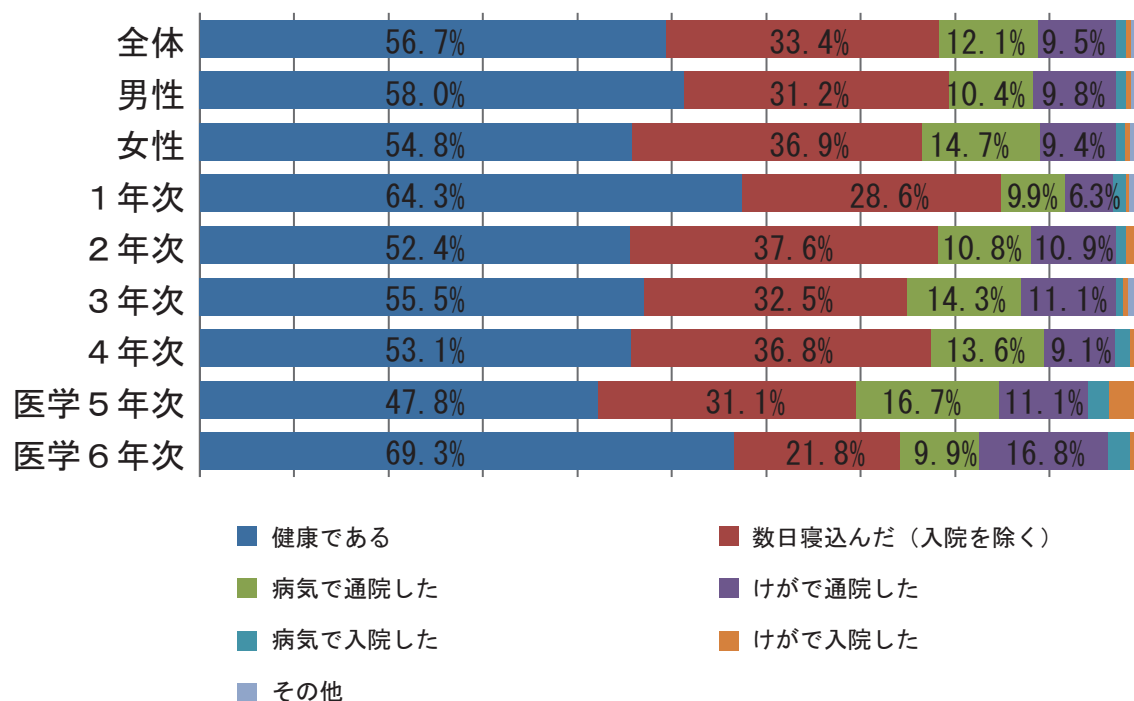
- ◎全体の56.7%が過去1年間健康であった。前回より数値は低くなっている。
- ◎学年では、1年生が一番健康で、2年生以降は割合がやや落ちる。
- ◎けがで通院は体育で多い（1・2年生32.3%、3・4年生23.7%）。

この設問は、「過去1年間の健康状態」について該当するものを複数（4つ以内で）選択するという形式である。前回の調査と回答方法は同じであったが、選択肢が一部変更されている。具体的には、「病気で通院している」という前回の選択肢が「病気で通院した」と表現が変更され、さらに「けがで通院した」という選択肢が追加された。

今回の調査では、「健康である」という選択肢を選択した学生の割合が56.7%で、前回の64.4%と比較すると7.7%減少している。これは、選択肢が増えた影響ともとれるし、複数選択なのであまり影響がないともとれ、判断が難しい。健康状態が若干悪化していることを表しているのかもしれない。

「健康である」の選択状況のその他の特徴としては、女性よりも男性の方が選択が多い、他の学年よりも1年生が多い、医学5年生と6年生の比較では6年生の方が多という傾向は前回と同じであった。ただ、学年の差でいうと、前は4年生で数値がやや回復していたが、今回はそのような傾向が見られず、4年生でも低いままであった。

図4.1 過去1年間の健康状態（学年別、男女別、全体）



## 4.2 学生相談について（問 25）

- ◎前回同様、もっとも相談したい項目は進路・就職。
- ◎進路・就職の相談希望は2・3年生と女子で多い傾向がある。

保健管理センターにある学生相談室で相談したいことについて該当する項目を全て選択するというものであった。今回の調査では、ハラスメント関係の選択肢が3つ追加されている。

前回の調査で「ない」を選択した学生は全体で、63.6%であったが、今回、若干表現は異なっているが「特にない」を選択した学生は全体で72.2%と高くなっている。それゆえ、個々の相談希望項目の選択率は前回よりも全体的に下がっている。

相談希望の多かった項目は、①進路就職、②学習意欲、③情緒、④対人関係、⑤性格であった。前回と比較すると、情緒と対人関係の順序が逆になっているが、前回と同様にその差はほとんどないので、全体としての傾向は変わっていない。

今回新しく追加されたハラスメント関係の3つの項目の選択率は全体としては0.2%から0.3%であった。2年生のみセクシャルハラスメントとアカデミックハラスメントの選択はなかったが、他の学年では全て選択されていた。ただ、4年生のパワーハラスメントは0.7%とハラスメントの中では他に比べると若干高かった。卒業研究等の関係で出現しやすくなるのかもしれない。

表 4.2 学生相談室で相談したいこと（学年別、男女別、全体）

|               | 全体    | 男性    | 女性    | 1年次   | 2年次   | 3年次   | 4年次   | 医学5年次 | 医学6年次 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 専攻や学類・専門学群の変更 | 2.1%  | 2.0%  | 2.2%  | 3.3%  | 3.4%  | 1.3%  | 0.3%  | 0.0%  | 1.0%  |
| 学習意欲          | 7.4%  | 7.6%  | 7.0%  | 7.7%  | 8.3%  | 8.5%  | 5.0%  | 5.6%  | 3.0%  |
| 休学・退学         | 1.6%  | 1.8%  | 1.2%  | 1.1%  | 2.1%  | 1.3%  | 2.0%  | 0.0%  | 1.0%  |
| 進路・就職         | 13.1% | 12.1% | 14.7% | 11.2% | 15.5% | 16.5% | 10.1% | 5.6%  | 4.0%  |
| 恋愛関係          | 2.2%  | 2.2%  | 2.1%  | 2.7%  | 2.0%  | 2.7%  | 1.4%  | 1.1%  | 0.0%  |
| 対人関係          | 5.8%  | 4.8%  | 7.4%  | 6.3%  | 7.3%  | 5.8%  | 4.0%  | 3.3%  | 2.0%  |
| 家族関係          | 0.9%  | 0.6%  | 1.4%  | 0.9%  | 0.5%  | 1.2%  | 1.3%  | 0.0%  | 1.0%  |
| 性格            | 4.8%  | 4.4%  | 5.6%  | 5.8%  | 4.8%  | 5.5%  | 3.3%  | 1.1%  | 4.0%  |
| 情緒            | 6.0%  | 4.2%  | 8.7%  | 6.0%  | 5.8%  | 7.6%  | 4.9%  | 4.4%  | 3.0%  |
| 経済状態          | 2.1%  | 2.1%  | 2.0%  | 3.0%  | 2.1%  | 1.7%  | 1.8%  | 0.0%  | 1.0%  |
| セクシャルハラスメント   | 0.2%  | 0.2%  | 0.1%  | 0.5%  | 0.0%  | 0.2%  | 0.1%  | 0.0%  | 0.0%  |
| アカデミックハラスメント  | 0.2%  | 0.3%  | 0.1%  | 0.2%  | 0.0%  | 0.3%  | 0.3%  | 0.0%  | 0.0%  |
| パワーハラスメント     | 0.3%  | 0.2%  | 0.4%  | 0.1%  | 0.3%  | 0.1%  | 0.7%  | 0.0%  | 1.0%  |
| その他           | 1.0%  | 0.7%  | 1.4%  | 1.2%  | 1.0%  | 0.9%  | 0.9%  | 0.0%  | 0.0%  |
| 特にない          | 72.2% | 73.0% | 70.8% | 74.3% | 68.9% | 69.6% | 74.7% | 77.8% | 87.1% |



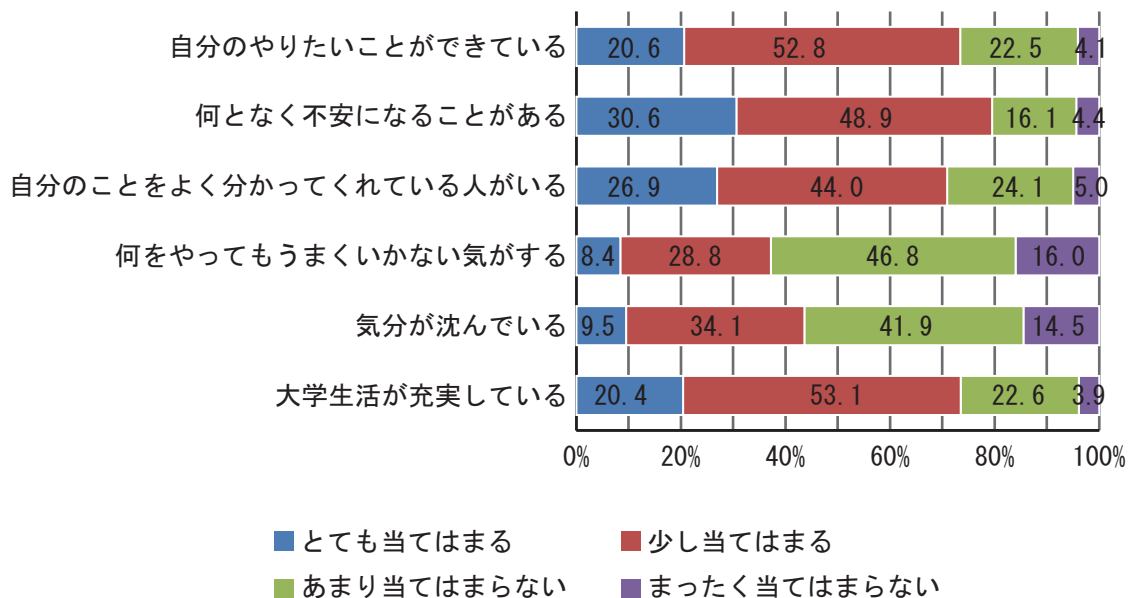
### 4.3 精神的な健康状態について（問 26）

- ◎自分のやりたいことができていると感じている学生は 73.5%。
- ◎大学生活が充実していると感じている学生は 73.5%。
- ◎何となく不安になることがあると少しでも感じている学生は 79.5%。
- ◎気分が沈んでいると少しでも感じている学生は 43.6%。

この設問は、精神的な健康状態や学生生活の状況についての6つの項目から構成されている。その内4項目は前回と同じものであった。「自分のやりたいことができている」では、「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の合計は73.5%で、前回の73.9%とほぼ同様の値であった。「大学生活が充実している」という項目も「とても当てはまる」と「少し当てはまる」の合計は73.5%で、これらの結果からは学生生活が比較的良好な学生の割合も多いと思われる。しかし、その一方で、「何となく不安になることがある」や「気分が沈んでいる」に「とても当てはまる」と回答している学生は、それぞれ30.6%と9.5%で、「少し当てはまる」を含めると79.5%と43.6%になり、精神的に不安定な部分もうかがえる。「自分のことをよく分かってくれる人がいる」の前の結果は「とても当てはまる」が37.8%、「少し当てはまる」が39.5%で、同様に「何をやってもうまくいかない」は6.0%と23.9%、「気分が沈んでいる」では、同様に8.9%と31.2%であった。それゆえ、前回の結果と比較すると、これらの項目では総じて値は悪くなっている。調査方法の影響もあるのかもしれないが、総じて精神的な不安定感は少し増しているのかもしれない。

1年から4年の学年差では、項目によっては学年差の傾向に違いもみられるが、総じて4年生の値は良く、もっとも適応的な傾向を示していた。一方、総じて2年生の値が良くない傾向で、3年生も2年生に近い値であった。学生生活の中間期で適応が下がる傾向がうかがえた。

図 4.3 精神的な健康状態（全体）



## 第5章 クラス制度、学生組織、サークル活動等について

### 5.1 クラスの機能について (問 27)

◎友人・知り合いを作る場としての機能をクラスに認める回答が最も多い。

◎クラスが機能していないとの回答は全体の36%、学年が上がるにつれて増加する。

クラスの機能について尋ねた。図5.1.1に示すように、全回答者の40%がクラスに「友人・知り合いをつくる」場としての機能を認めている。一方、「クラスが機能していない」との回答は全体の36%を占めるが、この回答は総じて学年が上がるほど増加する。クラスが比較的機能しやすい低学年（新学群1・2年）について見ると（図5.1.2）、社会・工学システム・社会工学・情報・体育などの学群・学類において「機能していない」の回答が目立つ。他方、障害科学・生物資源・地球・教育などの学類ではこの回答は少ない。

図 5.1.1 クラスの機能 (学年別、全体)

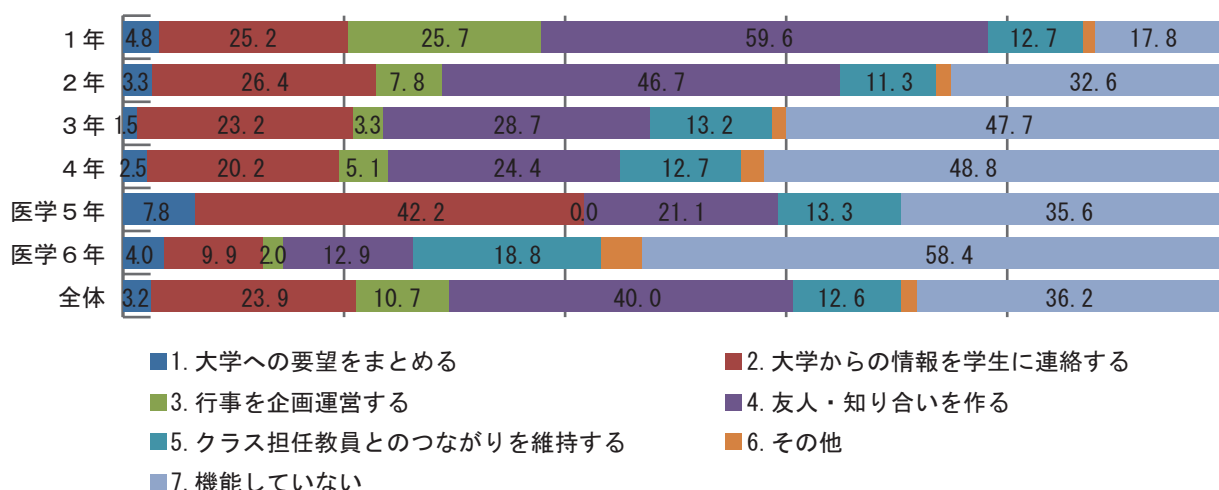
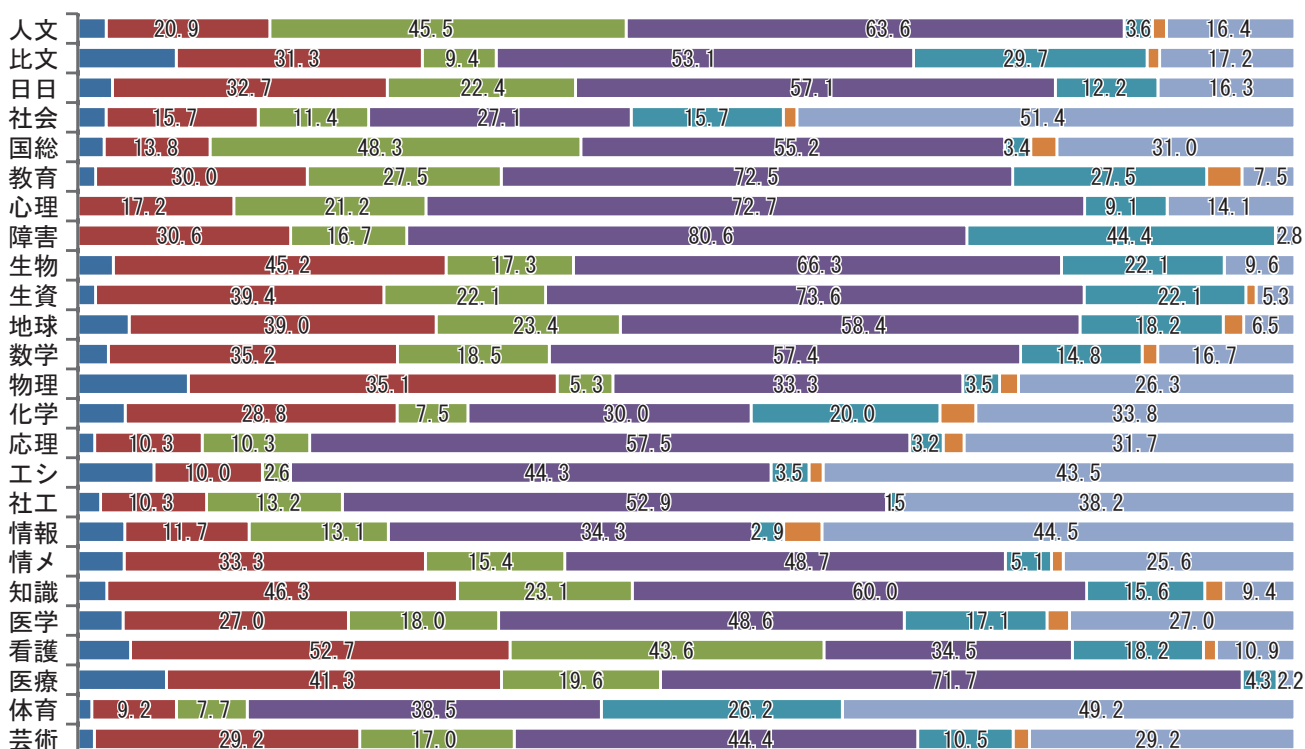


図 5.1.2 クラスの機能 (学群・学類別)



## 5.2 クラスで集まる機会について（問 28）

- ◎授業以外にクラスで集まる機会が特に無いとの回答が最も多い。
- ◎ただし、1年生は多様な場を通じてクラスで集まる機会を作っている。
- ◎問(27)で「クラスが機能していない」との回答が多かった学群・学類ほど、クラスで集まる機会が無いとの回答が多かった。

授業以外にクラスで集まる機会について尋ねた。図 5.2.1 に見るように、授業以外にクラスで集まる機会が「特にない」との回答は全体の 66% に上る。ただし 1 年生だけは顕著に異なる傾向を示しており、他学年に比べ、やどかり祭・学園祭等の多様な機会を通じてクラスでのつながりを維持している様子が窺える。

図 5.2.2 は、新学群（1・2 年）について、クラスで集まる機会が「特にない」との回答の割合を学群・学類別に示したものである。人文・文化、人間、生命環境などの学群で「特にない」の回答が概して少ない一方、理工学群、情報学群の一部、および体育専門学群ではこの回答が目立った。これを問(27)での「クラスが機能していない」との回答の割合（図 5.2.3）と比べてみると、若干の例外はあるものの、概して回答間に対応が見られる。クラスの機能が特に認識されていない学類ほどクラスで集まる機会も少ない傾向がある。

図 5.2.1 クラスで集まる機会（学年別、全体）

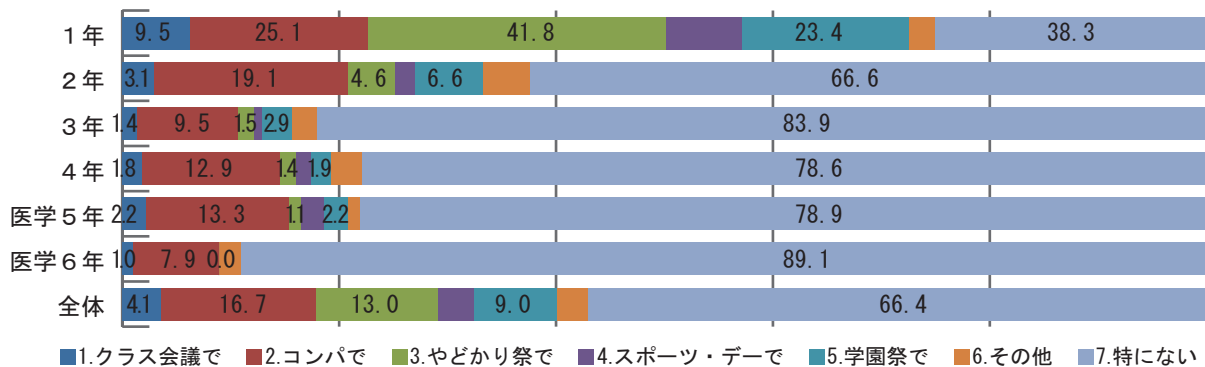


図 5.2.2 「特にない」の回答割合（学群・学類別（1,2 年次のみ））

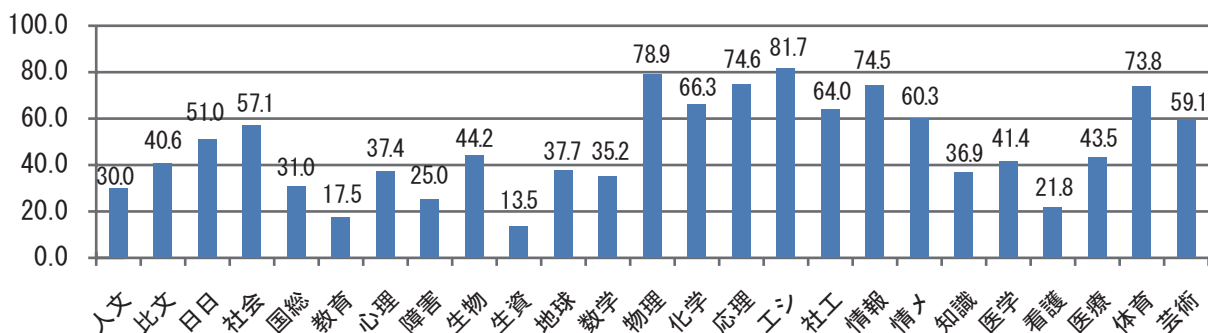
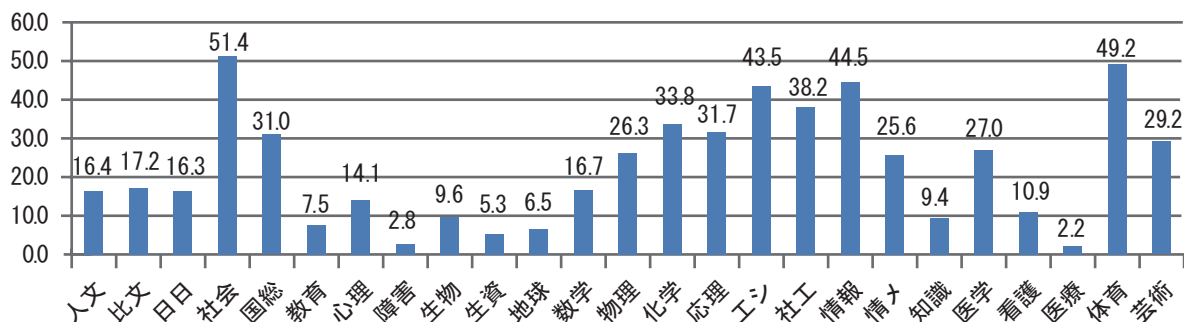


図 5.2.3 「クラスが機能していない」の回答割合（学群・学類別（1.2年次のみ））



### 5.3 学生組織の活動について（問 29）

◎7～8割の学生が学生組織の活動についてよく知らないと回答している。

学生組織の周知度について尋ねた。図 5.3.1 から窺えるように、学生組織の活動について「あまり知らない」「まったく知らない」と答えた学生が全体でそれぞれ 44%、31%に上り、7～8割の学生がクラ代会・全代会などの学生組織の活動について十分に認識していないことが分かる。「よく知っている」「まあまあ知っている」とする回答は1年生で若干多めであるものの、全体としては2割程度にとどまる。

なお新学群（1・2年）について見ると、人文・日語・地球・知識などの学類で4割程度の学生が「よく知っている」「まあまあ知っている」と回答している。他方、医学・体育ではこの回答が比較的少ない。

図 5.3.1 学生組織の活動（学年別、全体）

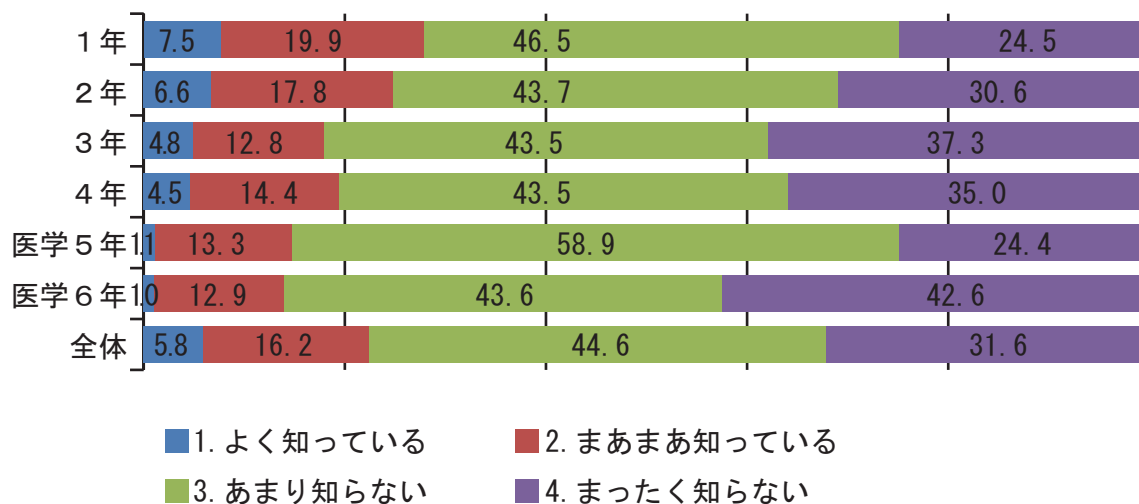
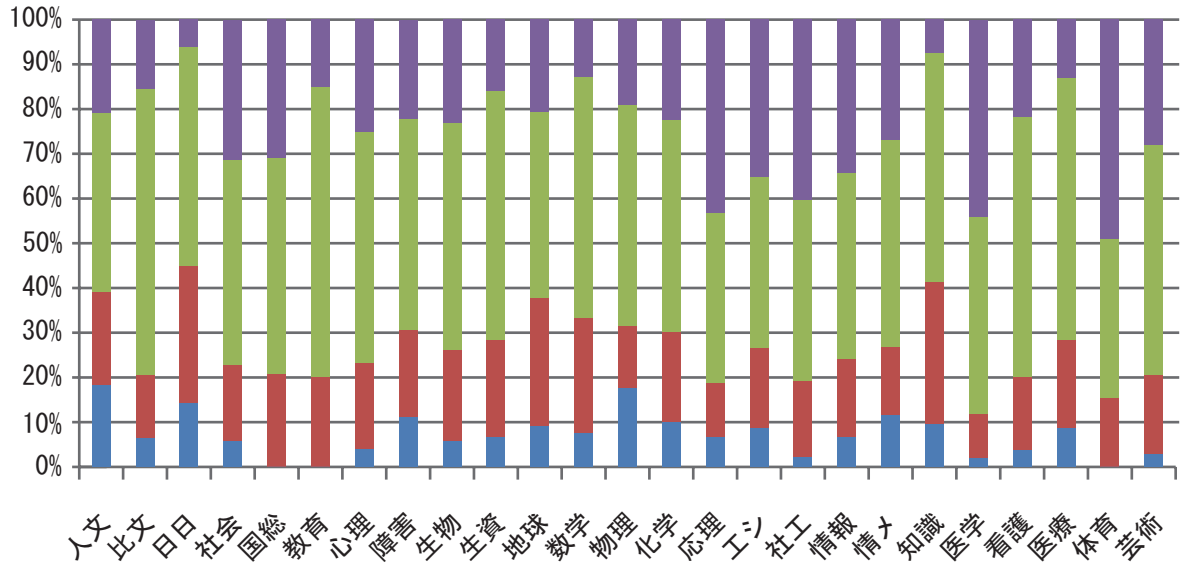


図 5.3.2 学生組織の活動（学群・学類別（1.2年次のみ））



#### 5.4 サークル活動の有無について（問 30）

- ◎サークル活動への参加者は、依然減少傾向にある。
- ◎学年や居住地域の特性によって、参加実態が異なる。

サークル活動への参加について、「現在活動中」「以前は活動していた」「活動したことがない」のなかから、あてはまるものを選択することが求められた。

その結果、全学的にみると「現在活動中」と「以前活動していた」と回答した学生の割合は 78.6 %であった。これは第 3 回調査（1984 年）以後の結果と比較すると、もっとも低く、減少傾向にある。そして「活動したことがない」と回答した学生の割合は 16.5%と前回調査より微増し、この 20 年間、サークル活動をしていない学生の割合の増加は止まっていない。

サークル活動の有無を学群別に示したものが図 5.4.1 である。それによれば、芸術専門学群で活動したことがない学生が多いことが目立っている。また図 5.4.2 は、学年別のサークル活動の有無についてまとめたものである。それによれば、学年があがるにつれ、「現在活動中」が減少し、「以前活動していた」が増加する傾向がみられる。また図 5.4.3 には、つくば TX 開通に伴い県外の学生が増えたこともあり、居住地域とサークル活動との関わりを調べたところ、県外を含めたつくば市外の学生に「活動したことがない」が多かった。

以上の結果をもとに、所属や学年、居住地域などの実態に応じた課外活動支援を展開する必要があると考えられる。

図 5.4.1 サークル活動の有無（学群別）

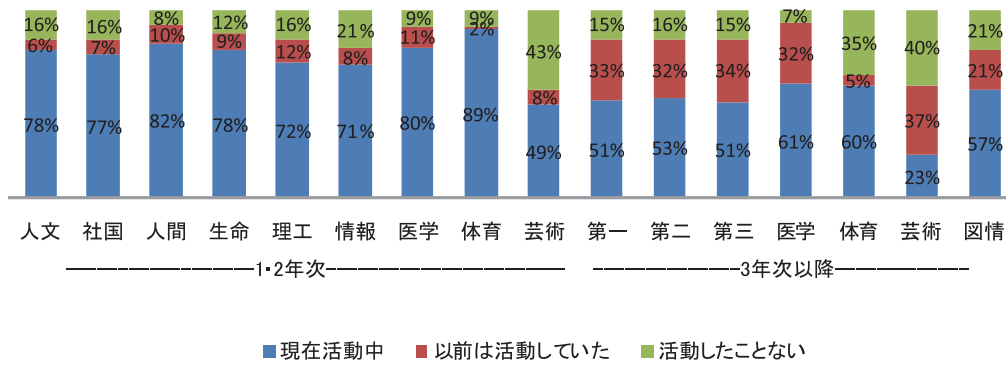


図 5.4.2 サークル活動の有無（学年別）

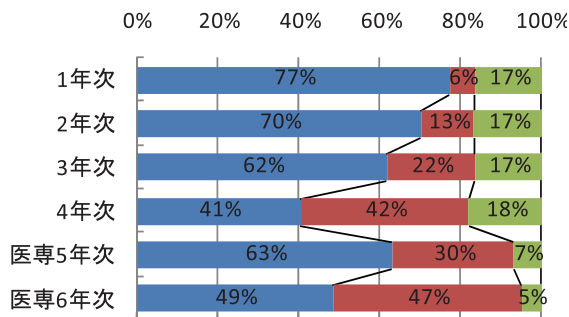
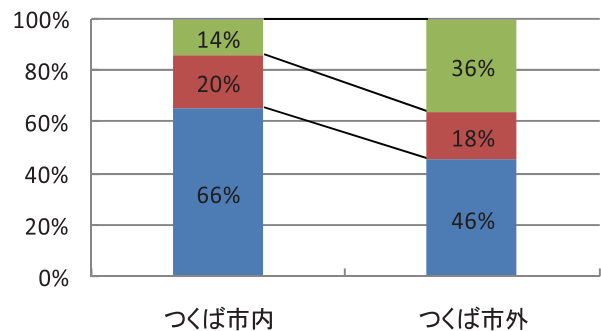


図 5.4.3 サークル活動の有無（地域別）



## 5.5 サークル活動の主な動機について（問 31）

◎サークル活動の主な動機は、友人関係と趣味が5割以上を占める。

サークル活動の主な動機について、「友人が欲しくて」「知識・教養のため」「健康のため」「技術向上のため」「団体生活を経験したい」「趣味と一致」「余暇の利用のため」「レクリエーションの一環で」「希望の進路と同じで有益」「就職などにプラス」「高校時代からの継続」「勧誘されて」「その他」のなかから、あてはまるものをすべて選択することが求められた。

今回の対象者数を母数とした割合を算出し、その高い割合順に項目を並べ直した結果を図 5.5.1 に示す。全学的傾向として、もっともサークル活動の動機になっているものは「友人関係」で、次いで「趣味」であった。これらの項目は全体の半数以上の学生が選択している。そして選択割合の高さは、「技術向上」「健康」「余暇」「高校からの継続」「知識・教養」「団体生活」「勧誘」「レクリエーション」等と続いている。そのうち友人関係と趣味の高い割合は、1988年の調査以降変わらない傾向であった。ちなみに20年前の1984年の調査では「趣味」と「高校からの継続」が上位2位であった。

各学群レベルで集計した結果（表 5.5.2）、1・2年次の医学群・3年次以降の医学専門学群と体育専門学群以外は、全体の傾向である「友人関係」と「趣味」が上位2位を占めている。医学群においては、「友人関係」に加え、「健康のため」が上位2位に含まれている。この傾向はこれまでの調査結果と変化はな

いが、前回調査以前は、「健康」が「友人関係」より割合が高い傾向であったが、今回は前回の傾向を継続していた。また体育専門学群は、「技術向上」や「高校からの継続」の割合が上位2位に含まれている。この結果はこれまでの調査と変わらない傾向である。芸術専門学群は、全学と同様の傾向を示しているが、これは今回からの傾向であり、前回までは「趣味」が上位2位に含まれていた。

図 5.5.1 サークル活動の主な動機（全学）

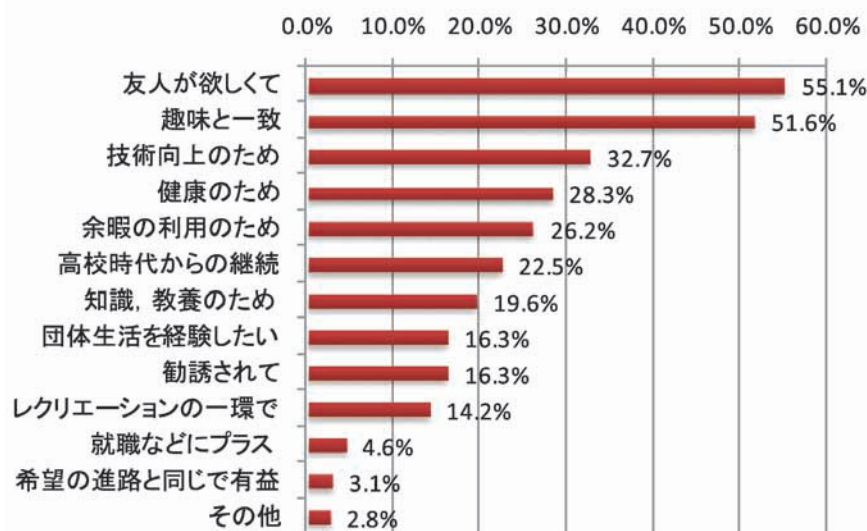


表 5.5.2 各学群におけるサークル活動の動機についての傾向（上位2項目に着目して）

|         | 1 年次・2 年次 |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|---------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
|         | 人文        | 社国    | 人間    | 生命    | 理工    | 情報    | 医学    | 体育    | 芸術    |  |
| 友人が欲しくて | 60.0%     | 48.1% | 58.8% | 53.5% | 54.1% | 61.0% | 55.1% | 49.2% | 47.9% |  |
| 健康のため   |           |       |       |       |       |       | 46.0% |       |       |  |
| 技術向上のため |           |       |       |       |       |       |       | 78.0% |       |  |
| 趣味と一致   | 54.9%     | 54.4% | 51.9% | 59.5% | 53.2% | 60.6% |       |       | 60.4% |  |
|         | 3 年次以降    |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|         |           |       | 第一    | 第二    | 第三    | 国情    | 医学    | 体育    | 芸術    |  |
| 友人が欲しくて |           |       | 55.6% | 61.5% | 56.0% | 57.1% | 55.0% |       | 58.7% |  |
| 健康のため   |           |       |       |       |       |       | 43.5% |       |       |  |
| 技術向上のため |           |       |       |       |       |       |       | 63.8% |       |  |
| 趣味と一致   |           |       | 52.1% | 52.8% | 55.9% | 54.3% |       |       | 50.8% |  |
| 高校からの継続 |           |       |       |       |       |       |       | 55.0% |       |  |

## 5.6 サークル活動の学業への影響について（問 32）

◎全体の傾向として「どちらでもない」が平均的であった。

◎年次的変化は、1年次から3年次にむかい学業へのマイナス影響を感じるようだが、4年次には学業へのプラスの影響を感じる傾向があった。

サークル活動の学業に対する影響について、「かなりマイナスの影響がある：1」「少しマイナスの影響がある：2」「どちらともいえない：3」「少しプラスの影響がある：4」「大いにプラスの影響がある：5」の5分類で尋ねた。そして平均値を算出したものを学群別に図示したものが図 5.6.1（1年次と2年次）と図 5.6.2（3年次以降）である。数値は、高くなるほど学業へのプラスの影響があると読み取ることができる。そのなか全体の平均は 3.07（標準偏差:SD 1.17）であったため、どちらともいえない意見がもっとも多かったと読み取れる。学群別にみると、1年次では社会国際学群、情報学群が比較的高く、2年次では体育専門学群、情報学群が比較的高く、3年次では体育専門学群、医学専門学群が比較的高く、4年次では医学専門学群、体育専門学群が比較的高かった。

また年次的変化における全学傾向として、1年次(3.16;SD 1.07)から2年次(2.94;SD 1.09)・3年次(2.96;SD 1.16)にむかい、サークル活動が学業へのマイナス影響を感じるようだが、4年次(3.22;SD 1.11)に、サークル活動が学業にプラスの影響を感じる傾向があった。学群別にみると、ほとんどの学群は、全学的傾向と同様であったが、そのうち体育専門学群のみ1年次から2年次に向けて、サークル活動が学業にプラスに感じる傾向にあった。また図書館情報学群のみ、3年次から4年次にむけて、サークル活動の学業への影響をマイナスに感じる傾向にあった。

これらの結果は、それぞれの学群の事情が関連していると思われるが、こうした現状を把握したうえで、サークル活動の充実を図る必要がある。

図 5.6.1 サークル活動の学業への影響（1～2年次・学群別）

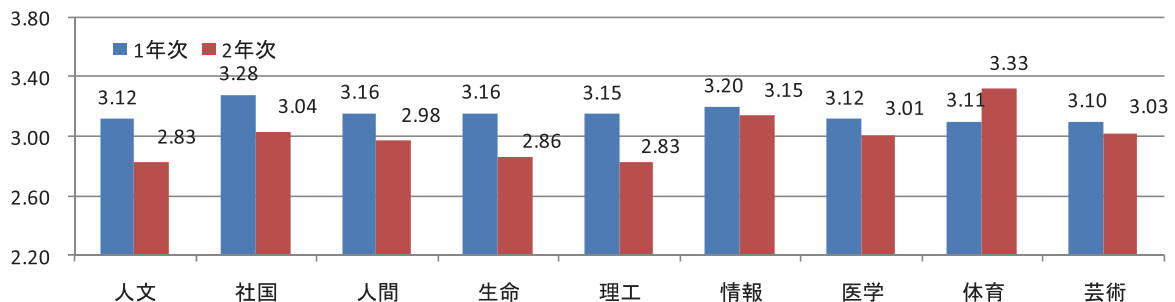
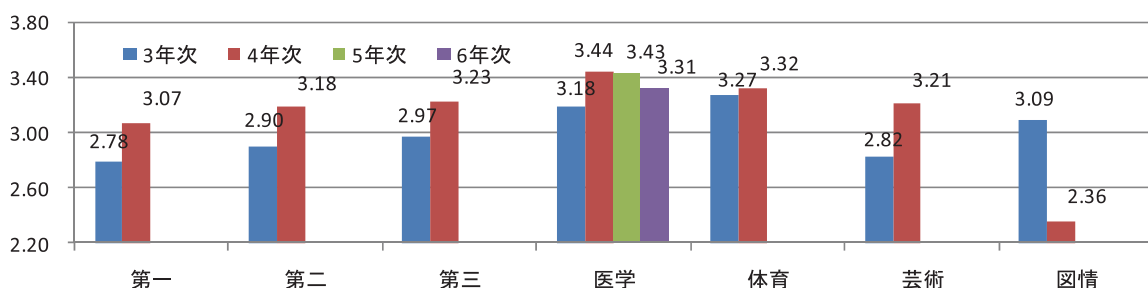


図 5.6.2 サークル活動の学業への影響（3年次以上・学群別）





## 第6章 交友等について

### 6.1. 友人関係について (問 33)

◎「友人に恵まれ、充実している」と感じる学生が最も多く、全体の56.3%を占める。

大学入学後の友人関係について尋ねた。友人関係に恵まれていると感じる割合は、1年次の51.5%から4年次の62.3%へと上がり続け、医学類の5・6年次では7割近くの学生が充実していると回答している。

「友人も親友もなく寂しい」は全体の0.8%を占めるに過ぎず、比率としては最も低いが、回答数でみると40あり、決して少ないとはいえない。寂しさが破滅的な行動に結びつかないように、寂寥感は思索の糧にもなり得ることなどを、教職員は普段学生と接するなかで伝えることが必要であると思われる。

表 6.1.1 大学入学後の友人関係 (全体)

| 5 選択肢から 1 つ選ぶ |                     | 回答数   | 回答率    |
|---------------|---------------------|-------|--------|
| 1             | 友人に恵まれ、充実している       | 2,776 | 56.3%  |
| 2             | 友人はいるが、親友と言える人はいない  | 1,129 | 22.9%  |
| 3             | 友人も親友もいるが、なぜか孤独感がある | 744   | 15.1%  |
| 4             | 友人も親友もなく寂しい         | 40    | 0.8%   |
| 5             | 友人はいないが、特に寂しくはない    | 120   | 2.4%   |
| 無効・無回答        |                     | 120   | 2.4%   |
| 合計            |                     | 4,929 | 100.0% |

表 6.1.2 「友人に恵まれ、充実している」への回答 (学年別、男女別)

|       | 回答数   | 件数    | 割合    |
|-------|-------|-------|-------|
| 1年次   | 1,317 | 678   | 51.5% |
| 2年次   | 1,198 | 651   | 54.3% |
| 3年次   | 1,196 | 678   | 56.7% |
| 4年次   | 1,017 | 634   | 62.3% |
| 医学5年次 | 90    | 62    | 68.9% |
| 医学6年次 | 101   | 68    | 67.3% |
| 男性    | 2,979 | 1,592 | 53.4% |
| 女性    | 1,909 | 1,159 | 60.7% |

### 6.2 相談しやすい人について (問 34)

◎プライベートなことの相談相手に「友人・恋人」を選ぶ学生が77.2%と圧倒的に多い。

プライベートなことを相談しやすい人について尋ねた。結果は、表 6.2.1 の通りである。3つまで複数回答が可能であるが、「友人・恋人」を選ぶ学生が77.2%と圧倒的に多く、次いで「家族」45.3%、「先輩・後輩」31.9%と続いている。

「クラス担任教員」を選んだ学生は、全体で114人である。1年次生が40人で一番多く、学年が上がるにつれて徐々に減る傾向がみられる。「指導教員」に相談する学生は全体で81人。学群・学類により違い

がみられ、3・4年次生が属する18の学群・学類では、社会学類の5人（回答数の11.6%）や人間学類の5人（回答数の7.0%）、生物資源学類の7人（回答数の6.0%）が割合として多い方である。一方で、指導教員を選んだ学生が0名の学群・学類も2つあった。

「その他」では、「自分自身で解決する」「アルバイト先の人」「面識のない人」という内容の回答が多くみられた。

表 6.2.1 相談しやすい人（全体）

| 13 選択肢の中から3つまで選択可 |                 | 回答数   | 回答率   |
|-------------------|-----------------|-------|-------|
| 1                 | クラス担任教員         | 114   | 2.3%  |
| 2                 | 学生担当教員          | 16    | 0.3%  |
| 3                 | 指導教員            | 81    | 1.6%  |
| 4                 | サークルの顧問教員       | 16    | 0.3%  |
| 5                 | その他の教員          | 27    | 0.5%  |
| 6                 | 保健管理センターのカウンセラー | 49    | 1.0%  |
| 7                 | スチューデントプラザの教職員  | 5     | 0.1%  |
| 8                 | 事務職員            | 7     | 0.1%  |
| 9                 | 先輩・後輩           | 1,571 | 31.9% |
| 10                | 友人・恋人           | 3,806 | 77.2% |
| 11                | 家族              | 2,235 | 45.3% |
| 12                | その他             | 71    | 1.4%  |
| 13                | 特にいない           | 497   | 10.1% |
| 無効・無回答            |                 | 99    | 2.0%  |
| 合計                |                 | 8,594 |       |

表 6.2.2 「指導教員」への回答（学群・学類別（3年次以上））

|                | 全回答数 | 件数 | 割合    |
|----------------|------|----|-------|
| 人文学類           | 121  | 3  | 4.7%  |
| 社会学類           | 74   | 5  | 11.6% |
| 自然学類           | 409  | 2  | 0.8%  |
| 比較文化学類         | 182  | 5  | 5.6%  |
| 日本語・日本文化学類     | 57   | 0  | 0.0%  |
| 人間学類           | 132  | 5  | 7.0%  |
| 生物学類           | 158  | 5  | 5.8%  |
| 生物資源学類         | 224  | 7  | 6.0%  |
| 社会工学類          | 291  | 3  | 1.8%  |
| 国際総合学類         | 80   | 0  | 0.0%  |
| 情報学類           | 260  | 7  | 4.3%  |
| 工学システム学類       | 447  | 10 | 3.9%  |
| 工学基礎学類         | 394  | 3  | 1.3%  |
| 医学専門学群医学類      | 566  | 4  | 1.3%  |
| 医学専門学群看護・医療科学類 | 278  | 3  | 2.1%  |
| 体育専門学群         | 268  | 4  | 3.0%  |
| 芸術専門学群         | 201  | 4  | 3.5%  |
| 図書館情報専門学群      | 150  | 4  | 4.4%  |

## 第7章 筑波大学の志望理由等について

### 7.1 志望理由について (問 35)

◎「教育や研究の特色に魅かれて」と「受験の実力ランクを考えて」が志望の二大理由。

筑波大学への志望理由を尋ねた。結果は、表 7.1 の通りであるが、「教育や研究の特色に魅かれて」と「受験の実力ランクを考えて」の回答が圧倒的に多い。

男女別にみると、男子学生は実力ランクで選ぶ傾向があり（「教育や研究」への回答 37.7%、「実力ランク」への回答 45.8%）、一方、女子学生は教育研究の特色で選ぶ傾向がある（「教育や研究」への回答 49.7%、「実力ランク」への回答 33.1%）。

「その他」への回答では、「自宅や親戚宅が近い」「体育や芸術に理解がある」などの理由が多かった。「その他」の記述から、文武両道のイメージを世間に向けてアピールしていけば志望者が増える可能性があることが伺えた。

表 7.1 志望理由 (全体)

| 10 選択肢の中から 2 つまで選択可 |                    | 回答数   | 回答率   |
|---------------------|--------------------|-------|-------|
| 1                   | 教育や研究の特色に魅かれて      | 2,085 | 42.3% |
| 2                   | 施設や設備が充実している       | 813   | 16.5% |
| 3                   | 受験の実力ランクを考えて       | 2,011 | 40.8% |
| 4                   | 推薦入学制度があった         | 670   | 13.6% |
| 5                   | 高校の先生や家族に勧められて     | 660   | 13.4% |
| 6                   | 大学説明会に参加して         | 319   | 6.5%  |
| 7                   | 筑波研究学園都市にある大学なので   | 265   | 5.4%  |
| 8                   | TX を利用して東京に出やすい    | 259   | 5.3%  |
| 9                   | 他大学の受験に失敗、あるいは断念して | 546   | 11.1% |
| 10                  | その他                | 641   | 13.0% |
| 無効・無回答              |                    | 91    | 1.8%  |
| 合計                  |                    | 8,360 |       |

### 7.2 筑波大学のイメージについて (問 36)

◎入学後に急増するイメージは「閉ざされている」と「自由」。

筑波大学のイメージについて、入学前と入学後に分けて、3 つまでの複数回答方式で尋ねた。結果は、表 7.2 の通りである。とくに目立つのは、「閉ざされている」の回答が入学前（17.9%）から入学後（47.8%）に 3 倍近く増えていること、「自由」の回答がやはり入学後に 3 倍ほど増えていること、などである。逆に、「伝統」「新構想」「教育」「研究」「科学技術」「首都圏」などへの回答は、入学後に減っている。「スポーツ」と「国際性」はわずかながら増えており、面目を保っていると言えようか。

「その他」で入学前後ともに多いのは、「田舎」「自殺」というイメージである。「その他」の回答数が入学前は 218 であるのに対して、入学後は 413 と倍増している。のんびりしている、暮らしやすいなど、好意的な意見もあるものの、入学後の「その他」は大多数が失望感を表す記述になっている。

表 7.2 筑波大学のイメージ (全体)

| 15 選択肢の中から 3 つまで選択可 |        | A. 入学前 |       | B. 入学後 |       |
|---------------------|--------|--------|-------|--------|-------|
|                     |        | 回答数    | 回答率   | 回答数    | 回答率   |
| 1                   | 伝統     | 743    | 15.1% | 339    | 6.9%  |
| 2                   | 新構想    | 540    | 11.0% | 233    | 4.7%  |
| 3                   | 教育     | 1,675  | 34.0% | 772    | 15.7% |
| 4                   | 研究     | 2,307  | 46.8% | 1,828  | 37.1% |
| 5                   | 開かれた   | 447    | 9.1%  | 432    | 8.8%  |
| 6                   | 閉ざされた  | 884    | 17.9% | 2,356  | 47.8% |
| 7                   | 科学技術   | 1,248  | 25.3% | 726    | 14.7% |
| 8                   | スポーツ   | 1,263  | 25.6% | 1,351  | 27.4% |
| 9                   | 国際性    | 681    | 13.8% | 888    | 18.0% |
| 10                  | 研究学園都市 | 1,598  | 32.4% | 1,108  | 22.5% |
| 11                  | 首都圏    | 382    | 7.8%  | 146    | 3.0%  |
| 12                  | 自由     | 502    | 10.2% | 1,533  | 31.1% |
| 13                  | 管理     | 31     | 0.6%  | 180    | 3.7%  |
| 14                  | その他 -1 | 203    | 4.1%  | 304    | 6.2%  |
| 15                  | その他 -2 | 15     | 0.3%  | 109    | 2.2%  |
| 無効・無回答              |        | 160    | 3.2%  | 151    | 3.1%  |
| 合計                  |        | 12,679 |       | 12,456 |       |

## 第8章 筑波大学をより良い大学にするための期待や要望について

### 8.1 教員に期待することについて（問37）

◎「わかりやすい授業」、「授業内容の充実」を求めているが、他方で「学問の厳しさを教えて欲しい」という声も。

本学の教員に期待することを3つまでの複数回答で質問した。

「もっと解りやすく教えて欲しい」47.6%、「授業内容を充実させて欲しい」44.1%の2項目は4割強の学生が選択している。この2項目は、過去の調査においてもほぼ同様の結果が得られており、学生は教員に対して、授業内容や授業方法に対する要望が最も大きいことがうかがえる。

これに次いで多いのが、「良き研究者より、良き教育者であってほしい」35.3%、「社会的実践との結びつきを示して欲しい」23.9%、「学生との対話の場を持ってほしい」20.3%となっている。

5年前の前回調査と比較して目立つ点は、全体的にそれぞれの項目への回答率が低下している点である。たとえば、「もっと解りやすく教えて欲しい」は52.1%から47.6%へ、「授業内容を充実させて欲しい」は56.1%から44.1%へと変化している。このことは、各教育組織におけるFD活動の充実を反映しているのかもしれない。「学問の厳しさを教えて欲しい」1項目のみ、前回の6.4%から7.2%へ回答率が上昇していた。学生は一方で授業内容や授業方法の改善を求めつつも、他方では真摯に学問に取り組みたいという意欲が向上していることがうかがわれる。

「その他」の自由記述で最も多かったのは、「特になし」「今のままで十分」ということであったが、教員の授業技術の向上や意欲を求める声や、学生との関係をもっと深めることを望む声などが見受けられた。

表 8.1 教員に期待すること（全体）

|                         | 回答数    | 回答率   |
|-------------------------|--------|-------|
| 1 学問の厳しさを教えて欲しい         | 357    | 7.2%  |
| 2 良き研究者より、良き教育者であって欲しい  | 1,738  | 35.3% |
| 3 授業内容を充実させて欲しい         | 2,173  | 44.1% |
| 4 もっと解りやすく教えて欲しい        | 2,346  | 47.6% |
| 5 研究成果を教育の現場にもっと反映して欲しい | 949    | 19.3% |
| 6 休講を無くして欲しい            | 90     | 1.8%  |
| 7 学生との対話の場を持って欲しい       | 1,003  | 20.3% |
| 8 社会的実践との結びつきを示して欲しい    | 1,180  | 23.9% |
| 9 その他                   | 245    | 5.0%  |
| 無効・無回答                  | 152    | 3.1%  |
| 合計                      | 10,233 |       |

### 8.2 教育面や制度面で不十分な点について（問38）

◎「カリキュラム」「教育スタッフ」「就職説明会」。ただし全体には減少傾向。

大学に対して教育や制度面で不十分であると感じられることを3つまでの複数回答で質問した。最も要望が高かったのは「カリキュラム」36.2%であり、次いで「教育スタッフ」18.7%、「就職説明会」16.5%

と続いている。これらは5年前の前回調査と順位が変動しておらず、学生が教育・制度面で不十分であると感じることの内容に大きな変化はみられないようである。

しかしながら、前回の調査と比較して目立つ点は、問(37)と同様に、全体的にそれぞれの項目への回答率が低下している点である。例えば、「カリキュラム」は50.3%から36.2%へ、「教育スタッフ」は35.5%から18.7%へ、「就職説明会」は24.5%から16.5%へと大きく変化している。このことは、ここ数年の大学の教育・制度面の改善への取り組みが功を奏していることを示していると思われる。

なお、逆に前回の調査から回答率が上昇したのは、「クラス制度」であり、12.1%から16.7%へと変化した。今回の調査では、学生がどのようにクラス制度を不十分であると感じているかその内容は明らかではないが、クラス制度そのもの、クラス制度のあり方への関心が高まっていることは示された。

「その他」の記載で多かったのは「3学期制」(今回の調査では問(49)で質問している)や、「支援室の対応」に関するものであった。

表 8.2 教育や制度面で不十分な点 (全体)

|    |                      | 回答数   | 回答率   |
|----|----------------------|-------|-------|
| 1  | 教育スタッフ               | 923   | 18.7% |
| 2  | カリキュラム               | 1,782 | 36.2% |
| 3  | 教職課程                 | 689   | 14.0% |
| 4  | 課外教育プログラム (講演会・講習会等) | 421   | 8.5%  |
| 5  | 留学制度                 | 405   | 8.2%  |
| 6  | 就職説明会                | 814   | 16.5% |
| 7  | クラス制度                | 824   | 16.7% |
| 8  | 学生組織                 | 302   | 6.1%  |
| 9  | 奨学金・授業料免除            | 448   | 9.1%  |
| 10 | 課外活動に対する支援           | 594   | 12.1% |
| 11 | ボランティア活動に対する支援       | 187   | 3.8%  |
| 12 | その他                  | 303   | 6.1%  |
|    | 無効・無回答               | 628   | 12.7% |
|    | 合計                   | 8,320 |       |

### 8.3 整備・充実して欲しい施設について (問 39)

◎要望の高い順に、「学内の食堂」「自転車置き場」「外灯」「教室・実験室」。

キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいと感じられることを4つまでの複数回答で質問した。要望の高い順に、「学内の食堂」40.9%、「自転車置き場」35.7%、「外灯」30.8%、「教室・実験室」28.9%、「図書館」27.6%、「売店」25.2%であった。

5年前の前回調査と比較して大きく減少したのは「セキュリティ」が22.2%から7.5%、次いで「教室・実験室」が43.7%から28.9%へ、さらに「外灯」40.9%から30.8%、「ペDESTリアン」26.4%から16.8%へと減少している。これらの点は前回の調査時点よりも設備施設面で改善がみられたと感じられていることがうかがえる。特に、「教室・実験室」を除いては、学生の安全やアメニティ面などの生活環境の向上があったことが見てとれる。

その一方で、逆に大きく増加したのは「自転車置き場」であり、23.1%から35.7%への増加であった。

学内の食堂への要望は前回の調査と大きくは変わっていない（38.2%から40.9%）。これらの施設設備への要望は、前回の調査でも相対的に高い回答率であったものである。

「図書館」に関しては、今回の調査期間中に行われていた、中央図書館の耐震改修工事による不便さの影響があるかもしれない。「その他」では、学生宿舎に関する記載が最も多く（その内容は問(15)で質問している）、ついで「トイレ」、「冷暖房（エアコン）」、「ループ道路」などに関する要望が目立った。

表 8.3 整備・充実してほしい施設（全体）

|    |          | 回答数    | 回答率   |
|----|----------|--------|-------|
| 1  | 教室・実験室   | 1,424  | 28.9% |
| 2  | 図書館      | 1,362  | 27.6% |
| 3  | IT 環境    | 866    | 17.6% |
| 4  | 体育施設     | 489    | 9.9%  |
| 5  | 課外活動施設   | 371    | 7.5%  |
| 6  | 学内の食堂    | 2,016  | 40.9% |
| 7  | セキュリティー  | 368    | 7.5%  |
| 8  | 駐車場      | 455    | 9.2%  |
| 9  | 自転車置き場   | 1,759  | 35.7% |
| 10 | 学内循環バス   | 369    | 7.5%  |
| 11 | ペDESTリアン | 826    | 16.8% |
| 12 | 外灯       | 1,520  | 30.8% |
| 13 | 売店       | 1,242  | 25.2% |
| 14 | 自動販売機    | 260    | 5.3%  |
| 15 | その他      | 279    | 5.7%  |
|    | 無効・無回答   | 179    | 3.6%  |
|    | 合計       | 13,785 |       |

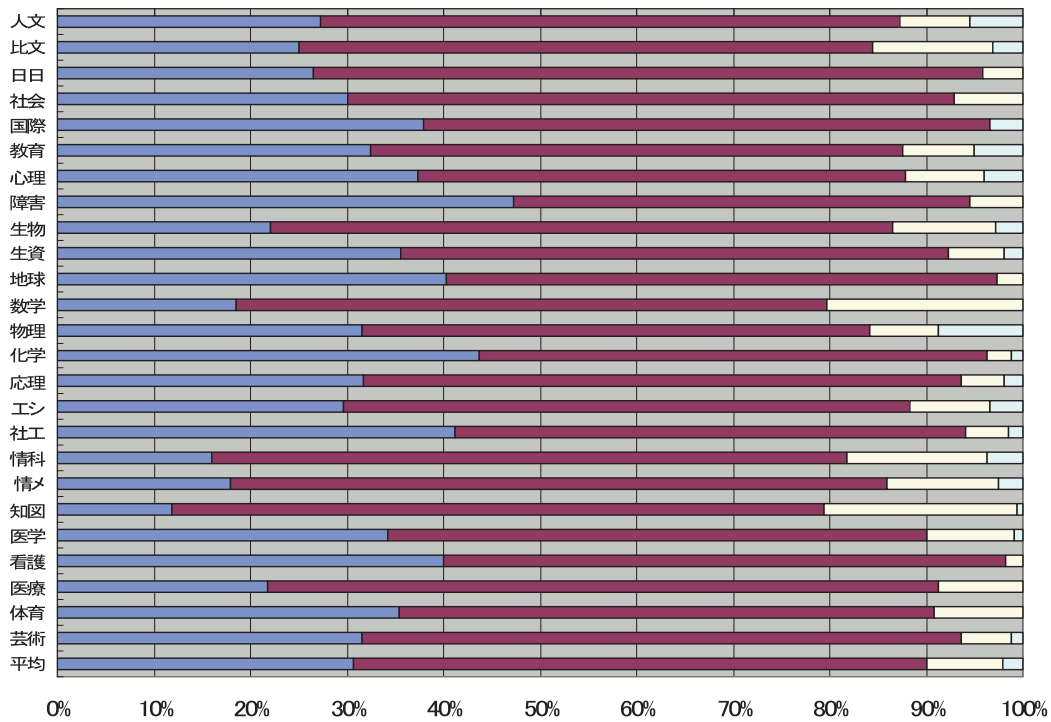
#### 8.4 TWINS の満足度について（問 40）

◎ TWINS に満足している学生は3割、6割はどちらともいえない。前回からやや改善された。

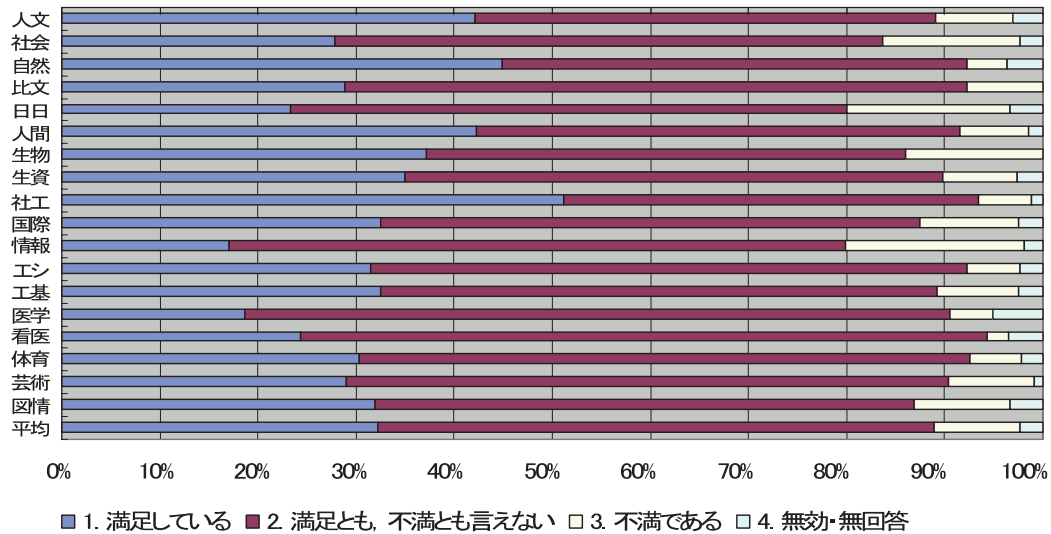
TWINS に対する満足度について尋ねた。全体では、「どちらともいえない」が最も高く、58.2%、「満足」が31.3%、「不満」が8.3%という順になった。前回調査の57.6%、27.9%、14.5%と比較すると改善の傾向が見られる。年次の差は見られなかったが、学類間でややバラツキが見られ、情報系では「満足」が少なく、逆に「不満」が高い傾向がみられた。情報システムに関する要求レベルが高いことが一因と推察される。自由記述をみると、「掲示板が機能していない」「学外からアクセスできない」が大半を占めている。

図 8.4 TWINS の満足度 (学群・学類別)

(1~2年次)



(3年次以上)



### 8.5 キャンパス内のマナーについて (問 41)

◎自転車の運転、駐輪マナーの向上を望む声が極めて大きい。

キャンパス内のマナーについて複数回答で尋ねた。「自転車の運転」「駐輪マナー」の改善を望む声が44.0%、43.6%と極めて高かった。特に、1・2年次の障害科学類、看護学類、教育学類などでこの改善を望む声が高いことから、専門的な観点からみて危険が潜んでいることが伺われる。また、第二エリアおよび第三エリアに位置する学類で上記マナーの改善を望む声が高い傾向がみられた。



表 8.5.1 キャンパス内のマナー（全体）

|   |               | 回答数   | 回答率   |
|---|---------------|-------|-------|
| 1 | 自動車・バイクの運転マナー | 1,515 | 30.7% |
| 2 | 自動車の駐車マナー     | 747   | 15.2% |
| 3 | 自転車の運転マナー     | 1,986 | 40.3% |
| 4 | 自転車・バイクの駐輪マナー | 2,075 | 42.1% |
| 5 | アルコールハラスメント   | 385   | 7.8%  |
| 6 | 各種の勧誘活動       | 839   | 17.0% |
| 7 | その他           | 137   | 2.8%  |
| 8 | 特になし          | 648   | 13.1% |
|   | 無効・無回答        | 217   | 4.4%  |
|   | 合計            | 8,549 |       |

表 8.5.2 「自転車の運転マナー」回答率上位 5 学類

|   |                   | 回答数 | 回答率   |
|---|-------------------|-----|-------|
| 1 | 障害科学類（1・2年次）      | 23  | 63.9% |
| 2 | 看護学類（1・2年次）       | 33  | 60.0% |
| 3 | 国際総合学類（1・2年次）     | 17  | 58.6% |
| 4 | 日本語・日本文化学類（3年次以上） | 17  | 56.7% |
| 5 | 教育学類（1・2年次）       | 22  | 55.0% |

表 8.5.3 「自転車・バイクの駐輪マナー」回答率上位 5 学類

|   |                     | 回答数 | 回答率   |
|---|---------------------|-----|-------|
| 1 | 教育学類（1・2年次）         | 25  | 62.5% |
| 2 | 比較文化学類（3年次以上）       | 51  | 56.7% |
| 3 | 知識情報・情報図書館学類（1・2年次） | 89  | 55.6% |
| 4 | 人文学類（3年次以上）         | 35  | 54.7% |
| 5 | 社会工学類（3年次以上）        | 89  | 53.6% |

## 8.6 緊急連絡の方法について（問 42）

◎大多数の学生が携帯電話による緊急連絡を希望している。

大学からの緊急連絡方法について尋ねた。大学からの連絡は「携帯電話による通話」「携帯電話のメール」との回答が 88.0%と圧倒的な多数を占めている。これに対して、パソコンメールの利用希望は、教員側のパソコン利用状況や大学側の期待に反して、4.2%ときわめて低い。今後、携帯電話の更なる高機能化に伴い、この傾向は加速すると思われ、携帯電話のメールを緊急連絡先の基本とする等、検討が必要と考えられる。

表 8.6 緊急連絡（全体）

|             | 回答数   | 回答率    |
|-------------|-------|--------|
| 1 携帯電話による通話 | 2,571 | 52.2%  |
| 2 携帯電話のメール  | 1,763 | 35.8%  |
| 3 パソコンのメール  | 205   | 4.2%   |
| 4 自室の固定電話   | 45    | 0.9%   |
| 5 自室の FAX   | 3     | 0.1%   |
| 6 支援室の掲示板   | 35    | 0.7%   |
| 7 その他       | 13    | 0.3%   |
| 無効・無回答      | 294   | 6.0%   |
| 合計          | 4,929 | 100.0% |

## 第9章 進路や就職活動について

### 9.1 卒業後の進路について (問 43)

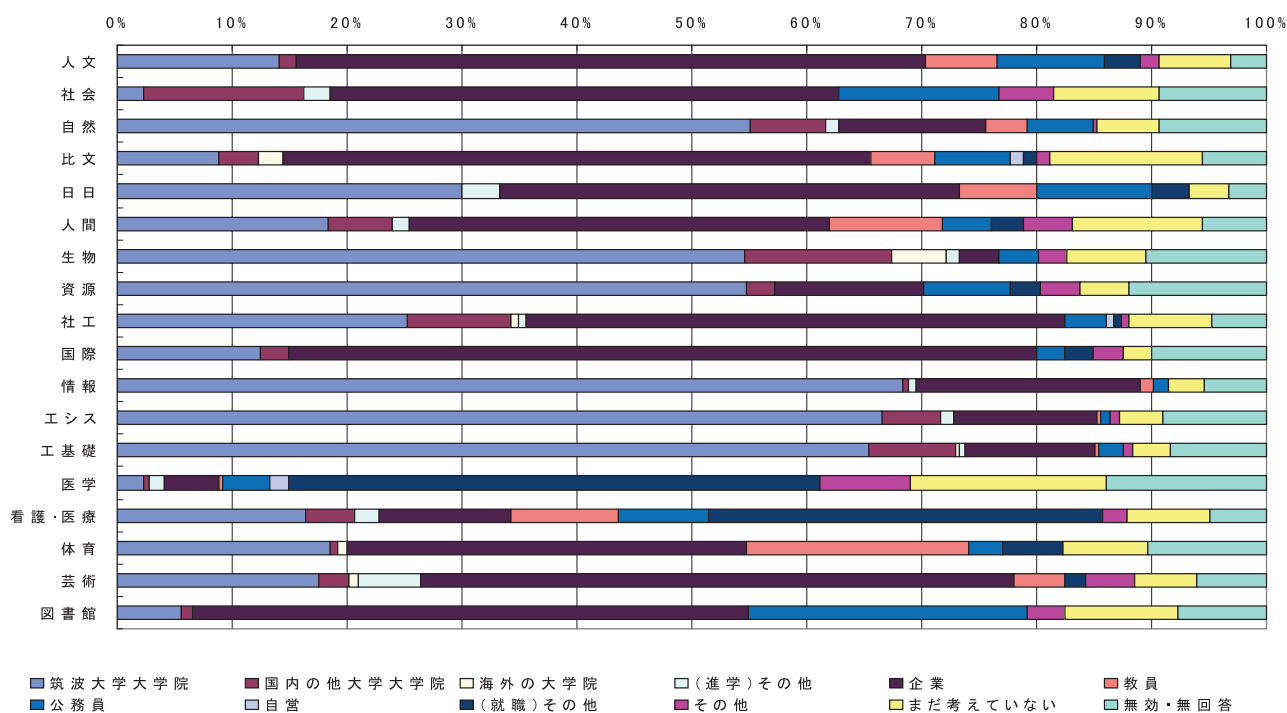
- ◎1年次では、進学・就職を考えている学生が約65%、未定の学生は無回答を含めると35%。
- ◎高学年になるにつれ進路は決定されているが、4年次・医学6年次でも無回答を含めると各々11%の学生が未定。
- ◎4年次で見ると、進学47%、就職40%と進学希望が上回る。

進路は進学と就職に大きく分けることができるが、全体では、進学希望（選択項目1～4）が約38%、就職希望（項目5～9）が約36%である。5年前のアンケート時では就職希望の割合が多かったため、進学希望の割合が逆転した結果となった。進路がほぼ決まった4年次生を見ると、進学者が46.7%と就職者を大きく上回っている。男性と女性では、女性の就職希望が約48%と男性の27%よりかなり高く、それに対して、進学希望は男性が約46%と女性の約25%より高い。自然、生物、生物資源、情報、工学システム、工学基礎の各学類は、高度な専門知識の習得のために、半数以上が進学を希望している。

表 9.1.1 卒業後の進路（学年別、男女別、全体）

|             | 1年次    | 2年次    | 3年次    | 4年次    | 医5年次   | 医6年次   | 男子     | 女子     | 全体     |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 筑波大学大学院   | 21.3%  | 26.2%  | 35.6%  | 41.4%  | 0.0%   | 4.0%   | 37.1%  | 17.3%  | 29.4%  |
| 2 国内の他大学大学院 | 10.4%  | 7.8%   | 5.4%   | 3.8%   | 1.1%   | 0.0%   | 8.2%   | 4.7%   | 6.8%   |
| 3 海外の大学院    | 1.4%   | 1.2%   | 0.6%   | 0.3%   | 0.0%   | 0.0%   | 0.5%   | 1.4%   | 0.9%   |
| 4 (進学) その他  | 1.0%   | 0.7%   | 1.0%   | 1.2%   | 0.0%   | 2.0%   | 0.6%   | 1.4%   | 1.0%   |
| 5 企業        | 14.2%  | 18.4%  | 24.4%  | 25.6%  | 3.3%   | 6.9%   | 15.9%  | 25.8%  | 19.7%  |
| 6 教員        | 4.6%   | 3.3%   | 3.4%   | 3.3%   | 0.0%   | 1.0%   | 2.5%   | 5.2%   | 3.6%   |
| 7 公務員       | 7.8%   | 7.8%   | 5.3%   | 4.4%   | 3.3%   | 5.0%   | 4.3%   | 9.5%   | 6.4%   |
| 8 自営        | 0.5%   | 0.4%   | 0.3%   | 0.2%   | 0.0%   | 2.0%   | 0.3%   | 0.5%   | 0.4%   |
| 9 (就職) その他  | 3.3%   | 1.3%   | 3.3%   | 6.9%   | 50.0%  | 58.4%  | 4.4%   | 7.4%   | 5.6%   |
| 10 その他      | 0.6%   | 0.8%   | 1.5%   | 2.0%   | 8.9%   | 9.9%   | 1.3%   | 1.8%   | 1.5%   |
| 11 まだ考えていない | 22.0%  | 17.4%  | 8.5%   | 5.1%   | 21.1%  | 5.0%   | 12.6%  | 15.4%  | 13.7%  |
| 無効・無回答      | 12.9%  | 14.7%  | 10.7%  | 5.8%   | 12.2%  | 5.9%   | 12.1%  | 9.5%   | 11.2%  |
| 合計          | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

図 9.1.2 卒業後の進路 (3 年次以上、学群・学類別)



## 9.2 進路決定の際の相談相手について (問 44)

- ◎全体では、家族、親類、知人に相談する学生が約 8 割。友人、先輩が約 7 割。
- ◎教員、事務職員に相談する学生は 1 割に過ぎない。
- ◎4 年次では、教員に相談する学生が微増。

複数回答方式を採用したため回答割合の合計は、156%になっているが、全体では、「家族」が 71.9%、「友人、先輩」が 58.6%と大きな割合を占めている。「教員」は 11%、「事務職員」は 0.7%であり、教職員は学生の進路決定の際の相談相手としては重要視されていない傾向にある。教職員に相談する学生は、入学当初から 3 年次まで年次に従い減少しており、4 年次生になると、教員を相談相手とする割合がわずかではあるが増えている。入学当初は、クラス担任への学生生活やカリキュラムに関する相談が多く、4 年次生では、進路としての進学を選択する割合が多いことから、専門知識を有する教員を相談相手としていることが伺われる。

表 9.2 進路決定の際の相談相手 (学年別、男女別、全体)

|   |        | 1 年次  | 2 年次  | 3 年次  | 4 年次  | 医 5 年次 | 医 6 年次 | 男子    | 女子    | 全体    |
|---|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 1 | 家族     | 78.7% | 73.9% | 69.4% | 66.8% | 60.0%  | 57.4%  | 69.3% | 75.9% | 71.9% |
| 2 | 親戚、知人  | 6.4%  | 6.8%  | 6.4%  | 4.7%  | 4.4%   | 10.9%  | 7.2%  | 4.8%  | 6.2%  |
| 3 | 友人、先輩  | 51.1% | 58.0% | 65.9% | 57.8% | 68.9%  | 73.3%  | 57.1% | 60.9% | 58.6% |
| 4 | 教員     | 11.8% | 10.8% | 9.8%  | 12.2% | 8.9%   | 5.0%   | 10.0% | 12.4% | 11.0% |
| 5 | 事務職員   | 0.7%  | 0.7%  | 1.0%  | 0.3%  | 0.0%   | 1.0%   | 0.7%  | 0.6%  | 0.7%  |
| 6 | その他    | 3.6%  | 4.1%  | 3.9%  | 5.7%  | 0.0%   | 2.0%   | 4.5%  | 3.6%  | 4.1%  |
|   | 無効・無回答 | 2.6%  | 3.6%  | 3.4%  | 4.4%  | 6.7%   | 1.0%   | 4.1%  | 2.4%  | 3.5%  |

### 9.3 進路を決める理由について（問 45）

- ◎「やりがい」や「自分の能力や適性」を考慮して、進路を決定。
- ◎「大学で学んだことが生かせる」「社会的評価」を考慮して、進路決定する割合は低い。
- ◎「専門知識を深める」が4年次で31%と高くなっているのは、進学希望による。

本設問でも選択肢の中から複数回答する方式を採用した。その結果、進路を決めた理由は、4年次生および全体から見て「やりがい」「自分の能力や適性」が約4割で高い。「専門知識を深める」は、1～3年次生では10%台であったのに対して、4年次生では35%と高くなる。これは4年次生になり進学希望が明確になったものと考えられる。また、「大学で学んだことが生かせる」ことを進路決定の理由と考えていても、実際の就職活動では、社会情勢や自分の知識量を知ることになり、考え方が変わったものと思われる。

表 9.3 進路を決める理由（学年別、男女別、全体）

|    |               | 1年次   | 2年次   | 3年次   | 4年次   | 医5年次  | 医6年次  | 男子    | 女子    | 全体    |
|----|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1  | やりがい          | 48.5% | 44.2% | 42.1% | 38.8% | 65.6% | 58.4% | 42.1% | 48.0% | 44.4% |
| 2  | 社会的貢献         | 12.8% | 8.5%  | 11.9% | 11.4% | 12.2% | 17.8% | 10.8% | 12.1% | 11.3% |
| 3  | 給与が多い         | 8.7%  | 11.7% | 8.4%  | 6.0%  | 10.0% | 6.9%  | 11.0% | 5.3%  | 8.8%  |
| 4  | 安定した生活        | 22.3% | 27.5% | 22.7% | 17.1% | 12.2% | 11.9% | 20.4% | 25.4% | 22.3% |
| 5  | 自分の能力や適性      | 42.3% | 41.9% | 38.0% | 35.1% | 27.8% | 32.7% | 34.7% | 46.1% | 39.2% |
| 6  | 専門知識を深める      | 14.7% | 13.6% | 19.8% | 31.4% | 6.7%  | 21.8% | 21.7% | 15.1% | 19.1% |
| 7  | 大学で学んだことが生かせる | 8.7%  | 8.5%  | 7.7%  | 7.4%  | 16.7% | 3.0%  | 6.9%  | 10.2% | 8.2%  |
| 8  | 社会的評価         | 3.7%  | 3.8%  | 4.4%  | 4.5%  | 0.0%  | 2.0%  | 4.6%  | 2.9%  | 4.0%  |
| 9  | 将来性           | 12.4% | 14.0% | 17.9% | 18.6% | 11.1% | 16.8% | 17.2% | 12.8% | 15.5% |
| 10 | 地理的利便性        | 0.9%  | 2.0%  | 2.1%  | 3.4%  | 4.4%  | 7.9%  | 2.0%  | 2.5%  | 2.2%  |
| 11 | その他           | 3.3%  | 1.9%  | 1.9%  | 3.6%  | 2.2%  | 3.0%  | 3.1%  | 2.0%  | 2.7%  |
|    | 無効・無回答        | 2.6%  | 2.8%  | 3.9%  | 3.3%  | 4.4%  | 1.0%  | 3.5%  | 2.5%  | 3.1%  |

### 9.4 CARIO（つくばキャリアポートフォリオ）の活用について（問 46）

- ◎芸術専門学群と知識情報・図書館学類の活用率が相対的に高い。
- ◎フレッシュマン・セミナーでCARIOを活用した学類の学生は、その後継続的にCARIOを活用する割合が高い傾向がある。
- ◎男子学生よりも女子学生のほうがCARIOを活用している。

CARIOの活用状況は、学群・学類によって違いが大きい。「現在活用している」および「時々、活用している」と回答した継続的なCARIO活用者の割合は、芸術専門学群（11.1%）、知識情報・図書館学類（10.6%）が相対的に高く、それに対して、国際総合学類、物理学類は低い（ともに0%）。

フレッシュマン・セミナーで活用した割合が高い学類は、調査時点においても継続的にCARIOを活用している割合が高い傾向がある。

男女別では、女子学生の方がCARIOを活用している割合が高い。

全体として、「活用していない」と回答する学生が大半だが、これはCARIOを持っている学年である1・2年生が進学や就職といった具体的な進路選択を経験する前であることが、理由の1つであると考えられる。

表 9.4 CARIO の活用 (学年別 (1.2 年次のみ)、男女別、全体)

|                      | 1 年次   | 2 年次   | 男子     | 女子     | 全体     |
|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 現在、活用している          | 0.9%   | 0.8%   | 1.0%   | 0.7%   | 0.8%   |
| 2 時々、活用している          | 5.2%   | 3.4%   | 2.8%   | 6.4%   | 4.4%   |
| 3 フレッシュマンセミナーでのみ活用した | 14.0%  | 9.1%   | 8.3%   | 16.5%  | 11.7%  |
| 4 活用していない            | 75.4%  | 82.0%  | 82.4%  | 73.1%  | 78.5%  |
| 無効・無回答               | 4.5%   | 4.8%   | 5.5%   | 3.3%   | 4.6%   |
| 合計                   | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

## 9.5 就職活動に役立った情報源について (問 47)

- ◎無回答が非常に多い。就職活動時期が影響。
- ◎就職活動をする学生では、インターネットによる情報収集が突出している。次いで就職情報誌と学外の情報である。
- ◎学内情報の活用は、就職活動をする学生の約 2 割。

就職活動に役立った情報源について、3つまでの複数回答を求めた。無回答が非常に多いが、これは「就職活動をした方と、就職活動中の方が回答してください。」との限定があったためである。3・4年次生の無回答については、3年次生は就職活動時期が影響しており、4年次生は約半数が進学決定（あるいは、進学希望）者であるためであると考えられる。

「インターネットによる企業情報」が突出しているが、次いで「就職情報誌」である。5年前の調査では、「就職情報誌」の割合が30%であったことから、最近の就職活動がインターネットを介して行われていることが伺える。「就職課・キャリア支援室」「OB・OG訪問」は、4年次生になって増えている。

表 9.5.1 就職活動に役立った情報源 (学年別 (3 年次以上)、男女別、全体)

|                       | 3 年次  | 4 年次  | 医 5 年次 | 医 6 年次 | 男子    | 女子    | 全体    |
|-----------------------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 1 就職情報誌               | 6.9%  | 10.6% | 0.0%   | 5.0%   | 3.8%  | 5.4%  | 4.4%  |
| 2 企業からの DM            | 3.9%  | 5.4%  | 0.0%   | 0.0%   | 1.8%  | 2.7%  | 2.2%  |
| 3 インターネットによる企業情報      | 22.4% | 33.3% | 2.2%   | 21.8%  | 12.0% | 16.1% | 13.5% |
| 4 就職課・キャリア支援室         | 1.9%  | 4.7%  | 0.0%   | 0.0%   | 1.2%  | 2.3%  | 1.6%  |
| 5 スチューデントプラザの就職資料コーナー | 2.8%  | 3.8%  | 0.0%   | 1.0%   | 1.2%  | 2.1%  | 1.6%  |
| 6 大学の就職情報提供システム       | 1.3%  | 2.0%  | 0.0%   | 2.0%   | 0.7%  | 0.9%  | 0.8%  |
| 7 就職ガイダンス             | 8.0%  | 7.4%  | 1.1%   | 8.9%   | 3.2%  | 4.7%  | 3.8%  |
| 8 企業によるインターンシップ       | 5.1%  | 4.7%  | 0.0%   | 3.0%   | 1.7%  | 3.3%  | 2.3%  |
| 9 OB・OG 訪問            | 1.6%  | 5.9%  | 0.0%   | 5.0%   | 1.9%  | 1.6%  | 1.8%  |
| 10 その他                | 0.6%  | 2.8%  | 1.1%   | 7.9%   | 0.9%  | 1.0%  | 1.0%  |
| 無効・無回答                | 72.7% | 58.2% | 95.6%  | 65.3%  | 84.8% | 79.1% | 82.7% |

## 9.6 就職活動の学習への影響について（問 48）

◎ 4 年次の約 3 割の学生が、「多少」「非常に」支障が出ていると答えた。

就職活動が大学の学習に支障が出ているかを尋ねた。前問と同様の理由により、無回答が多くなっている。

4 年次になると、約 3 割の学生が「多少は出ている」「非常に出ている」と答えたが、これは就職活動の時期が長期化していることが影響していると考えられる。

表 9.6.1 就職活動の学習への影響（学年別（3 年次以上）、男女別、全体）

|   |               | 3 年次   | 4 年次   | 医 5 年次 | 医 6 年次 | 男子     | 女子     | 全体     |
|---|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 | 支障はまったく出していない | 2.0%   | 4.4%   | 2.2%   | 7.9%   | 1.8%   | 2.1%   | 1.9%   |
| 2 | 支障はほとんど出していない | 8.3%   | 9.0%   | 1.1%   | 14.9%  | 4.0%   | 5.6%   | 4.6%   |
| 3 | 支障が多少は出ている    | 11.5%  | 18.3%  | 1.1%   | 10.9%  | 5.8%   | 9.0%   | 7.0%   |
| 4 | 支障が非常にしている    | 3.5%   | 8.8%   | 0.0%   | 1.0%   | 2.5%   | 3.2%   | 2.8%   |
|   | 無効・無回答        | 74.7%  | 59.4%  | 95.6%  | 65.3%  | 85.9%  | 80.0%  | 83.7%  |
|   | 合計            | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

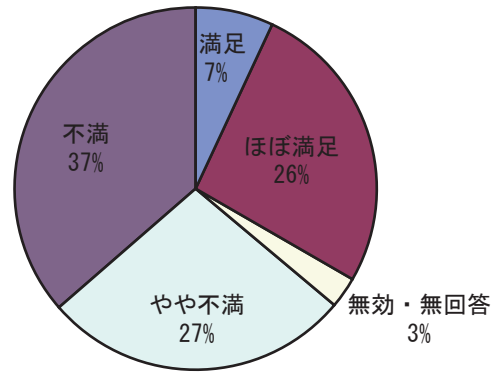
## 第10章 その他

### 10.1 3学期制について (問49)

◎約6割の学生が3学期制に不満。

3学期制の満足度について尋ねた。全体で約6割の学生が「不満」、「やや不満」と回答している。学群・学類別では、社工1・2年次、看護1・2年次、体専1・2年次、人文3・4年次、人間3・4年次において、「不満」と「やや不満」の比率が8割を上回り、特に体専1・2年次では約9割に及んだ。その理由として、他大学の多くが2学期制であるために、夏季休業期間あるいはスケジュールが合わないこと等が挙げられている。この問題は学生担当教員会議におけるクラス連絡会報告などでもたびたび取り上げられてきた。一方、年次別統計によると医学5・6年次で「満足」と「ほぼ満足」が約6割を占めた。3学期制については、その有効性を学生に理解してもらうようにするなど検討していく必要があるかもしれない。

図10.1 3学期制について (全体)

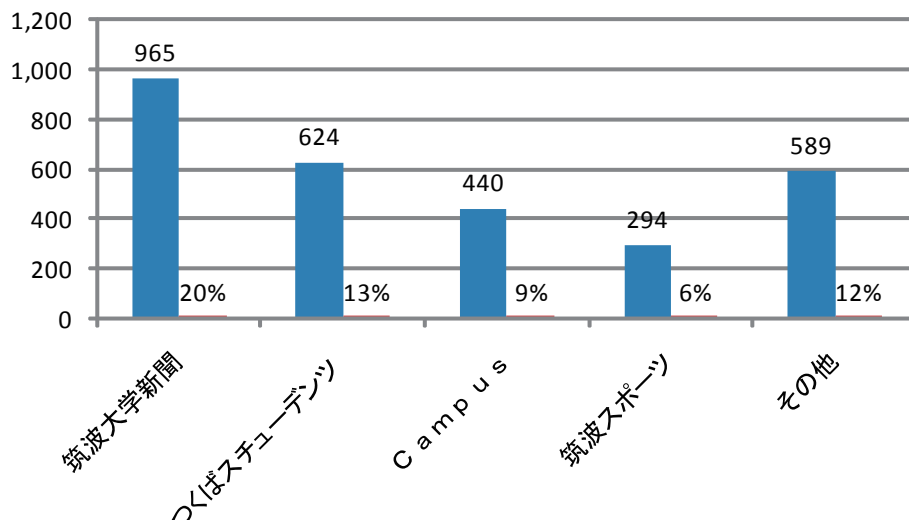


### 10.2 定期的を読む学内広報誌について (問50)

◎筑波大学新聞の定期的読者は20%。

学内広報誌の読まれ方を尋ねた。年次、所属、および男女別による差異はあまり認められなかった。唯一、「筑波スポーツ」が体育専門学群の半数近くの学生に定期的に読まれていることが目立っている。全体としては、「筑波大学新聞」20%、「つくばスチューデント」13%、「Campus」9%、「筑波スポーツ」6%となっている。学内の有用な情報を学生に周知させるため、これらの学内広報誌の読者数をさらに増やす必要がある。

図10.2 学内広報誌の定期的読者 (全体)



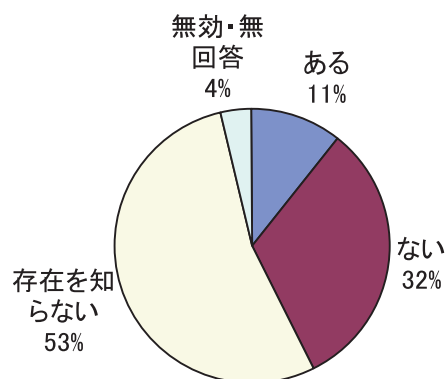


### 10.3 学外研修施設利用の有無について（問 51）

◎約 5 割の学生が「存在を知らない」。

学外研修施設（山中湖、館山、石打）の利用の有無について尋ねた。所属および男女別による差異は認められなかった。1 年次では、約 6 割の学生が「存在を知らない」と回答したが、年次が上がるに従ってその割合は減少し、4 年次では 5 割を切った。学外研修施設とその利用方法を、学生に周知できるように工夫する必要があるだろう。

図 10.3 学外研修施設の利用（全体）



# 第 11 章 自由記述

## 1. はじめに

自由記述欄は、筑波大学の教育環境や学生生活全般に対する要望や提言等を自由に記述することを求める趣旨のものであり、アンケート有効回答数 4,927 件のうち、自由記述欄に回答したものは総数で 883 件を数えた。約 5 分の 1 にあたる。

自由記述欄回答の集計に際しては、回答を大きく以下の 4 つに分類し、さらに小区分を設けてまとめることとした。

- A 制度（経済的支援、カリキュラムなど）に対する要望
- B 教職員に対する要望
- C 施設（空調、図書館、宿舎、食堂・売店など）に対する要望
- D その他

## 2. 記述内容に関する概観

### A 制度に対する要望・不満

#### A1 3 学期制について

回答のあった 883 件のうち、約 4 分の 1 弱にあたる 197 件がこの項目に分類され、そのほとんどが、3 学期制の廃止と 2 学期制への移行を望む声であった。本学の場合、3 学期制・1 時限 75 分・1 日 6 限・通年 3 単位制が連動しているわけで、これらのシステムのいずれかの部分に関わる改善要望・不満回答を含めると、この数はさらに増大する。その理由として最も大きな割合を占めるのが、就職活動にとって決定的に不利である、とするものであった。求人を目的としたさまざまなイベント（セミナーや説明会）は、企業側から一般大学のスケジュールにあわせ、特に 9 月や 2・3 月に集中しておこなわれる。筑波大学のスケジュールでは 9 月は 2 学期の開始期、2・3 月は 3 学期の後半と学期末試験の時期に当たり、授業や試験への出席と企業側イベントへの参加の両立が困難であり、かつこのための欠席に対して時に厳格な教員が見受けられる、といった一連の不満を訴える声が多かった。ほかには休暇期間が短い、切れ切れになる、他大学との交流を図ることができない、課外活動にさきうる時間が限られる、授業間の休み時間 15 分は短すぎる、といった声が挙がっている。このほか、教員側でも 9 月には学会等で休講を余儀なくされる実情を指摘し、休講の多さゆえに 3 学期制を不条理であると指摘する学生の声もあった。

もし、今後も 3 学期制を筑波大学の特色として維持するのであれば、学生に対し、その意義と利点を説得力をもって説明することが必要であるように思われる。

#### A2 経済的支援充実への要望

回答数は 5 件と、数は多くなかったものの、課外活動における一般学生団体への援助を求める声があった。また、世間一般の経済状況の悪化にともない、もっと多くの学生に授業料免除をおこなって欲しい、奨学金制度の給付水準を下げて欲しいなどの要望があった。

#### A3 カリキュラム

回答数は 104 件と 100 件を越え、学生側の要望の多さが目立った。まず、教職科目に関する要望が目につき、これを通常授業で受講できるシステムにして欲しいという要望、あるいは集中講義の日程として土・日が選ばれる傾向にあることへの不満が多かった。また専門科目をもっと有効に履修したいという要望と、広い教養を身に付けるために他学類の授業も柔軟に履修したいという要望は、相半ばする感があったが、これらの不自由さはいずれも A1 に挙げた通年 3 単位制と密接に連動する。通年 4 単位制が一般的な他大

学と比較した場合、積算すると学生にとっての負担量に大きな差を生むことになる。この非合理性への不満も多く見受けられた。その他、体育の必修単位数の相違に対する不満、授業時間（休み時間）の改善要望、芸術専門学群における卒業論文廃止の訴えなどが、目についた。

#### **A4 キャリア・就職関連**

就職支援に対する不満が、29件あった。基本的には、大学として支援体制が確立されていないという不満と、教員の側に就職に対する理解がなく、就職活動に専念できないという不満とに分かれると考えられる。就職説明会を開催する曜日や時間に対する不満も複数回答あった。キャリア教育は、本学においてキャリア支援室の活動とともに、近年とくに力を入れ、またフレッシュマンセミナーFDでは担任教員への周知徹底などを図っているが、その成果が学群生の認識を改めるまでにはまだ時間がかかりそうである。

#### **A5 連絡広報体制**

41件の回答があり、TWINSの掲示板が有効に活用されていないことへの不満と改善要望が目についた。そのほか、専門課程に進む際の指針として、研究室のHPを充実させて欲しいとの声も見られた。また、学生がピラを配布したり集会を開いたりする際の許可申請の必要性を疑問視する声があった。これは、学生の課外活動を大学側が教育の一環と位置づけているために生じるプロセスであり、学生に周知して、その意味を理解させる努力をする必要があると考えられる。

#### **A6 その他**

81件の回答を数えた。その中には、A1に挙げた3学期制にともなう種々のシステムに対する疑念があった。第1時限を9時開始にして欲しい、といった要望もその連関に含まれよう。その他、学群・学類間の交流、他大学との交流、留学生への支援、保健管理センターでのカウンセリング機能の充実、サークル活動への支援などを望む声があった。

### **B 教職員に対する要望・不満**

#### **B1 教員に対する要望・不満**

40件の回答を数え、教員による授業の進め方に対する不満・要望が多く見受けられた。教員は、従来にも増して可能な限り学生の立場に立った分かりやすい授業をすることを求められており、そのための研修会やFDの類にも工夫と促進が必要であろう。

#### **B2 ハラスメント**

セクハラ・パワハラ・アカハラ等を含めて、結果的に3件の回答に留まり、大学院生からはこの項目への回答が多岐にわたったのと対照的であった。「女性にやさしい大学を」との要望は、今後ますます心して受けとめねばならない提言であろう。

#### **B3 事務員の対応への不満**

33件の回答があり、支援室事務職員の窓口対応に対する不満が多く見受けられた。国立大学が法人化された現在では、事務職員においても学生による意見を取り入れ、広い視野で本学の評価を高める努力が必要であると思われる。

#### **B4 その他**

新装なったステューデントプラザのさらなる充実を望む声があった。また、教員との交流の場をさらに増やして欲しいとの要望も見られた。つくば地区は、いわゆる「おとな」の存在がほぼ本学教職員に限られるという、非常に特殊な社会環境を形成している。その意味で教職員は、本学学生に対して全人格的な交わりを求められていると考えるべきなのであろう。

## C 施設に対する要望・不満

### C1 学内施設

117件の回答を数え、冷暖房システムとトイレの改善を求める声が大半であった。そのほか、ロッカーの設置を求める声も多数にのぼったが、これはTXの開通による自宅通学生の増加を反映した要望だといえよう。外灯の増設要望は、C7の防犯に含めて分類することもできようが、合計するとかなりの数にのぼった。

### C2 図書館

13件の回答があった。折悪しく図書館の耐震設備補強工事の時期にあたり、貴重な蔵書を活用できないことに対して強い不満が出された。本学にとって、東京教育大時代以来の蔵書を備える図書館は、確かに大きな魅力であり、ここに夢を膨らませて入学してきた学生にとって、現状は愕然とさせられるものであったろう。学生に対しても納得のゆく説明を果たすべきではなかっただろうか。

### C3 学生宿舎

83件の回答を数え、学生宿舎のあらゆる面に関して、その老朽化・不潔さ・不便さなど、全般的環境の悪さを嘆く声が多くあった。風呂（シャワーの要望）、洗濯機、宿舎内放送などに関する不満が多く、大学としては、限られた予算のなかで、宿舎設備の充実と刷新にどれほどの投資をすべきか、財務面での苦慮を迫られるところである。

### C4 学内食堂・売店

46件の回答があった。この分類には学生宿舎食堂への要望も含まれる。多かったのが価格面での不満であり、味に比して高価格だとする意見が多くを占めた。24時間営業の売店を求める声も多い。

### C5 ペDESTリアンデッキ

ペDESTリアンの破損が事故につながることを危惧する回答をはじめとして、42件という多くの回答が寄せられた。雨天時の滑りやすさ、自転車での通行に伴う危険性などが指摘されている。これは、学生担当教員会議でも年間を通じてほとんどすべての学類から提出されてくる要望であり、大学としては、破損による危険性を認識し、怠りなく配慮を続けることが必要であろう。

### C6 駐輪場・自転車走行・マナー

自転車の常用が日常化している本学の状況を反映し、50件の回答が寄せられた。この中には、駐輪スペースの拡充を望むといった大学側への要望ももちろん含まれているが、自転車による走行マナーの悪さを指摘する声が多くあり、大学としては無灯火防止キャンペーンやマナー向上研修会などを努めて開催するなど、地道な対策を続けるしかないのであろうか。

### C7 防犯

C1でも挙げたが、外灯の増設に関する要望をはじめとして42件の回答があった。宗教勧誘を危惧する声も挙がった。本学の環境からして、種々の事故を防ぐ意味でも、防犯意識は一致協力して高めてゆかねばならない課題であろう。

### C8 キャンパス交通システム

27件の回答があり、多くは学内循環バスの利便性をもっと高めて欲しいとするものであった。確かに朝登校時の混雑などは、ダイヤの見直しにより緩和可能であろう。大学としては、関東鉄道との綿密な話し合いを継続し、より快適なキャンパス作りに協力してもらうための積極性が必要なのではないだろうか。

### C9 その他

ネット環境の改善、リサイクルシステムの構築、無料駐車場の設置要望、サークル活動施設の開放など、47件にのぼるさまざまな要望が寄せられた。ATM設備の稼働時間の延長希望なども見られた。

## D その他

### D1 本アンケートについて

5件の回答に留まったが、本アンケートをそれだけに留まらず、要望に対する対策を講じて欲しいとの希望があった。その他、このアンケートに対して「長すぎる」との感想も見られた。

### D2 その他

回答は20点にのぼったが、本学の環境面での閉鎖性を指摘し、TXを活用するなどしてもっと他大学との交流に精力的に取り組むべきだとする意見が見られた。これはA1などの項目とも大いに関わる点であろう。

## 3. まとめ

以上、実にさまざまな要望・不満が寄せられた。本学のシステムをよく理解していないところから来る誤解も一部にないわけではないが、率直で正直な意見が多くあり、大学としては一人ひとりの要望に、真摯に耳を傾ける姿勢を欠かしてはならないであろう。

## 第 8 回筑波大学学生生活実態調査報告書（平成 20 年度）

平成 21 年 6 月発行

編集 学生生活支援室  
学生担当教員会議

表紙デザイン:田中佐代子(人間総合科学研究科 准教授)  
発行 筑波大学  
つくば市天王台 1-1-1  
☎ 029 (853) 2959

*University of Tsukuba*

